

2 公共社会学科（専門教育科目）

公共社会学基礎論	社会学概論
	社会学史Ⅰ
	社会学史Ⅱ
	公共性の社会学
	社会政策論
	社会学の分析法A
	社会学の分析法B
	現代社会論A（ジェンダー・世代）
	現代社会論B（情報社会論）
	現代社会論C（情報社会と法）
	家族社会学A
	家族社会学B
	福祉社会学
	社会病理学
	社会変動と社会問題
	C S R（企業の社会的責任）論
社会心理学	
人格心理学	

社会調査・情報処理	社会調査法
	社会調査の設計
	データ分析の基礎
	社会統計学Ⅰ
	社会統計学Ⅱ
	質的調査法
	データ処理とデータ解析Ⅰ
	データ処理とデータ解析Ⅱ
	社会調査実習Ⅰ
	社会調査実習Ⅱ
	情報数学
プログラミング概論	

地域社会ネットワーク	地域社会学A
	地域社会学B
	コミュニティ論
	都市社会学
	地域社会分析法A
	地域社会分析法B
	地域社会分析法C
	公共社会学特講A（地域社会学特講）
	公共社会学特講B（環境社会学）
	地理学
	地理学概論
地方自治論	
地域計画論	

アジア国際共生	国際社会学A
	国際社会学B
	国際政治学
	多文化社会論
	世界地理
	東アジア関係史
	韓国の社会と文化
	中国の社会と文化
	イスラム社会論
	文化人類学A
	文化人類学B
国際協力文化交流論	
N P O論	
国際協力論	

関連科目	哲学要論
	倫理学
	日本史概論
	西洋史概論
	法律学概論Ⅰ
	法律学概論Ⅱ
	教育社会学
	社会福祉学概論Ⅰ
	地域福祉論Ⅰ
	地域福祉論Ⅱ
	教育学概論B
	生涯教育論
	社会教育論
	対人心理学
	Webデザイン演習
	情報ネットワーク論
	データベース論
	プログラミング演習
	情報検索システム論
	問題解決演習
	人的資源管理論
	キャリア論
	組織マネジメント
ビジネス倫理	
個人情報法制	

◆	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ	160～171
	卒業論文	172

入学年によって、（斜体）の科目に読替になります。

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会学概論		単位	2
科目名（英語）	Introduction to Sociology		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	中一種、高一種	
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	佐野 麻由子			
授業概要	本講義では、社会学が登場した時代背景、先駆者の学問的関心、社会学の方法を学んだ上で、階級、ジェンダー、エスニシティの不平等といった身近な社会問題の分析を通して社会学の基礎知識を修得する。また、国際協力といった実践の場面で社会学の知識がどのように援用されているかを学ぶ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	テキスト：山田真茂留編著 2018 『グローバル現代社会論』文真堂。			
参考図書・教材等	参考文献：佐藤寛・浜本篤史・佐野麻由子・滝村卓司編 2015 『開発社会学を学ぶための60冊：援助と発展を根本から考えよう』明石書店。 小川（西秋）葉子・川崎賢一・佐野麻由子編 2010 『〈グローバル化〉の社会学：循環するメディアと生命』恒星社厚生閣。 宮島喬・杉原名穂子・本田量久編 2012 『公正な社会とは—教育、ジェンダー、エスニシティの視点から』人文書院。 適宜、必要な資料を授業内で配付する。			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)		
		(DP 2)	現代社会の特徴や社会的課題の解決に向けての社会的な論考について基礎知識を修得し、説明することができる。	
	思考・判断・表現	(DP 3)	現代社会の問題について、論理的な解説ができる。	
		(DP 4)		
	関心・意欲・態度	(DP 5)		
		(DP 6)		
		技能	(DP 7)	
			(DP 8)	
	(DP 9)			
	(DP10)			
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。			
本講義では、社会学的研究に必要な基礎知識を習得し、それらを用いて階級、ジェンダー、エスニシティの不平等といった身近な社会問題を論理的に説明する能力の涵養を目指す。				
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。			
社会学が登場した時代背景、先駆者の学問的関心、社会学の方法、社会学の基礎概念に関する用語の意味が理解できる。				
成績評価の基準				

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A : 80~89	履修目標を達成している
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C : 60~69	到達目標を達成している
不可 : ~59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40	40				20	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○					
思考・判断・表現	(DP3)	○	○					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)						○	
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考		授業時のリアクションペーパーも評価に入れる。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
1	ガイダンス	講義	
2	社会学ってどのような学問？：近代化と社会学の成り立ち	質疑応答、講義	テキスト序章を読む
3	社会学の先駆者とその関心 1：自殺論	質疑応答、講義	配布した社会学関連年表に必要事項を記入し各自完成させていく
4	社会学の先駆者とその関心 2：プロテスタンティズムと資本主義	質疑応答、講義	
5	社会学の成り立ちと比較の視点	質疑応答、講義	
6	近年の国際比較研究 1	質疑応答、講義	テキスト第5~9章を読む
7	近年の国際比較研究 2	質疑応答、講義	
8	書をもって町に出よう：フィールドワークの重要性 1	質疑応答、講義	テキスト第11章を読む
9	書をもって町に出よう：フィールドワークの重要性 2	質疑応答、講義	
10	豊かな社会の不平等：階級	質疑応答、講義、小テスト	テキスト第5章を読む

11	豊かな社会の不平等：ジェンダー	質疑応答、講義・事例検討	テキスト第8章を読む
12	豊かな社会の不平等：エスニシティ	質疑応答、講義	テキスト第1章を読む
13	社会計画と社会運動の社会学 (1)：社会的課題の解決にむけて	質疑応答、講義	テキスト第10章を読む
14	社会計画と社会運動の社会学 (2)：国際協力の現場への援用	質疑応答、講義	
15	まとめ	質疑応答、講義	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会学史 I			単位	2
科目名（英語）	History of Sociology I			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	中一種、高一種		
標準履修年次	2	開講時期	前期		
担当教員	中村晋介				
授業概要	「社会学とは何か」のイメージを与えた上で、「社会学」の歴史について講義する。「社会学」は、19世紀中頃からのヨーロッパの情勢を背景に生み出された。「社会学の歴史」を理解するためには、「資本主義」、「国民国家」、「マルクス＝レーニン主義」、「国家＝社会主義」といった発想の盛衰を踏まえる必要がある。ヨーロッパの近代史（政治史、経済史）を押さえながら、「社会学の歴史」の前半部（20世紀初頭まで）を講義していく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件：特になし 授業内容を理解するために必要な知識：高等学校で学習した「世界史」「日本史」の知識（特に19～20世紀の歴史）。必要に応じて復習しておくこと。				
テキスト	特に使用しない（講義担当者が作成したプリントで講義していきます）				
参考図書・教材等	講義中に適宜指示する				
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談・助言体制	コメントカード、オフィスアワーで質問や意見を受け付ける。事前にアポイントをとった場合は、それ以外の時間でも可能な限り対応します。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	19世紀末～現代にいたる世界史・日本史の大まかな流れを習得する。
		(DP 2)	「マルクス＝レーニン主義」「国家＝社会主義」との対比において、「社会学」の歴史を理解する。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
成績評価の基準	1)「社会学」の目標を理解し、自分の言葉で説明できる。2)誰が、どのような経緯で「社会学」という学問を提唱したかを説明できる。		
S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		

履修目標で示したことに加え、講義時間の都合上、講義内では簡単に触れることしかできなかった事柄について、自ら積極的に学習し、その内容を理解している。
A：80～89 履修目標を達成している。
履修目標で示したことを十分に理解し、自分自身の知識として習得している。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
履修目標で示したことをある程度まで理解し、自分自身の知識として習得している。
C：60～69 到達目標を達成している。
到達目標で示したことについては理解し、自分自身の知識として習得している。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
到達目標で示したことについての理解が不足しており、自分自身の知識として習得しているとは言えない状況である。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80	20					
知識・理解	(DP1)	○	○					
	(DP2)	○	○					
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	講義ガイダンスー「社会」とは何か	それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード(黒板)などに基づいて講義する。	事前学習:高等学校の「世界史」教科書で、19世紀以降のヨーロッパ史を復習。 事後学習:講義範囲の復習
2	19世紀ヨーロッパの政治と経済①ー「市民」と「資本主義」	適宜、コメントカードや質問用紙を配布して、学生の理解度を確認しながら授業を進める。 理解が困難な場合は、積極的に質問に来ること。質問に来た学生に対しては、個別指導を十分に行う。	事前学習:前回の講義内容の復習 事後学習:今回の講義内容の復習
3	19世紀ヨーロッパの政治と経済②ー格差の拡大と第1次世界大戦		事前学習:前回の講義内容の復習 事後学習:今回の講義内容の復習
4	マルクス=レーニン主義①ー「ニセの福音」の登場		事前学習:前回の講義内容の復習 事後学習:今回の講義内容の復習
5	マルクス=レーニン主義②ー後継者たちの暴走		事前学習:前回の講義内容の復習 事後学習:今回の講義内容の復習
6	「社会学」の誕生①ー三賢者の登場		事前学習:前回の講義内容の復習 事後学習:今回の講義内容の復習
7	「社会学」の誕生②ー三賢者の視線		事前学習:前回の講義内容の復習 事後学習:今回の講義内容の復習
8	「社会学」の誕生③ー「理念型」という発想		事前学習:前回の講義内容の復習 事後学習:今回の講義内容の復習
9	「国家=社会主義」①ー新たな「ニセの福音」		事前学習:前回の講義内容の復習 事後学習:今回の講義内容の復習

10	「国家＝社会主義」②－第2次世界大戦	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
11	ヨーロッパからアメリカへ①－シカゴ学派	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
12	ヨーロッパからアメリカへ②－コロンビア学派	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
13	ヨーロッパからアメリカへ③－三賢者以降のヨーロッパ社会学	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
14	社会システム論（序）	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
15	日本における社会学の展開	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会学史Ⅱ		単位	2
科目名（英語）	History of Sociology II		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	2	開講時期	後期	
担当教員	中村晋介			
授業概要	「社会学史Ⅰ」では、主に形成期の巨匠たちを中心に、社会学の歩みを論じた。本講義は、その後の理論社会学の主要な学説を追いながら、「社会的な問題意識」がどう変化したのか（あるいは変化していないのか）を順次紹介・検討する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件：「社会学史Ⅰ」を受講していること 授業内容を理解するために必要な知識：受講生が高等学校時代に使用した「世界史」「日本史」の教科書に掲載されているレベルの、19世紀以後の西洋史、明治維新後の日本史に関する知識、および「社会学史Ⅰ」の講義内容。			
テキスト	特に使用しない（講義担当者が作成したプリントで講義していきます）			
参考図書・教材等	受講生が高等学校時代に使用した「世界史」「日本史」の教科書、またはそれら科目の参考書			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	コメントカード、オフィスアワーで質問や意見を受け付ける。事前にアポイントをとった場合は、それ以外の時間でも可能な限り対応します。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	・社会的な発想、社会学の存在意義について認識する。
		(DP2)	・社会学の歴史について、大学で社会学を専攻した者にふさわしい知識を持つ。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
1)「社会システム論」の基本的な理解、2)「意味学派社会学」の基本的な理解、3)「プラクティス理論」の基本的な理解。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
履修目標で示したことに加え、講義時間の都合上、講義内では簡単に触れることしかできなかった事柄について、自ら積極的に学習し、その内容を理解している。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
履修目標で示したことを十分に理解し、自分自身の知識として習得している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
履修目標で示したことをある程度まで理解し、自分自身の知識として習得している。			

C : 60～69	到達目標を達成している。
到達目標で示したことについては理解し、自分自身の知識として習得している。	
不可 : ～59	到達目標を達成できていない。
到達目標で示したことについての理解不足や、自分自身の知識として習得しているとは言えない状況である。	

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80	20					
知識・理解	(DP 1)	○	○					
	(DP 2)	○	○					
思考・判断・表現	(DP 3)							
	(DP 4)							
関心・意欲・態度	(DP 5)							
	(DP 6)							
技能	(DP 7)							
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	「社会学史 I」の内容復習	それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード(黒板)などに基づいて講義する。	事前学習:高等学校の「世界史」教科書で、19世紀以降のヨーロッパ史を復習。 事後学習:講義範囲の復習
2	社会システム論(パーソンズ社会学)①—秩序はいかにして成立するのか	適宜、コメントカードや質問用紙を配布して、学生の理解度を確認しながら授業を進める。 理解が困難な場合は、積極的に質問に来ること。質問に来た学生に対しては、個別指導を十分に行う。	事前学習:前回の講義内容の復習 事後学習:今回の講義内容の復習
3	社会システム論(パーソンズ社会学)②—社会システムとは何か		事前学習:前回の講義内容の復習 事後学習:今回の講義内容の復習
4	社会システム論(パーソンズ社会学)③—パーソンズへの批判		事前学習:前回の講義内容の復習 事後学習:今回の講義内容の復習
5	現象学的社会学①—「意味」への注目		事前学習:前回の講義内容の復習 事後学習:今回の講義内容の復習
6	現象学的社会学②—現象学の援用		事前学習:前回の講義内容の復習 事後学習:今回の講義内容の復習
7	現象学的社会学③—その衰退と復興		事前学習:前回の講義内容の復習 事後学習:今回の講義内容の復習
8	エスノメソドロロジー①—「妥当さ」の形成		事前学習:前回の講義内容の復習 事後学習:今回の講義内容の復習
9	エスノメソドロロジー②—会話が作り出すもの		事前学習:前回の講義内容の復習 事後学習:今回の講義内容の復習
10	シンボリック・インタラクショナリズム/ラベリング論—主我と客我		事前学習:前回の講義内容の復習 事後学習:今回の講義内容の復習
11	ドラマトウルギー論①—行為と演技		事前学習:前回の講義内容の復習 事後学習:今回の講義内容の復習
12	ドラマトウルギー論②—相互行為儀礼		事前学習:前回の講義内容の復習 事後学習:今回の講義内容の復習

13	プラクティス理論①—権力概念の刷新	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
14	プラクティス理論②—再帰性、親密性の変容	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
15	プラクティス理論③—ハビトゥス、象徴権力	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	公共性の社会学	単位	2
科目名（英語）	Public Sociology	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	
標準履修年次	1年	開講時期	前期
担当教員	阪井 裕一郎		
授業概要	公共社会学科で学ぶうえでの基礎となる「公共」というテーマを社会学の視点から考えていく講義である。長い歴史を有する社会学において、近年大きな注目を集めたのが公共社会学の提唱である。公共社会学は、さまざまな社会事象の現場に関わっている人々と交流・対話することを通して、合意形成の現状と課題を明らかにするという研究方針に特徴がある。本講義では、「公共」や「公共性」に関わる国内外の概念を習得し、そのうえで、多文化共生や格差、家族問題、リスク社会といった具体的なテーマを取り上げて、公共性の観点から課題解決について検討していく。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。		
テキスト	毎回プリントを配布する。		
参考図書・教材等	参考文献：斎藤純一『公共性』岩波書店、2000年／盛山和夫・上野千鶴子・武川正吾編『公共社会学1～3』東京大学出版会、2012年／塩原良和『共に生きる』弘文堂、2012年		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	講義に関する質問・相談は講義終了後もしくは研究室にて受け付けます。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	公共性の特徴と目標、主要テーマについて理解し、説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	公共性に関わる概念を習得し方法に基づき地域社会の課題を整理し、解説することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
「公共性」に関わる国内外の概念を習得し、そのうえで、多文化共生や格差、家族問題、ジェンダー、リスク社会といった具体的なテーマについて正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
公共性に関わる概念を習得し方法に基づき現代社会の課題を整理し、解説することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30					100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	40	20				60
思考・判断・表現	(DP3)	30	10				40
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	イントロダクション		
2	公共性をめぐる諸概念(1)公共性とは何か		
3	公共性をめぐる諸概念(2)自由とは何か		
4	多文化共生社会 (1) 多文化主義		
5	多文化共生社会(2)マイノリティと差別		
6	格差社会と公共性(1)グローバル化と格差社会		
7	格差社会と公共性(2)社会保障を考える	講義形式。適宜 DVD 等映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。	毎回配布する事前・事後学習用の資料を熟読する。
8	ジェンダーと公共圏(1)ケアの公共性		
9	ジェンダーと公共圏(2)就労の観点から		
10	リスク社会(1)リスク社会とは何か		
11	リスク社会(2)具体例で考える		

12	消費社会・個人主義・公共性	
13	メディアと公共性 (1)	
14	メディアと公共性 (2)	
15	まとめ：公共性の社会学	
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会政策論		単位	2
科目名（英語）	Social Policy		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	坂本毅啓			
授業概要	「社会政策論」の講義では、社会保障や労働政策などが中心的に取り上げられることが一般的ですが、本講義では、イギリス型のソーシャルポリシー論の枠組みから、特に社会サービスについて、その基本的概念の理解から、具体的なサービス内容の紹介、今後の課題と展望について扱わせていただきます。労働政策の具体的な内容などについては、労働経済論等を受講されることをお勧めします。具体的には、ソーシャルポリシー論、社会問題とニーズ、社会サービスのメニュー（社会保障、社会福祉、居住福祉、教育福祉等）について、考えていきます。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	中学・高校時代の現代社会等で学んだ社会保障や社会福祉に関する内容について、あらかじめふりかえっておきましょう。また、日々のニュースなどに関心を持ち、社会問題や生活問題について調べるようにしましょう。			
テキスト	毎回、資料を配布します。			
参考図書・教材等	児島亜紀子・伊藤文人・坂本毅啓共編『現代社会と福祉』東山書房、2015年。川村匡由編『社会保障』建帛社、2018年。その他、適宜、資料を紹介させていただきます。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	講義内容やレポートの作成方法などに関する質問は、講義時に相談にのります。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会サービスの基本的なしくみや社会での役割を理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	多種多様で数多くの情報を選別・整理し、地域（社会）の課題についての確にとらえることができる。
		(DP4)	社会問題の解決に向けた方策について、自らの考えを説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
ソーシャルポリシー論、社会問題とニーズ、社会サービスのメニュー（社会保障、社会福祉、居住福祉、教育福祉等）について正確に理解したうえで、自らの考えをわかりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
ソーシャルポリシー論、社会問題とニーズ、社会サービスのメニュー（社会保障、社会福祉、居住福祉、教育福祉等）に関連する用語の意味が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

ソーシャルポリシー論、社会問題とニーズ、社会サービスのメニュー（社会保障、社会福祉、居住福祉、教育福祉等）について正確に理解したうえで、社会政策に関して幾つかの学説も参考にしながら、複数の社会政策に関する論点について自らの考えを分かりやすくまとめることができる。
A：80～89 履修目標を達成している。
ソーシャルポリシー論、社会問題とニーズ、社会サービスのメニュー（社会保障、社会福祉、居住福祉、教育福祉等）について正確に理解したうえで、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
ソーシャルポリシー論、社会問題とニーズ、社会サービスのメニュー（社会保障、社会福祉、居住福祉、教育福祉等）についてある程度理解したうえで、自らの考えをまとめることができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
ソーシャルポリシー論、社会問題とニーズ、社会サービスのメニュー（社会保障、社会福祉、居住福祉、教育福祉等）に関連する用語の意味が理解できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
ソーシャルポリシー論、社会問題とニーズ、社会サービスのメニュー（社会保障、社会福祉、居住福祉、教育福祉等）に関連する用語の意味が理解できない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	60	25	15				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○	○			
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○			
	(DP4)	○	○	○			
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	定期試験については、講義時に具体的に指示をします。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	イントロダクション：講義内容の説明	講義	参考文献の予習
2	社会政策の定義：ソーシャルポリシー、制度、政策	講義	配付資料の復習
3	社会問題とニーズ①：構築主義、社会的必要	講義	参考文献の予習
4	社会問題とニーズ②：貧困、社会的排除	講義	配付資料の復習

5	社会政策と社会保障：社会保障、社会保険、社会扶助	講義	参考文献の予習
6	社会保障制度①：医療保険	講義	配付資料の復習
7	社会保障制度②：年金保険	講義	参考文献の予習
8	社会保障制度③：介護保険	講義	配付資料の復習
9	社会保障制度④：雇用保険	講義	参考文献の予習
10	社会保障制度⑤：労働者災害補償保険	講義	配付資料の復習
11	社会保障制度⑥：公的扶助、生活保護、社会手当	講義	参考文献の予習
12	社会福祉制度①：社会福祉、子ども家庭福祉、障害者総合支援制度	講義	配付資料の復習
13	社会福祉制度②：生活困窮者自立支援制度、居住福祉	講義	参考文献の予習
14	社会福祉制度③：教育福祉、スクールソーシャルワーク	講義	配付資料の復習
15	まとめ	講義	参考文献の予習
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会学の分析法 A		単位	2
科目名（英語）	Sociological Methods of Analysis A		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	小池 高史			
授業概要	エスノメソドロロジー／会話分析の考え方と基礎的な概念を学ぶ。また、その分析法を用いて、日常生活場面の分析を行い、私たちが普段行っていることを記述するということがどのようなことであるのかを学ぶ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト				
参考図書・教材等	授業中に紹介する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	エスノメソドロロジー／会話分析の考え方を理解することができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	エスノメソドロロジー／会話分析の考え方をもとに物事を分析し説明できる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
エスノメソドロロジー／会話分析の考え方をもとに日常生活場面の分析をすることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
エスノメソドロロジー／会話分析の基礎的な用語の意味を説明できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
エスノメソドロロジー／会話分析の考え方をもとに独自の視点から日常生活場面の分析をすることができる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

エスノメソドロジー／会話分析の考え方をもとに日常生活場面の分析をすることができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
エスノメソドロジー／会話分析の基礎的な用語の意味を説明でき、私たちが普段行っていることを記述するという ことの意味を理解できる。
C：60～69 到達目標を達成している。
エスノメソドロジー／会話分析の基礎的な用語の意味を説明できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
エスノメソドロジー／会話分析の基礎的な用語の意味を説明できない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポ ート・小テ スト	授業外レポ ート・宿題	発表	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合		100					100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○				
思考・判断・表現	(DP3)		○				
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	授業時間内に2回小テストを行う(50%ずつ)。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	ガイダンス	講義	配布資料を復習し、分からない点を調べる。
2	会話分析の基礎	質疑応答、講義	配布資料を復習し、分からない点を調べる。
3	カテゴリー化の分析	質疑応答、講義	配布資料を復習し、分からない点を調べる。
4	自己紹介の分析	質疑応答、講義	配布資料を復習し、分からない点を調べる。
5	診療場面の分析	質疑応答、講義	配布資料を復習し、分からない点を調べる。
6	検査の会話の分析	質疑応答、講義	配布資料を復習し、分からない点を調べる。
7	授業内試験1	小テスト	配布資料を復習し、分からない点を調べる。
8	授業内試験1の講評	質疑応答、講義	配布資料を復習し、分からない点を調べる。
9	マッサージ場面の分析	質疑応答、講義	配布資料を復習し、分からない点を調べる。
10	介護・介助場面の会話分析	質疑応答、講義	配布資料を復習し、分からない点を調べる。

11	介護・介助場面の映像分析	質疑応答、講義	配布資料を復習し、分からない点を調べる。
12	授業場面の分析	質疑応答、講義	配布資料を復習し、分からない点を調べる。
13	インタビュー場面の分析	質疑応答、講義	配布資料を復習し、分からない点を調べる。
14	授業内試験 2	小テスト	配布資料を復習し、分からない点を調べる。
15	授業内試験 2 の講評	質疑応答、講義	配布資料を復習し、分からない点を調べる。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会学の分析法 B		単位	2	
科目名（英語）	Sociological Methods of Analysis B		授業コード		
必修・選択	選択	関連資格			
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	柳 永珍				
授業概要	社会学が世界を解析・分析・説明するために発展させてきた多様な「分析方法論」を、①量的分析と質的分析、②把握の分析法と実践の分析法という2つの軸を中心に、理論や概念について事例を挙げながら学んでいく。また、各分析法の特徴や限界を把握した上に、現在の社会を分析することに適用してみる。具体的に、前半には主に社会現象を把握・解析するための分析法を学び、後半は実践・変化につなげるための分析法を学習する。後半は学んだ分析法を活かして現代社会を、チームを形成して分析してみる。最後には、分析法の融合や未来について考えてみる。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。				
テキスト	講義には講演者が準備したPPTを用います。講義中にはPPTをプリントした資料を配付します。				
参考図書 ・教材等	授業で適宜紹介します。				
実務経験を 生かした授業				授業中の 撮影	×
学習相談 ・助言体制	個別の質問・相談に応じます。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会学の分析方法の基礎概念を習得し、量的と質的、分析と実践の差について理解する。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会学の各分析方法の特徴や差を説明できる。 自分が考察したい対象に合わせて適切な社会学の分析法を選択できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会学の分析法の基本的な区別と視点、分析法の内容について正確に理解した上で、各分析法の用例に対する考察を通じて各分析法が持つ特徴及び限界について自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会学の分析法に関する用語や意義が理解できると共に自分が具体的に調べたい社会現象や設定したある課題に対して、適切な分析法を自分なりに選択ができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

社会学の分析法の基本的な区別と視点、分析法の内容について正確に理解した上で、各分析法の用例に対する考察を通じて各分析法が持つ特徴及び限界についても理解し、それを応用して各分析の融合・比較の観点から社会現象の分析ができる。
A：80～89 履修目標を達成している。
社会学の分析法の基本的な区別と視点、分析法の内容について正確に理解した上で、各分析法の用例に対する考察を通じて各分析法が持つ特徴及び限界について自らの考えを分かりやすくまとめることができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
社会学の分析法の基本的な区別と視点、分析法の内容、各分析の特徴と限界についてある程度理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
社会学の分析法の基本的な区別と視点、分析法の内容、各分析の特徴と限界の用語や意味が理解できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
社会学の分析法の基本的な区別と視点、分析法の内容、各分析の特徴と限界の用語や意味が理解できない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	30			50		20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○		○		○	
思考・判断・表現	(DP3)	○		○		○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	社会分析の基本的な見方、何をなぜ分析するのか。	講義	講義の方向、社会学の分析法の意義
2	量的分析法と質的分析法、把握の分析法と実践の分析法	講義	量的と質的、把握と実践の区別による分析法の差
3	分析の価値観、思考実験	講義	分析における先験的前提、中立性と価値性の概念、思考実験の概念
4	モデルと統計の活用、事実充実性、Nudge	講義	統計資料の活用とモデル化、モデルと統計の問題や限界
5	解析的分析、神話論、記号論、演劇論的分析	講義	解析的分析の基礎と応用
6	参与観察とエスノグラフィー	講義	参加型分析法の基礎と応用
7	CBPR論①	講義	CBPR論の基礎概念

8	CBPR 論②	講義	CBPR 論の活用事例、具体的方法論
9	行政組織を通じた実践①	講義	地域改善のための行政組織の実践に関する基礎
10	行政組織を通じた実践②	講義	行政組織を通じた実践の事例分析
11	チーム・プレゼンテーションのテーマ設定及び具体化	討論、質疑応答、コメント	チーム別の発表及び討論準備
12	社会学の分析法の融合、未来	講義	チーム別の発表及び討論準備
13	チーム・プレゼンテーション①	発表、討論、質疑応答、コメント	チーム別の発表及び討論準備
14	チーム・プレゼンテーション②	発表、討論、質疑応答、コメント	チーム別の発表及び討論準備
15	これまでのまとめ	講義	全体内容の整理
備考	上述した講義の順序は、進行状況によって若干の変更の可能性があります。		

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	現代社会論 A（ジェンダー・世代）		単位	2
科目名（英語）	Modern Social Theories A（Gender and Generational Studies）		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2	開講時期	前期	
担当教員	中村晋介			
授業概要	1)伝統的な性別役割分業体制や性差別的な社会慣行が再生産されていく過程の分析、2)世代間による文化や規範意識のギャップについての分析など、社会学におけるジェンダー論、世代論に関係する分野から具体的なトピックを適宜取り上げて紹介する。これを通して「社会的なもの見方や考え方」を習得させ、3年次以降の専門教育に向けての土台作りをする。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件：特になし 授業内容を理解するために、他の社会学系科目をいくつか履修していることが望ましい。			
テキスト	特に使用しない（講義担当者が作成したプリントで講義していきます）			
参考図書・教材等	講義中に適宜指示する			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	コメントカード、オフィスアワーで質問や意見を受け付ける。事前にアポイントをとった場合は、それ以外の時間でも可能な限り対応します。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	ジェンダー・バイアスや世代間ギャップが再生産されていく過程についての知識を修得する。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
1) 伝統的な性別役割分業体制や性差別的な社会慣行が再生産されていく過程、2)世代間による文化や規範意識のギャップが再生産されていく過程について知識を持った上で、それらの再生産過程への向き合い方について自分自身の意見を持つ。			
1) 伝統的な性別役割分業体制や性差別的な社会慣行が再生産されていく過程、2)世代間による文化や規範意識のギャップが再生産されていく過程についての知識を持つ。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
履修目標で示したことに加え、講義時間の都合上、講義内では簡単に触れることしかできなかった事柄について、自ら積極的に学習し、その内容を理解している。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

履修目標で示したことを十分に理解し、自分自身の知識として習得している。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
履修目標で示したことをある程度まで理解し、自分自身の知識として習得している。
C：60～69 到達目標を達成している。
到達目標で示したことについては理解し、自分自身の知識として習得している。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
到達目標で示したことについての理解不足や、自分自身の知識として習得しているとは言えない状況である。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		20	80				
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	イントロダクションー本講義の位置づけ	それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。	事前学習：高等学校の「世界史」教科書で、19世紀以降のヨーロッパ史を復習。 事後学習：講義範囲の復習
2	「男女共同参画社会」の虚実①ー日本における男女格差	適宜、コメントカードや質問用紙を配布して、学生の理解度を確認しながら授業を進める。 理解が困難な場合は、積極的に質問に来ること。質問に来た学生に対しては、個別指導を十分に行う。	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
3	「男女共同参画社会」の虚実②ー「ジェンダー」とは何か		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
4	「男女共同参画社会」の虚実③ー男女格差と「装置」「プラクティス」		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
5	「男女共同参画社会」の虚実④ー「装置」との戦い		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
6	「男女共同参画社会」の虚実⑤ーバックラッシュ現象		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
7	「男女共同参画社会」の虚実⑥ーバックラッシュを乗り越える		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
8	世代をめぐる物語①ー戦後日本に存在してきた「世代」		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
9	世代をめぐる物語②ー「焼け跡世代」「団塊の世代」		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
10	世代をめぐる物語③ー「学生運動」の季節		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習

11	世代をめぐる物語④－「新人類世代／団塊ジュニア世代」	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
12	世代をめぐる物語⑤－「新・新人類」	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
13	世代をめぐる物語⑥－ゼロ年代以降の若者たち	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
14	世代をめぐる物語⑦－「反＝若者論」	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
15	世代をめぐる物語⑧－「反＝若者論」との対峙	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	現代社会論B（情報社会論）			単位	2
科目名（英語）	Modern Social Theories B（Information Society）			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種、上級情報処理士		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	阪井 俊文				
授業概要	メディアが発達し高度に情報化されているということは、現代社会の大きな特徴の一つである。本講義では、「流動化」「個人化」「再帰化」「グローバル化」「消費社会化」といった社会構造・社会変動に関する様々な論点と関連づけながら、情報化がもたらす功罪について考えていく。前半は、情報化に関連する主要な理論の解説を行い、後半では「恋愛」「観光」「音楽」など、身近なトピックが情報化とどのように関連しているのかを考えたい。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。				
テキスト	辻・南田・土橋（編）『メディア社会論』有斐閣，2018，1800円				
参考図書・教材等	講義の中で紹介する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	コメントカードで受け付ける。また講義の前後に、個別の質問・相談等にも応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	情報革命を中心とする情報社会論とともに社会変動論としての情報社会論の特徴を説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	情報社会論の理論や分析方法を用いて、日常生活のコンビニや言語等の事象を論じることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
情報化に関する様々な理論を理解し、それを踏まえながら具体的な社会事象について主体的に分析・考察できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
情報化に関する主要な理論を理解し、それに基づいて現代的な社会事象を説明できる。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
情報化に関する様々な理論を理解し、それを踏まえながら具体的な社会事象について主体的に分析し、新しい見方を提唱できる。			
A：80～89	履修目標を達成している。		

情報化に関する様々な理論を理解し、それを踏まえながら具体的な社会事象について考察できる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
情報化に関する社会学理論を理解し、具体的な社会事象と関連づけて説明できる。
C：60～69 到達目標を達成している。
情報化に関連する社会学理論や専門用語について説明できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
情報化について、社会的な理解ができていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		20	80				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)		○	○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	イントロダクション	講義	テキスト第1章を読む
2	メディアの発達と「流動化」	講義	テキスト第1章を読む
3	インターネットと「個人化」	講義	テキスト第1章を読む
4	再帰的近代化論とメディア	講義	テキスト第1章を読む
5	マクルーハンのメディア論	講義	テキスト第2章を読む
6	マスメディアと近代化	講義	テキスト第2章を読む
7	メディアの変遷と「広告」	講義	テキスト第2、7章を読む
8	メディアの変遷と「権力」	講義	テキスト第4章を読む
9	メディア社会における「健康」	講義	テキスト第7章を読む
10	SNSとアイデンティティ	講義	テキスト第5章を読む
11	メディアと人間関係	講義	テキスト第9章を読む
12	芸術と「コンテンツ」	講義	テキスト第6、10章を読む

13	観光と「疑似イベント」	講義	テキスト第3章を読む
14	ユビキタスとビッグデータ	講義	テキスト第8章を読む
15	まとめとレポート課題の説明	講義	テキスト第11章を読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	現代社会論C（情報社会と法）		単位	2
科目名（英語）	Sociological Methods of Analysis C（Theories of Macrosociology）		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	教職（中学校社会及び高等学校公民）、上級情報処理士	
標準履修年次	2	開講時期	後期	
担当教員	森脇敦史			
授業概要	現代が情報化社会と言われて久しいが、特に近年では、インターネットの発達を契機として情報が持つインパクトが巨大化している。さらに、ビッグデータやAIの利用は、社会・経済秩序の構造そのものに大きな影響を与える一方、プライバシー等の個別的な権利理解だけでなく、法解釈や個人の在り方そのものを変える可能性／危険を有している。本講義では、社会の情報化によって生じる法の変化および、法によって変化する情報社会のあり方を検討する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト				
参考図書・教材等	鈴木秀美・山田健太編著『よくわかるメディア法（第2版）』ミネルヴァ書房（2019年） 曾我部真裕ほか著『情報法概説（第2版）』弘文堂（2019年）			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール（moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp）で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	情報社会の進展と、法の変化との相互作用について理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	結論に至る理由付けを順序立てて説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	現代社会で生じている問題を自ら探索することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
情報社会と法との関わりを、具体的事例と結びつけながら理解する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
情報社会と法との関わりを、具体的事例と結びつけながら説明できること。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業への参加度	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70		30				
知識・理解	(DP 1)						
	(DP 2)	◎					
思考・判断・表現	(DP 3)						
	(DP 4)	◎					
関心・意欲・態度	(DP 5)		○				
	(DP 6)						
技能	(DP 7)						
	(DP 8)						
	(DP 9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／ 進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回 : 通年) 90 分 (30 回 : 半期 2 コ マ連続)
1	ガイダンス……メディアの現状、表現の自由概論	講義	授業内容に関するニュースを読む
2	メディア法①……取材活動の自由	講義	同上
3	メディア法②……名誉毀損	講義	同上
4	メディア法③……ヘイトスピーチ	講義	同上
5	メディア法④……プライバシー	講義	同上
6	メディア法⑤……わいせつ、児童ポルノ、青少年保護条例	講義	同上
7	メディア法⑥……放送制度	講義	同上
8	個人情報保護①……個人情報保護法制の全体像、「個人情報」	講義	同上
9	個人情報保護②……「個人データ」	講義	同上
10	個人情報保護③……「保有個人データ」、「匿名加工情報」	講義	同上
11	情報公開……情報公開制度の必要性、開示対象と手続、不開示情報	講義	同上

12	著作権	講義	同上
13	インターネットと法①……インターネット上の権利侵害	講義	同上
14	インターネットと法②……プロバイダー、検索エンジンの責任	講義	同上
15	情報社会の未来と法解釈……ビッグデータ、AI	講義	同上
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	家族社会学 A		単位	2
科目名（英語）	Family Sociology A		授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格		
標準履修年次	2	開講時期	前期	
担当教員	阪井 裕一郎			
授業概要	本科目では、家族や結婚をめぐるさまざまな具体的な事象について家族社会学の視点から学んでいく。家族社会学の理論や概念を知ること、家族や結婚の歴史的変遷を知ること、そして、さまざまな国や文化における家族のありかたを比較することによって、われわれが「自明」とみなしている家族を相対化し、さまざまな問題に気づくことができる。こうした視点から、これからの家族や家族以外の人間関係がどう変化していくのか、さらには、どのような法制度・政策が必要とされるのかを考えていく。講義で得た知識・考えを使って、自分自身や自分の身の回りについて考えることを重視する（毎回リアクションペーパーを提出する）。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	毎回、講義用プリントも配布する。			
参考図書・教材等	参考文献：永田夏来・松木洋人編『入門 家族社会学』新泉社、2017年／森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学【四訂版】』培風館、1997年／落合恵美子『21世紀家族【第三版】』有斐閣、2004年／岩間暁子ほか『問いからはじめる家族社会学』有斐閣、2015年／比較家族史学会編『現代家族ペディア』弘文堂、2015年。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	講義に関する質問・相談は講義終了後もしくは研究室にて受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会学の家族研究における基礎的な理論を説明することができる。家族社会学の基礎的用語を社会構造の問題として理解する。
	思考・判断・表現	(DP3)	現代の家族が直面しているさまざまな問題とその背景を多角的な視点から理解し、どのような解決策が必要なのか、そして、われわれが日々どのように生きていくべきなのかを考える力を身につけることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会学の家族研究における基礎的な理論について正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
現代の家族が直面しているさまざまな問題とその背景を多角的な視点から理解し、どのような解決策が必要なのかを考える力を身につけることができる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30					100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	40	20				60
思考・判断・表現	(DP3)	30	10				40
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	イントロダクション：家族を疑う	講義形式。適宜 DVD 等映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。	毎回配布する事前・事後学習用の資料を熟読する。
2	家族と世帯：家族変動をとらえる視点と理論		
3	結婚と家族（1）見合い結婚と恋愛結婚		
4	結婚と家族（2）離婚と再婚		
5	結婚と家族（3）多様化するパートナーシップ		
6	少子高齢社会（1）少子化の原因と対策		

7	少子高齢社会 (2) 福祉政策の歴史と国際比較		
8	少子高齢社会 (3) 介護問題をめぐる課題と対策		
9	家族と暴力 (1) 児童虐待を考える		
10	家族と暴力 (2) ドメスティック・バイオレンスを考える		
11	家族と階層再生産:家庭教育と貧困を考える		
12	血縁を疑う:養子縁組と里親制度		
13	「住まい」から問う家族 (1) 家族と住宅の歴史		
14	「住まい」から問う家族 (2) 現代の課題と新たな展開		
15	まとめ		
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	家族社会学 B		単位	2
科目名（英語）	Family Sociology B		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	高等学校教諭一種免許状〈公民〉・中学校教諭一種免許状〈社会〉	
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	阪井 裕一郎			
授業概要	本科目では、家族や結婚をめぐるさまざまな具体的な事象について家族社会学の視点から学んでいく。家族社会学の理論や概念を知ること、家族や結婚の歴史の変遷を知ること、そして、さまざまな国や文化における家族のありかたを比較することによって、われわれが「自明」とみなしている家族を相対化し、さまざまな問題に気づくことができる。特に、LGBT や事実婚、国際結婚といった新たに登場してきた多様な家族に焦点をあてる。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特にないが、家族社会学 A を履修していることが望ましい。			
テキスト	毎回、講義資料を配布する。			
参考図書・教材等	参考文献：永田夏来・松木洋人編『入門 家族社会学』新泉社、2017年／清水浩昭ほか編『家族革命』弘文堂、2004年／岩間暁子ほか『問いからはじめる家族社会学』有斐閣、2015年／比較家族史学会編『現代家族ペディア』弘文堂、2015年／森山至貴『LGBTを読み解く』ちくま新書、2017年			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	講義に関する質問・相談は講義終了後もしくは研究室にて受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	現代家族の状況をあらわす用語である近代家族、家族の多様化、ジェンダー、LGBTなどを社会構造の問題として理解する。
	思考・判断・表現	(DP3)	現代の家族が直面しているさまざまな問題とその背景を多角的な視点から理解し、どのような解決策が必要なのか、そして、われわれが日々どのように生きていくべきなのかを考える力を身につけることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
現代家族を説明するうえで重要となる近代家族、家族の多様化、ジェンダー、LGBTといった用語について正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

現代の家族が直面しているさまざまな問題とその背景を多角的な視点から理解し、どのような解決策が必要なのかを考える力を身につけることができる。

成績評価の基準

S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。

A：80～89 履修目標を達成している。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C：60～69 到達目標を達成している。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70	30					100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	40	20					60
思考・判断・表現	(DP3)	30	10					40
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	イントロダクション	講義形式。適宜 DVD 等映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。	毎回配布する事前・事後学習用の資料を熟読する。
2	家族主義の問題		
3	ワーク・ライフ・バランス(1) 国際比較を中心に		
4	ワーク・ライフ・バランス(2) 男性の育児参加を中心に		
5	LGBT と家族 (1) セクシュアリティとは何か		
6	LGBT と家族 (2) 同性婚を考える		
7	事実婚と同棲		

8	戸籍と夫婦別姓 (1) 戸籍の歴史		
9	戸籍と夫婦別姓 (2) 別姓問題とは何か		
10	生殖補助医療 (1) 人工妊娠中絶／不妊問題／出生前診断		
11	生殖補助医療 (2) 代理母出産／AID など		
12	グローバル化と家族 (1) 国際結婚の歴史と現在		
13	グローバル化と家族 (2) ケア労働者／結婚移住者		
14	近代家族／家族の多様化を再考する		
15	まとめ		
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○														
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他 ()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	福祉社会学	単位	2
科目名（英語）	Welfare Sociology	授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格	
標準履修年次	3年	開講時期	前期
担当教員	吉武 由彩		
授業概要	本講義では、高齢者をめぐる状況、生きがいや生きづらさ、ボランティアと福祉社会などについて学ぶ。福祉社会学の知識を習得し、現代社会における福祉領域をめぐる状況について考察する力を養うことを目的とする。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし		
テキスト	なし		
参考図書・教材等	①福祉社会学会編，2013，『福祉社会学ハンドブック』中央法規出版。②直井道子・中野いく子・和気純子編，2014，『補訂版 高齢者福祉の世界』有斐閣。		
実務経験を生かした授業	授業では、ゲスト講師講義としてボランティア的行為に関する実務経験者による講義を一部予定している。ただし、ゲスト講師の講義の実施予定回は変更することがある。	授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	授業前後の時間およびオフィスアワーを利用して対応する。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	福祉社会学における基礎的知識を理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	現代社会における福祉領域をめぐる状況を批判的な視点から理解し、説明することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
福祉社会学の知識を習得し、現代社会における福祉領域をめぐる状況について、批判的な視点から考察し、意見を言うことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
福祉社会学の知識を習得し、現代社会における福祉領域をめぐる状況について理解している。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合				70			30	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)			○			○	
思考・判断・表現	(DP3)			○			○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回: 通年) 90 分 (30 回: 半期 2 コマ連続)
1	授業概要説明	講義、議論	福祉、福祉社会学に関する配布資料を読む
2	福祉、福祉社会学	講義、議論	福祉、福祉社会学に関する配布資料を読む
3	生きづらさ	講義、議論	生きづらさに関する配布資料を読む
4	生きがい	講義、議論	生きがいに関する配布資料を読む
5	高齢化の状況	講義、議論	高齢化に関する配布資料を読む
6	高齢者と社会関係	講義、議論	高齢者、社会関係に関する配布資料を読む
7	高齢者とケア	講義、議論	高齢者、ケアに関する配布資料を読む
8	福祉コミュニティの形成	講義、議論	福祉コミュニティに関する配布資料を読む
9	ボランティアの研究	講義、議論	ボランティアの研究に関する配布資料を読む
10	献血の現状 (ゲスト講師による講義)	講義、議論	献血の現状に関する配布資料を読む
11	献血の研究	講義、議論	献血の研究に関する配布資料を読む
12	献血の研究	講義、議論	献血の研究に関する配布資料を読む

13	災害と困難、支援	講義、議論	災害、困難、支援に関する配布資料を読む
14	福祉社会と想像力	講義、議論	福祉社会、想像力に関する配布資料を読む
15	まとめ	講義、議論	これまでの配付資料を読み返す
備考	授業内では全体を通して、現代社会における福祉領域をめぐる状況について、個別に意見を言う時間や、グループ・ディスカッションの時間を設ける。授業では、福祉社会学の知識の講義だけではなく、それらの知識を通して、批判的な視点から考察し、意見を言うことを求める。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				授業内では、現代社会における福祉領域をめぐる状況についてグループ・ディスカッションを設ける予定である（受講人数にもよるが、数回予定）。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会病理学		単位	2
科目名（英語）	Theories in Deviant Behavior and Social Problems		授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格	高等学校教諭一種免許状〈公民〉・中学校教諭一種免許状〈社会〉	
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	堤圭史郎			
授業概要	本講義では、逸脱・犯罪・社会問題等を読み解く上で有用な、社会学的なものの見方を学ぶ。逸脱・犯罪・社会問題をどのように読み解くかは、「私たち」の立場やものの考え方に大きく影響されるものである。社会病理学の研究蓄積は、この問題を克服しようとしてきた歴史とも言える。社会学（もしくは「私たち」）が社会的諸事象をどのように捉えてきたか、そして「私たち」がこれから社会問題・逸脱・犯罪を語るならば、それへのいかなる接近が「可能」なのかを理解することを目指す。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	社会学 A・社会学 B を履修していることが望ましい。			
テキスト	資料・プリントを講義時に配布する。また適宜、映像資料等を活用する。			
参考図書・教材等	①仲村祥一編『社会病理学を学ぶ人のために』世界思想社、1986年。②ハワード・S・ベッカー『完訳 アウトサイダーズ』現代人文社、2011年。③岡邊健編『犯罪・非行の社会学 — 常識をとらえなおす視座』有斐閣、2014年。④松本康編『都市社会学・入門』有斐閣、2014年。他、講義中に指示する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	講義内容に関する質問は、講義後もしくは研究室にて応じます。講義の最後にコミュニケーションカードを課すので、講義の感想のみならず、疑問点等を積極的に記してください。また、受講生の状況に応じて、講義内容の変更を検討します。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会病理学に関する基礎的な知識を理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	犯罪・非行や社会問題を批判的な視点から理解し、説明することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会病理学に関する基礎的な知識を理解するとともに、犯罪・非行や社会問題を現代の社会的諸条件のもと批判的な視点から分析し、論理的かつ明快な文章表現により説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
犯罪・非行や社会問題について、社会病理学に関する基礎的な知識をもとに説明することができる。			
成績評価の基準			

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70	30				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)		○	○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	ガイダンス —「社会病理」という用語について	講義	以下の用語を調べる。社会病理・近代化、社会有機体説
2	社会病理学の誕生／社会病理学への批判的視座	質疑応答、講義	近代化、社会有機体説、レッセ＝フェール・同心円地帯仮説
3	社会解体論（1）シカゴ学派の社会調査、同心円地帯仮説	質疑応答、講義	同心円地帯仮説・社会解体、同化
4	社会解体論（2）犯罪・非行の地域的顕在	質疑応答、講義	社会解体、同化・逸脱
5	逸脱行動論序説 —ものの見方としての「逸脱」	質疑応答、講義	逸脱・社会化、分化的接触仮説
6	逸脱は学習される —マリファナ使用者	質疑応答、講義	分化的接触仮説・ホワイトカラー犯罪
7	企業活動と逸脱	質疑応答、講義	ホワイトカラー犯罪・アノミー論
8	逸脱と社会構造 —拝金主義	質疑応答、講義	アノミー論・ボンド理論、いじめの四層構造
9	つながりの欠如が逸脱をもたらす —非行、いじめ	質疑応答、講義、レポート課題の提示	ボンド理論、いじめの四層構造・ラベリング論、スティグマ論

10	「レッテル貼り」が逸脱をもたらす 一冤罪	質疑応答、講義	ラベリング論、スティグマ論・社会問題の構築
11	社会問題はつくられる	質疑応答、講義	社会問題の構築・「ニート」って言うな！
12	社会問題への社会学的検討	質疑応答、講義	「ニート」って言うな！・刑法犯
13	刑法犯の動向	質疑応答、講義	刑法犯・犯罪統計、暗数
14	まとめと課題	課題	課題で論理的な文章が書けるよう予め準備をしておく。
15	課題解説と総括	質疑応答、課題解説、講義	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会変動と社会問題		単位	2
科目名（英語）	Social Change and Social Problems		授業コード	
必修・選択	選択必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	堤 圭史郎			
授業概要	社会病理学・都市社会学・コミュニティ論等の科目に連なる発展科目である。講義では都市の貧困問題（主にホームレス問題）と都心コミュニティ問題を取り上げる予定である。これらの「問題」について、戦後から現代に至るまでの社会変動をふまえ理解できること、問題の当事者がおかれた状況について社会学的視点から把握できるようになることが目標である。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	社会病理学・都市社会学・コミュニティ論のいずれかを履修していることが望ましい。			
テキスト	資料・プリントを講義時に配布する。また適宜、映像資料等を活用する。			
参考図書・教材等	①青木秀男編『ホームレス・スタディーズ』ミネルヴァ書房 2010年。②原口剛他『釜ヶ崎のススム』洛北出版 2011年。③岩田正美『社会的排除』有斐閣 2009年。④鯨坂学他『さまよえる都市・大阪』東信堂 2019年。⑤藤塚吉浩『ジェントリフィケーション』古今書院 2017年。他、講義中に指示する。			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	講義内容に関する質問は、講義後もしくは研究室にて応じる。講義の最後にコミュニケーションカードを課すので、講義の感想のみならず、疑問点等を積極的に記してほしい。また、受講生の状況に応じて、講義内容に変更を加える。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会学の知識をふまえ、現代の社会問題を日本社会の構造変動と関連づけて理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	ホームレス問題、都心コミュニティ問題について、歴史-空間的な視点をふまえ自らの意見を形成し、問題解決への視点を提示することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	ホームレス問題、都市コミュニティ問題の現在について、現代の社会問題を日本社会の構造変動と関連づけて分析・理解することができ、問題の問われるべき争点や解決への方途について論理的かつ明快な文章表現により説明することができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

ホームレス問題、都市コミュニティ問題の現在について、現代の社会問題を日本社会の構造変動と関連づけて分析・理解し説明することができる。。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89 履修目標を達成している。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69 到達目標を達成している。
不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		10	90				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)			○			
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス～戦後日本の社会変動再考	講義	配付資料の通読
2	「ホームレス」の社会問題化／野宿生活の諸相	質疑応答、講義	配付資料の通読
3	野宿者の職歴／寄せ場と野宿	質疑応答、講義	配付資料の通読
4	寄せ場と都市社会	質疑応答、講義	配付資料の通読
5	野宿者の意味世界	質疑応答、講義	配付資料の通読
6	「見えないホームレス」	質疑応答、講義	配付資料の通読
7	家族規範とホームレス	質疑応答、講義	配付資料の通読

8	フォーディズムから見たホームレス問題	質疑応答、講義、レポート課題の提示	配付資料の通読
9	都市の空間構造と社会的不平等	質疑応答、講義	配付資料の通読
10	再都市化とコミュニティ	質疑応答、講義	配付資料の通読
11	福岡市の歴史と構造	質疑応答、講義	配付資料の通読
12	福岡市の都心コミュニティ	質疑応答、講義	配付資料の通読
13	コミュニティと排除ーホームレス問題再び	質疑応答、講義	配付資料の通読
14	都市と共生	質疑応答、講義、	配付資料の通読
15	総括	質疑応答、講義、レポート課題の提示	配付資料の通読
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	CSR（企業の社会的責任）論		単位	2
科目名（英語）	Business and Society		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期集中	
担当教員	小谷典子			
授業概要	持続可能な社会のために、企業はいかに行動すべきか、企業の社会的責任（CSR）の重要性を述べ、産業近代化と企業の経営理念との関連を明らかにし、具体的な企業の社会貢献活動の実態を調べ、開発目標に即して整理する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし			
テキスト	レジュメ資料を配布する			
参考図書・教材等	三浦典子『企業の社会貢献と現代アートのまちづくり』溪水社、2010年 三浦典子『企業の社会貢献とコミュニティ』ミネルヴァ書房、2004年			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	学習相談は最終時間終了時に受け付ける。 質問は小レポートで受け、次の日の授業で回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	専門領域に隣接する諸科学の知識を有している。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会の諸問題に対し、資料を収集・考察し、結論を見出すことができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	企業の社会貢献活動の多様な分野における実態について関心を持ち、資料を収集する。 授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
持続可能な社会にむけて、企業はいかに行動すべきかを考える。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			70	15	15			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○					
思考・判断・表現	(DP3)			○	○			
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	企業と地域社会のかかわり	講義	
2	CSR とは何か	講義	
3	CSR とSDGs (持続可能な開発目標)	講義	
4	近江商人の経営倫理	講義	配布資料を読んで内容を理解する。
5	日本の近代化と企業家の経営理念	講義	
6	日本経団連の企業行動憲章と企業市民性	講義	
7	企業メセナ協議会と企業メセナ活動	講義	
8	企業のCSR活動の実態 1	講義/資料収集とグループ学習	関心ある企業のCSR活動を調べてみる。
9	企業のCSR活動の実態 2	講義/グループ発表	
10	SDGs目標とCSR活動 1 健康・福祉・教育	講義	
11	SDGs目標とCSR活動 2 ダイバーシティ雇用	講義	
12	SDGs目標とCSR活動 3 エネルギー・地球温暖化	講義	配布資料を読んで内容を理解する。
13	SDGs目標とCSR活動 4 海と陸の豊かさ	講義	
14	CSR活動と市民活動との連携	講義	

15	CSR とソーシャルビジネス	講義	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会心理学（社会・集団・家族心理学）			単位	2
科目名（英語）	Social Psychology			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理士 高等学校教諭一種免許状		
標準履修年次	1	開講時期	後期		
担当教員	上野 行良				
授業概要	社会心理学とは、自己と他者に対する意識と対人行動に関する心理学である。この講義では社会心理学の主要なテーマを紹介する。本講義は、テキストを読むことを中心とした授業を行う。社会心理学のテキストを共に読み、内容をまとめ、わからないところを質問する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「心理学概論」「対人心理学」を履修済みであることが望ましい。また「人格心理学」を同時に履修することが望ましい。				
テキスト	なし				
参考図書・教材等	なし				
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談・助言体制	メールでの質問を受け付けます。また課題提出用紙にてされた質問について6問程度を選んで授業中に回答します。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	他者及び自己に対する意識と対人行動についての知識をもっている
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	対人意識や対人行動の問題について主体的に考えることができる
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
自己と他者に対する意識と対人行動に関する心理学的知識を積極的に学習する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
授業の課題を通して自己と他者に対する意識と対人行動に関する心理学的知識を知る。。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
C：60～69 到達目標を達成している。			

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			80	20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○				
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	ステレオタイプ1	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
2	ステレオタイプ2	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
3	ステレオタイプ3	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
4	ステレオタイプ4	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
5	ステレオタイプ5	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
6	基本的な帰属の誤り	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
7	中心ルート・周辺ルート	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
8	復習課題	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
9	社会的促進と抑制	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
10	傍観者効果	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
11	少数派の影響	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
12	制度規範	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
13	集団極性化現象	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
14	集団思考	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
15	復習課題	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				毎回異なるメンバーとグループを作る。 ①前回までの内容に関するチェックテストと採点（事前・事後学習としてテストの準備をすること） ②グループでテキストの輪読をしたあと、各自でテキストをまとめる ④内容の概説 ⑤前回の質問に対する回答 ⑥各自でまとめたものを、グループで見せ合い評価する ⑦与えられたテーマでコメントを書く ⑧グループでコメントを共有する ⑨授業内容についてのコメントと質問を書く 毎回、前回までのテキストを持って来ること。 復習課題のときは、事前に課題を説明するので、準備をして来ること。また、ダウンロードした提示資料を持参すること。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	感情・人格心理学/人格心理学		単位	2
科目名（英語）	Psychology of Emotion and Personality/ Personality Psychology		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理士	
標準履修年次	1	開講時期		
担当教員	上野 行良			
授業概要	福祉社会を支えるためにひとりひとりの人間に対して深い理解をもつことは不可欠です。他者を「嫌な性格」ですまし、自己の問題を「性格を直す」ですますような浅く無意味な対処は知識のなさや誤ったスキーマ処理に起因する態度です。本授業では個人を理解するために必要な心理学的な知識を説明します。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「心理学概論」「対人心理学」を履修済みであることが望ましい。また同時に「社会心理学」を履修していることが望ましい。			
テキスト	なし			
参考図書・教材等	なし			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	人格の概念と形成について心理学的な知識をもっている
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	自己や他者のパーソナリティについて客観的に考えようとする事ができる
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	「個人」を理解するために必要な心理学的な知識を積極的に身につけることができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
授業の説明と課題を通して得た「個人」を理解するために必要な心理学的な知識をもっている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			80	20				
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○				
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	人格心理学・感情心理学とは何か	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
2	人格とは何か	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
3	欠点・性格とは何か	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
4	人格形成の要因	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
5	環境1	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
6	環境2	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
7	マクロな環境1	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
8	マクロな環境2	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
9	復習	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
10	マクロな環境3	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
11	行動を変える1	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
12	行動を変える2	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
13	行動を変える3	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
14	行動を変える4	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
15	復習	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容				全回課題があり、他者とのコミュニケーションがある。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会調査法			単位	2
科目名（英語）	Social Research Methods			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	社会調査士、上級情報処理士、中一種、高一種		
標準履修年次	1年	開講時期	後期		
担当教員	中村 晋介				
授業概要	本学で開講される社会調査関連科目の出発点として、社会調査の意義と諸類型に関する基本的な事項について概論的に講義する。具体的には、社会調査の種類と方法、社会調査の歴史、統計法、社会調査倫理規定、量的調査の諸段階、質的調査の諸段階などについて順番に述べていく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件：特になし 授業内容を理解するために必要な知識：授業内容を理解する上で、他の社会学系の講義を同時履修または履修済みであることが望ましい。				
テキスト	使用しない（講義担当者が作成したプリントで講義していきます）				
参考図書・教材等	講義中に適宜指示する				
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談・助言体制	コメントカード、オフィスアワーで質問や意見を受け付ける。事前にアポイントをとった場合は、それ以外の時間でも可能な限り対応します。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	問題意識に応じて、適切な社会調査の方法を選択し、遂行できる能力を修得する。
		(DP 4)	調査で得られたデータを適切に整理し、報告書やエスノグラフィーを作成できる能力を修得する。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	社会調査において、自らの問題意識や研究設問を適切に設定する能力を修得する。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会調査の種類と方法、社会調査の歴史、統計法、社会調査倫理規定、量的調査の諸段階、質的調査の諸段階など、講義中に取り上げたテーマに関して、実践的な知識を幅広く持つ。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会調査の種類と方法、社会調査の歴史、統計法、社会調査倫理規定、量的調査の諸段階、質的調査の諸段階といったテーマにおいて最低限の知識を持つ。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
履修目標で示したことに加え、講義時間の都合上、講義内では簡単に触れることしかできなかった事柄について、自ら積極的に学習し、その内容を理解している。			

A：80～89	履修目標を達成している。
履修目標で示したことを十分に理解し、自分自身の知識として習得している。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
履修目標で示したことをある程度まで理解し、自分自身の知識として習得している。	
C：60～69	到達目標を達成している。
到達目標で示したことについては理解し、自分自身の知識として習得している。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
到達目標で示したことについての理解が不足しており、自分自身の知識として習得しているとは言えない状況である。	

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80	20					100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)	○	○					
	(DP4)	○	○					
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○					
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	イントロダクションー基本用語の解説	それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。	事前学習：社会調査について独自に調べる 事後学習：今回の講義内容の復習
2	社会調査の目的と必要性①ー現代日本で行われている社会調査		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
3	社会調査の目的と必要性②ー近代以前の社会調査	適宜、コメントカードや質問用紙を配布して、学生の理解度を確認しながら授業を進める。	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
4	社会調査の目的と必要性②ー社会福祉学と社会調査		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
5	社会調査の目的と必要性③ーアメリカ社会学と社会調査	理解が困難な場合は、積極的に質問に来ること。質問に来た学生に対しては、個別指導を十分に行う。	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
6	社会調査の事前準備①ー量的調査と質的調査		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
7	社会調査の事前準備②ー先行研究の探し方		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
8	社会調査の事前準備③ー心構えと調査倫理		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
9	量的調査の方法①ーサンプリングから配票まで		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
10	量的調査の方法②ー調査票・質問文の作り方		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習

11	量的調査の方法③—量的調査の分析方法	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
12	質的調査の方法①—全体的な進め方	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
13	質的調査の方法②—面接の方法	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
14	質的調査の方法③—フィールドノートと構造化	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
15	質的調査の方法④—エスノグラフィの書き方	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク												○					
その他（ ）																	
内容			少人数のグループに分かれて事例検討を行い、検討結果を発表する。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会調査の設計		単位	2
科目名（英語）	Planning Social Research		授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格	社会調査士、上級情報処理士	
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	吉武 由彩			
授業概要	本講義では、社会調査の設計を学ぶ。具体的には、社会調査の目的、方法、企画と設計、仮説構成、サンプリング、質問文の作成、データ整理、質的調査の諸技法などを学ぶ。講義は「社会調査法」を履修していることを前提にして進める。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	本講義は社会調査士資格 B 科目に相当する。「社会調査法」を履修していることを前提に授業を進める。テキスト持参を前提に講義を行う。			
テキスト	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編,2013, 『新・社会調査へのアプローチ』 ミネルヴァ書房.			
参考図書・教材等	なし			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	授業前後の時間およびオフィスアワーを利用して対応する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	社会調査の諸段階を理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	社会調査を企画することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会調査の目的、方法、企画と設計、仮説構成、サンプリング、質問文の作成、データ整理、質的調査の諸技法、について正確に理解し、社会調査を企画することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会調査の目的、方法、企画と設計、仮説構成、サンプリング、質問文の作成、データ整理、質的調査の諸技法、について用語の意味が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合			70				30	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○				○	
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○				○	
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	授業概要説明	講義	テキスト2章を読む
2	調査目的: テーマ設定と文献収集	講義 テキスト2章	テキスト2章を読む
3	調査方法と調査方法の決め方: 社会調査の種類	講義 テキスト1章	テキスト1章を読む
4	調査企画と設計(1)	講義 テキスト6章	テキスト6章を読む
5	調査企画と設計(2)	講義 テキスト6章	テキスト6章を読む
6	仮説構成	講義 テキスト3章	テキスト3章を読む
7	対象者の選定とサンプリング(1)	講義 テキスト5章	テキスト5章を読む
8	対象者の選定とサンプリング(2) 小テスト1 (持ち込みなし)	講義 テキスト5章	テキスト5章を読む
9	質問文・調査票の作成(1)	講義 テキスト4章	テキスト4章を読む
10	質問文・調査票の作成(2)	講義 テキスト4章	テキスト4章を読む
11	調査実施方法とデータの整理	講義 テキスト6章	テキスト6章を読む
12	質的調査の諸技法と留意点	講義 テキスト8章	テキスト8章を読む

13	質的調査の手順(1)	講義 テキスト9章	テキスト9章を読む
14	質的調査の手順(2)	講義 テキスト9章	テキスト9章を読む
15	まとめ 小テスト2(持ち込みなし)	講義	テキスト全体を読み返す
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	データ分析の基礎		単位	2
科目名（英語）	Introduction to Data Analysis		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	高等学校教諭、中学校教諭、社会調査士、上級情報処理士	
標準履修年次	1年	開講時期	前期	
担当教員	坂 無 淳			
授業概要	受講生がデータ分析の基礎的な方法を身につけることを目標とする。現代社会の状況把握や問題解決など目的に応じたデータを入手して内容を読み取り、データ分析を行なって他者との効果的な議論を行うための基本的な方法を学ぶ。各種の公的統計や調査報告書の入手方法とその適切な読み方、データを数値や図表で表現する方法、その他の基礎的なデータ分析について講義する。受講生自身が基礎的なデータ分析を行って、データを活用（理解・分析・提示など）する方法を学ぶ。また、中学社会・高等学校公民科の教員免許状取得のための科目でもあるため、科目指導の基礎的スキルについてもふれる（授業計画の*）。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	高校で学習した統計に関する知識と重なる部分があるので、よく復習しておくこと。			
テキスト	テキスト：廣瀬毅士・寺島拓幸『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010、2600円			
参考図書・教材等	参考文献：岩井紀子・保田時男『調査データ分析の基礎—JGSS データとオンライン集計の活用』有斐閣、2007ほか			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問は授業内・授業前後に随時受け付ける。また、受講生の状況に応じて授業内容に変更を加える場合がある。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	社会学で使われるデータ分析の基本的な知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP 3)	社会的事象に関するデータをもとに論理的な考察と判断ができる。
		(DP 4)	データ分析の結果を適切かつ効果的に表現することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
目的に応じたデータを入手して読み取り、データ分析を行なう知識と技能について、正確に理解したうえで、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
目的に応じたデータを入手して読み取り、データ分析を行なう知識と技能について、基本的な理解ができている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		授業内課題・授業への参加度	宿題・授業外レポート					合計
総合評価割合		60	40					100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○					
思考・判断・表現	(DP3)	○	○					
	(DP4)	○	○					
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	ガイダンス: データを土台とした議論の重要性	講義、授業課題ほか	授業で指示するテキストと授業資料の予習と復習。
2	データを活用するための基礎知識 (*統計やデータ分析に関する社会科・公民科のカリキュラム構成と教材開発)	講義、授業課題ほか	授業で指示するテキストと授業資料の予習と復習。
3	統計の種類と役割	講義、授業課題ほか	授業で指示するテキストと授業資料の予習と復習。
4	既存統計資料や調査報告書の収集と読み方 (具体例と活用方法) (*統計資料をもとに社会的課題について議論する方法)	講義、授業課題ほか	授業で指示するテキストと授業資料の予習と復習。
5	1つの質的変数を記述する: 単純集計	講義、授業課題ほか	授業で指示するテキストと授業資料の予習と復習。
6	1つの量的変数を記述する: 基本統計量 (代表値、散布度ほか)	講義、授業課題ほか	授業で指示するテキストと授業資料の予習と復習。
7	異なる尺度上の値を比較する: 標準化ほか	講義、授業課題ほか	授業で指示するテキストと授業資料の予習と復習。
8	データを視覚化する: グラフの読み方・作り方 (*さまざまな統計資料・調査報告書を教材として活用する方法と留意点、教材研究)	講義、授業課題ほか	授業で指示するテキストと授業資料の予習と復習。
9	2つの量的変数の関連をみる: 相関係数	講義、授業課題ほか	授業で指示するテキストと授業資料の予習と復習。

10	2つの量的変数の関連をみる：回帰分析（因果関係と相関関係）	講義、授業課題ほか	授業で指示するテキストと授業資料の予習と復習。
11	3つの量的変数の関連をみる：偏相関係数（疑似相関）	講義、授業課題ほか	授業で指示するテキストと授業資料の予習と復習。
12	2つの質的変数の関連をみる：クロス集計	講義、授業課題ほか	授業で指示するテキストと授業資料の予習と復習。
13	2つの質的変数の関連をみる：クロス集計の関連係数	講義、授業課題ほか	授業で指示するテキストと授業資料の予習と復習。
14	3つの質的変数の関連をみる：3重クロス集計（*さまざまな分析手法を教材として活用する方法と留意点、教材研究）	講義、授業課題ほか	授業で指示するテキストと授業資料の予習と復習。
15	まとめ：推測統計学と多変量解析の基礎（*データを提示して議論する方法と教材の活用法）	講義、授業課題ほか	授業で指示するテキストと授業資料の予習と復習。
備考	授業内で行う作業・課題やレポート作成は、履修学生の知識、パソコン操作技術などによって、ある程度進み具合が異なることが予想される。授業内でも標準的な時間をとるが、時間内に作業が終わらなかった回は各自必ず復習し、次回までに理解してくる。積み重ねが重要なので、疑問点は質問をし、早期の解決を図ること。		

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会統計学 I		単位	2
科目名（英語）	Social Statistics I		授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格	社会調査士、上級情報処理士、認定心理士	
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	坂 無 淳			
授業概要	社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の基礎について学ぶ。記述統計学・推測統計学の基本的な知識と分析手法を中心に、統計的データを適切に読み、まとめ、分析するための方法を学ぶ。そのことを通じて現代社会について様々な角度から適切な分析と議論ができるようになることを目指す。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「データ分析の基礎」を履修していることが望ましい（履修している学生は復習をしておき、履修していない学生は必ず各自テキスト等で自習しておくこと）。			
テキスト	テキスト：岩井紀子・保田時男『調査データ分析の基礎—JGSS データとオンライン集計の活用』有斐閣、2007、2800 円			
参考図書・教材等	参考文献：廣瀬毅士・寺島拓幸『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010 ほか			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問は授業内・授業前後に随時受け付ける。また、受講生の状況に応じて授業内容に変更を加える場合がある。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	社会統計学に関する基本的な知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP 3)	社会的事象に関するデータについて社会統計学の知識をもとに論理的な考察と判断ができる。
		(DP 4)	社会統計学の手法を使って分析の結果を適切かつ効果的に表現することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の知識と技能について、正確に理解したうえで、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の知識と技能について、基本的な理解ができている。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		授業内課題・授業への参加度	宿題・授業外レポート					合計
総合評価割合		60	40					100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○					
思考・判断・表現	(DP3)	○	○					
	(DP4)	○	○					
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	ガイダンス、調査データとは何か	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
2	社会調査の手順の概要	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
3	多様な分析の方向性	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
4	既存統計資料やデータの収集と活用の方法	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
5	度数分布表	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
6	グラフ	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
7	代表値とばらつき	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
8	標準化、複数回答の扱い方	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
9	2変数のクロス集計表	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
10	クロス集計表の関連を表す統計量	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
11	3変数のクロス集計表	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。

12	相関係数、偏相関係数	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
13	相関と因果、回帰分析の基礎	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
14	確率論と推測統計学の基礎	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
15	まとめ	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
備考	授業内で行う作業・課題やレポート作成は、履修学生の知識、パソコン操作技術などによって、ある程度進み具合が異なることが予想される。授業内でも標準的な時間をとるが、時間内に作業が終わらなかった回は各自必ず復習し、次回までに理解してくる。積み重ねが重要なので、疑問点は質問をし、早期の解決を図ること。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会統計学Ⅱ		単位	2
科目名（英語）	Social Statistics II		授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格	社会調査士、上級情報処理士	
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	坂 無 淳			
授業概要	社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の基礎について学ぶ。記述統計学に加えて統計的推定や統計的検定などの推測統計学を学ぶ。また、多変量解析からいくつかの基本的な分析手法を取り上げる。そのことを通じて現代社会について様々な角度から適切な分析と議論ができるようになることを目指す。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「社会統計学Ⅰ」を履修していること。そのほか「データ分析の基礎」を履修していることが望ましい（両科目の復習をしておくこと）。			
テキスト	テキスト：岩井紀子・保田時男『調査データ分析の基礎—JGSS データとオンライン集計の活用』有斐閣、2007、2800円			
参考図書・教材等	参考文献：廣瀬毅士・寺島拓幸『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010ほか			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問は授業内・授業前後に随時受け付ける。また、受講生の状況に応じて授業内容に変更を加える場合がある。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	社会統計学に関する基本的な知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP 3)	社会的事象に関するデータについて社会統計学の知識をもとに論理的な考察と判断ができる。
		(DP 4)	社会統計学の手法を使って分析の結果を適切かつ効果的に表現することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の知識と技能について、正確に理解したうえで、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の知識と技能について、基本的な理解ができている。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		授業内課題・授業への参加度	宿題・授業外レポート					合計
総合評価割合		60	40					100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○					
思考・判断・表現	(DP3)	○	○					
	(DP4)	○	○					
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	ガイダンス、記述統計学と推測統計学	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
2	統計的推定の考え方① (無作為抽出、点推定、区間推定ほか)	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
3	統計的推定の考え方② (無作為抽出、点推定、区間推定ほか)	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
4	統計的検定の考え方 (帰無仮説と対立仮説、検定の手続きほか)	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
5	クロス集計表① (クロス集計表、3重クロス集計表、独立性の検定ほか)	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
6	クロス集計表② (クロス集計表、3重クロス集計表、独立性の検定ほか)	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
7	クロス集計表③ (クロス集計表、3重クロス集計表、独立性の検定ほか)	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
8	平均値に関する推定と検定① (平均値の推定ほか)	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
9	平均値に関する推定と検定② (t検定ほか)	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。

10	平均値に関する推定と検定③(分散分析ほか)	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
11	相関係数、偏相関係数と検定	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
12	回帰分析①(回帰分析の基礎ほか)	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
13	回帰分析②(重回帰分析ほか)	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
14	回帰分析③(回帰分析の応用ほか)	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
15	まとめ その他の統計分析	講義、授業課題ほか	テキストと授業資料の予習と復習。各回の授業で次回の該当箇所を指示する。
備考	授業内で行う作業・課題やレポート作成は、履修学生の知識、パソコン操作技術などによって、ある程度進み具合が異なることが予想される。授業内でも標準的な時間をとるが、時間内に作業が終わらなかった回は各自必ず復習し、次回までに理解してくる。積み重ねが重要なので、疑問点は質問をし、早期の解決を図ること。		

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	質的調査法			単位	2
科目名（英語）	Qualitative Research Methods			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会調査士		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	中村晋介				
授業概要	社会調査は、大規模なアンケート調査に代表される量的調査と、インタビューや参与観察、あるいは文書資料の解読といった技法を用いる質的調査の2通りに分類される。講義では、このうち質的調査の方法を学ぶ。また、これを通して、受講生は「社会学」的な考え方／問題設定とはどういうものかを、より深く理解することになる。なお、人類学など、関連する領域における質的調査についても言及する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件：特になし 授業内容を理解するために必要な知識：「社会調査法」を受講していることが望ましい。				
テキスト	使用しない（講義担当者が作成したプリントで講義していきます）				
参考図書・教材等	講義中に適宜指示する				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	コメントカード、オフィスアワーで質問や意見を受け付ける。事前にアポイントをとった場合は、それ以外の時間でも可能な限り対応します。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	問題意識に応じて、適切な質的調査法を企画・遂行する能力を習得する。
		(DP4)	収集されたデータを的確に整理し、倫理面に配慮したエスノグラフィーを作成する能力を習得する。
	関心・意欲・態度	(DP5)	社会問題に対して、科学的な問題意識と研究設問を立てる能力を習得する。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	1)質的調査法を用いた社会調査を企画・実践し、エスノグラフィーの形式で研究成果を発表できる能力を習得する。2)インフォーマントとの距離の取り方や調査倫理など、質的調査を実践するにあたっての注意事項を、先人の経験をもとに説明できる能力を習得する。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
到達目標	1)大学教員の指導のもと、質的調査法を用いた社会調査を企画・実践し、エスノグラフィーの形式で研究成果を発表できる能力を習得する。2)質的調査を実践するにあたって注意すべき事項について、一定の知識を持つ。		
成績評価の基準	S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		

履修目標で示したことに加え、講義時間の都合上、講義内では簡単に触れることしかできなかった事柄について、自ら積極的に学習し、その内容を理解している。
A：80～89 履修目標を達成している。
履修目標で示したことを十分に理解し、自分自身の知識として習得している。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
履修目標で示したことをある程度まで理解し、自分自身の知識として習得している。
C：60～69 到達目標を達成している。
到達目標で示したことについては理解し、自分自身の知識として習得している。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
到達目標で示したことについての理解が不足しており、自分自身の知識として習得しているとは言えない状況である。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70		30				
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)	○	○				
	(DP4)	○	○				
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○				
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	イントロダクションー「科学的」な社会調査とは	それぞれ、「授業内容」に即した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）に基づいて講義する。 受講生の理解度を確認するために、3回程度、ミニレポート形式の課題（宿題）を出す。	事前学習：社会調査について独自に調べる 事後学習：今回の講義内容の復習
2	質的調査とは何か①ー質的調査と量的調査		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
3	質的調査とは何か②ー質的調査の諸技法（1）		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
4	質的調査とは何か③ー質的調査の諸技法（2）		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
5	質的調査の科学性①ー質的調査の長所と短所		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
6	質的調査の科学性②ー「科学的」であることの意味		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
7	文化人類学／社会人類学における質的調査		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
8	フィールドワークと問題意識①ー仮説と研究設問の作り方		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
9	フィールドワークと問題意識②ーグラウンデッド・セオリー・アプローチ		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習

10	フィールドに立つ①ーインフォ ーマントの選出	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
11	フィールドに立つ②ー「観察する ／される」ことの影響	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
12	フィールドノーツの作成①ー作 成の方法、インタビューの諸技法	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
13	フィールドノーツの作成②ーコ ーディングと構造化	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
14	エスノグラフィーの作成①ーエ スノグラフィーの書き方	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
15	エスノグラフィーの作成②ー倫 理と客観性	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	データ処理とデータ解析 I		単位	1
科目名（英語）	Data Processing and Data Analysis I		授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格	上級情報処理士・社会調査士、中一種、高一種	
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	石崎 龍二			
授業概要	<p>社会学・心理学・教育学等に必要統計解析の基礎とその応用を、コンピュータで統計処理を行う演習を通して学習する。具体的には、基本統計量や度数分布などの記述統計、母平均・母比率・母分散に関する区間推定、検定などの推測統計のデータ処理と分析の方法を学習する。つぎに変数間の関係の分析方法や回帰分析を学ぶ。</p> <p>以上のデータ処理と解析法を学んだ後、グループ単位でミニ調査を実施し、統計解析を行い、報告書を作成する。こうした演習を通して、卒業論文等の課題研究における主張や仮説を検証するデータの処理と解析方法、統計解析を基礎にした議論の展開を身につける。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	独自演習用テキストを配付する。			
参考図書・教材等	①白砂堤津耶「例題で学ぶ初歩からの統計学」第2版、日本評論社、2015年、②大谷信介他「社会調査へのアプローチ」第2版、ミネルヴァ書房、2005年、③青木繁伸「Rによる統計解析」オーム社、2009年			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	量的・質的データの集計や基礎的な統計解析の方法を理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	量的・質的データの集計結果や基礎的な統計解析法により解析された結果を適切に解釈できる。
		(DP4)	データに応じて集計や基礎的な統計解析の方法を適切に選択できる。 基礎的な集計や統計解析を行った結果を的確にまとめ、報告できる。 (社会福祉学科はDP4該当なし)
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	データの単純集計、度数分布の作成ができる。 量的データの基本統計量を算出できる。 量的データの母平均・母比率・母分散の区間推定・検定、2群の検定ができる。 質的変数間のクロス集計の作成、量的変数間の相関係数の算出ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		

量的・質的データの集計や基礎的な統計解析の方法を理解しており、データに応じて集計や基礎的な統計解析を適切に行い、結果を的確にまとめ、報告できる。

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
------	--

量的・質的データの集計や基礎的な統計解析の方法を理解しており、データに応じて集計や基礎的な統計解析の方法を適切に選択できる。

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A：80～89	履修目標を達成している
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C：60～69	到達目標を達成している
不可：～59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	確認テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		10	40			50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	◎			○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	◎			○	
	(DP4)	○	◎			○	
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			◎		○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	記述統計と推測統計について概説	演習・確認テスト	データの尺度の復習
2	記述統計－単純集計表、度数分布表	演習・確認テスト	度数分布の階級数・階級幅の復習
3	記述統計－分布の代表値、散布度	演習・確認テスト	平均値、最頻値、中央値、分散、標準偏差などの復習
4	記述統計から推測統計へ－標準得点と偏差値、正規分布	演習・確認テスト	データの標準化、正規分布などの復習

5	推測統計－母平均、母比率、母分散の点推定・区間推定	演習・確認テスト・レポート 課題提示	標準誤差の復習、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
6	推測統計－母平均、母比率、母分散の検定	演習・確認テスト	帰無仮説、有意確率などの意味、Z検定、t検定、カイ二乗検定の復習
7	推測統計－対応のない2群の検定	演習・確認テスト	対応のない2群の検定の復習
8	推測統計－対応のある2群の検定	演習・確認テスト	対応のある2群の検定の復習
9	質的変数における2変数間の関係－クロス集計、カイ二乗検定	演習・確認テスト	カイ二乗検定・クラメルの連関係数などの復習
10	量的変数における2変数間の関係－相関分析（相関係数、偏相関係数）	演習・確認テスト・レポート 課題提示	相関係数・偏相関係数などの復習、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
11	調査データの解析①－調査内容について話し合い	グループワーク・確認テスト	作成した質問紙の集計・分析方法の確認
12	調査データの解析②－質問項目の作成・ミニ調査実施	グループワーク・確認テスト	入力データのチェック
13	調査データの解析③－調査データの集計（単純集計・クロス集計）	グループワーク・確認テスト	調査データの分析結果のチェック
14	調査データの解析④－調査データの分析（仮説の検定・変数間の関係）	グループワーク・確認テスト	調査データの分析結果のチェック
15	調査データの解析⑤－調査報告書作成（結果及び考察・対策を含む）	グループワーク・確認テスト	調査データの報告書のチェック
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習														○	○	○	○	○	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク														○	○	○	○	○	
その他（演習）				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容				毎回の授業でデータ処理の演習を行う。第11回からはグループワークを行う。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	データ処理とデータ解析II		単位	1
科目名（英語）	Data Processing and Data Analysis II		授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格	上級情報処理士・社会調査士	
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	石崎 龍二			
授業概要	<p>社会学・心理学・教育学等に必要統計解析の基礎とその応用について、コンピュータでの統計処理演習を通して学習する。「データ処理とデータ解析I」で学習した記述統計、推測統計、2変数間の相関分析、分散分析を基礎として、量的データ及び質的データの多変量解析を学ぶ。</p> <p>以上のデータ処理と解析法を学んだ後、グループ単位でミニ調査を実施し、統計解析を行い、報告書を作成する。こうした演習を通して、卒業論文等の課題研究における主張や仮説を検証するデータの処理と解析方法、統計解析を基礎にした議論の展開を身につける。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「データ処理とデータ解析I」を履修していること。			
テキスト	独自演習用テキストを配付する。			
参考図書・教材等	①駒沢勉・橋口捷久、石崎龍二著、赤池弘次監修、『新版 パソコン数量化分析』、朝倉書店、1998年（6,264円）、②石村貞夫著、『すぐわかる多変量解析』、東京図書、1992年（2,160円）、③菅民郎著、『多変量解析の実践 下』、現代数学社、1993年（2,916円）			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	量的・質的データの多変量解析の方法を理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	量的・質的データの多変量解析により解析された結果を適切に解釈できる。
		(DP4)	データに応じて多変量解析の方法を適切に選択できる。 多変量解析を行った結果を的確にまとめ、報告できる。(社会福祉学科はDP4該当なし)
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	重回帰分析・ロジスティック回帰分析・判別分析・主成分分析・因子分析ができる。 数量化理論第I類・II類・III類の分析ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
量的・質的データの多変量解析の方法を理解しており、データに応じて多変量解析を適切に行い、結果を的確にまとめ、報告できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
量的・質的データの多変量解析の方法を理解しており、データに応じて多変量解析の方法を適切に選択できる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A：80～89	履修目標を達成している
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C：60～69	到達目標を達成している
不可：～59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	確認テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		10	40			50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	◎		○	
思考・判断・表現	(DP3)		○	◎		○	
	(DP4)		○	◎		○	
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			◎		○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	多変量解析－重回帰分析	演習・確認テスト	重回帰式、偏回帰係数、決定係数の復習
2	多変量解析－ロジスティック回帰分析	演習・確認テスト	オッズ、オッズ比の復習
3	多変量解析－判別分析	演習・確認テスト	相関比、判別関数の復習
4	多変量解析－主成分分析	演習・確認テスト	固有値、主成分負荷量、主成分得点の復習
5	多変量解析－因子分析	演習・確認テスト・レポート 課題提示	因子数の決定基準、因子寄与、因子寄与率、因子名の決定方法の復習、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
6	多変量解析－数量化理論第 I 類（予測、要因分析のための数量化）の解析①	演習・確認テスト	説明アイテムの選択基準、アイテム・カテゴリー数量の復習
7	多変量解析－数量化理論第 I 類による解析②	演習・確認テスト	レンジ、偏相関係数、重相関係数の復習

8	多変量解析－数量化理論第Ⅱ類（判別、予測、要因分析のための数量化）の解析①	演習・確認テスト	説明アイテムの選択基準、アイテム・カテゴリ数量の復習
9	多変量解析－数量化理論第Ⅱ類による解析②	演習・確認テスト	レンジ、偏相関係数、相関比、判別区分点、判別的中率の復習
10	多変量解析－数量化理論第Ⅲ類（分類、要因、データ構造分析のための数量化）の解析①	演習・確認テスト・レポート課題提示	アイテム・カテゴリ数量及び散布図、サンプル数量の散布図の復習、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
11	多変量解析－数量化理論第Ⅲ類による解析②（自由記述データの解析）	演習・確認テスト	自由記述データの加工手順を復習
12	調査データの解析①－調査内容について話し合い	グループワーク・確認テスト	作成した質問紙の集計・分析方法の確認
13	調査データの解析②－ミニ調査実施	グループワーク・確認テスト	入力データ、データの集計結果のチェック
14	調査データの解析④－調査データの集計・解析	グループワーク・確認テスト	調査データの解析結果のチェック
15	調査データの解析⑤－調査データの報告書作成	グループワーク・確認テスト	調査データの報告書のチェック
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習															○	○	○	○	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク															○	○	○	○	
その他（演習）				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容				毎回の授業でデータ処理演習を行う。第12回からはグループワークを行う。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会調査実習 I			単位	2
科目名（英語）	Practical Training in Social Research I			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会調査士、中一種、高一種		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	吉武由彩・坂無淳・美谷薫				
授業概要	調査の企画から報告書の作成まで社会調査の全過程を、体験的・学生主体的な形で学習する実習。社会調査の企画（仮説の立案、対象者選出など）、サンプリング、プリテスト、実査、データ入力、集計・分析、報告書の作成といった社会調査に必須の過程を経験し、社会調査士・社会人として必要な実践的知識やスキルを修得する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	①1年次までに「社会調査法」「データ分析の基礎」を履修していること ②2年次に「社会調査の設計」「社会統計学Ⅰ・Ⅱ」を必ず履修すること				
テキスト	調査テーマに関連したテキストを、4月の説明会において担当者から説明する。				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業	行政・NPO等からの委託調査及び学術調査研究の経験がある教員が、実際に学生とともに社会調査プロジェクトを企画運営し、報告書作成に至るまでの社会調査の一連の過程について実践的に指導する。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	適宜、個別の質問・相談等にも応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会調査の設計、実施に関わる専門知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会的課題を公共性の観点から整理できる。
		(DP4)	社会的課題が生じるメカニズムについて調査の知見に基づいて論理的に説明し、対応を提示できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	自ら調査テーマを設定し、主体的に調査の設計、実施に携わることができる。
		(DP6)	公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	社会調査の設計、実施に関わる専門知識を身につけている。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
本実習では、社会学的研究に必要となる社会調査の企画（仮説の立案、対象者選出など）、サンプリング、プリテスト、実査、データ入力、集計・分析、報告書の作成といった社会調査に必須の過程を経験し、社会調査士・社会人として必要な実践的知識やスキルの修得を目標とする。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会調査の企画、サンプリング、プリテスト、実査、データ入力、集計・分析、報告書の作成の各過程をこなすことができる。			
成績評価の基準			

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A : 80~89	履修目標を達成している
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C : 60~69	到達目標を達成している
不可 : ~59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合						100	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)					○	
思考・判断・表現	(DP3)					○	
	(DP4)					○	
関心・意欲・態度	(DP5)					○	
	(DP6)					○	
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					○	
備考	調査設計・調査内容：30%、分析水準・報告書の内容：40%、出席・参加度：30%。なお、参加アスピレーションにより加点することがある。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
1~30回	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：社会調査の意義、方法、スケジューリング、実施上の留意事項の確認</p> <p>第3回：調査企画（テーマの設定、調査対象／フィールドの検討）</p> <p>第4回：調査テーマに関する文献講読</p> <p>第5回：調査対象に関する文献やデータの収集</p> <p>第6回：調査テーマに関する既存研究成果の整理</p>	<p>テーマにより調査グループを編成左の内容について概略を講義する</p> <p>調査グループに分かれて作業場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う</p>	<p>調査原案の作成 調査企画</p> <p>調査企画・仮説の作成</p>

<p>第7回：仮説の検討（仮説を構成する変数の検討）</p> <p>第8回：仮説導出</p> <p>第9回：調査票作成（質問項目・質問文作成）</p> <p>第10回：調査票作成（調査票の全体構成を検討）</p> <p>第11回：調査票作成（ワーディングをチェック）</p> <p>第12回：サンプリングの種類と方法の確認</p> <p>第13回：調査対象／フィールドの現地調査</p> <p>第14回：調査対象／フィールドの関係者からのヒアリング</p> <p>第15回：サンプリング実施（サンプリング作業とノウハウ）</p> <p>第16回：サンプリング実施</p> <p>第17回：調査対象者の名簿入力</p> <p>第18回：調査実施プロセスの確認、プリテスト</p> <p>第19回：プリテストの実施</p> <p>第20回：プリテストの結果についての討論</p> <p>第21回：調査票の再検討</p> <p>第22回：調査票の確定、実査マニュアルの作成</p> <p>第23回：実査の準備（郵送用封筒等の準備）</p> <p>第24回：実査の準備（調査票の封入と郵送）</p> <p>第25回：実査（問い合わせ対応）</p> <p>第26回：実査（回収調査票のナンバリングとチェック）</p> <p>第27回：実査（回収調査票のナンバリングとチェック）</p> <p>第28回：エディティング準備</p> <p>第29回：入力シートの作成</p> <p>第30回：実査までのプロセスに対するレポート作成</p>	<p>調査票作成</p> <p>対象者選定</p> <p>サンプリング、実査</p>
--	--

備考	各回の内容は調査を行うという授業の性格上、進行具合によって予定を変更する場合がある。
----	--

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
講義回数																				
発見学習／問題解決学習																				
体験学習／調査学習																				
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																				
その他（ ）																				
内容																				

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会調査実習 II			単位	2
科目名（英語）	Practical Training in Social Research II			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会調査士、中一種、高一種		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	吉武由彩・坂無淳・美谷薫				
授業概要	調査の企画から報告書の作成まで社会調査の全過程を、体験的・学生主体的な形で学習する実習。社会調査の企画（仮説の立案、対象者選出など）、サンプリング、プリテスト、実査、データ入力、集計・分析、報告書の作成といった社会調査に必須の過程を経験し、社会調査士・社会人として必要な実践的知識やスキルを修得する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	①1年次までに「社会調査法」「データ分析の基礎」を履修していること ②2年次に「社会調査の設計」「社会統計学Ⅰ・Ⅱ」を必ず履修すること ③社会調査実習Ⅰを履修していること				
テキスト	調査テーマに関連したテキストを、4月の説明会において担当者から説明する。				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業	行政・NPO等からの委託調査及び学術調査研究の経験がある教員が、実際に学生とともに社会調査プロジェクトを企画運営し、報告書作成に至るまでの社会調査の一連の過程について実践的に指導する。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	適宜、個別の質問・相談等にも応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会調査の設計、実施に関わる専門知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会的課題を公共性の観点から整理できる。
		(DP4)	社会的課題が生じるメカニズムについて調査の知見に基づいて論理的に説明し、対応を提示できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	自ら調査テーマを設定し、主体的に調査の設計、実施に携わることができる。
		(DP6)	公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	社会調査の設計、実施に関わる専門知識を身につけている。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
本実習では、社会学的研究に必要となる社会調査の企画（仮説の立案、対象者選出など）、サンプリング、プリテスト、実査、データ入力、集計・分析、報告書の作成といった社会調査に必須の過程を経験し、社会調査士・社会人として必要な実践的知識やスキルの修得を目標とする。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会調査の企画、サンプリング、プリテスト、実査、データ入力、集計・分析、報告書の作成の各過程をこなすことができる。			
成績評価の基準			

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A : 80~89	履修目標を達成している
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C : 60~69	到達目標を達成している
不可 : ~59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合							100	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)						○	
思考・判断・表現	(DP3)						○	
	(DP4)						○	
関心・意欲・態度	(DP5)						○	
	(DP6)						○	
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)						○	
備考		調査設計・調査内容：30%、分析水準・報告書の内容：40%、出席・参加度：30%。なお、参加アスピレーションにより加点することがある。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
1~30回	第1回：調査プロセス、分析方法、報告書執筆についての確認 第2回：データエディティング 第3回：回収調査票の最終チェック 第4回：コーディング表の作成、入力作業のノウハウ 第5回：コーディング 第6回：データ入力作業 第7回：データ入力作業 第8回：データクリーニング	場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う	データセット作成

	<p>第9回：データセット確認</p> <p>第10回：データの読み取りと集計・分析ソフトの使い方に関するディスカッション</p> <p>第11回：データ集計（単純集計）</p> <p>第12回：データ分析（単純集計結果の分析）</p> <p>第13回：データ集計（属性と他項目のクロス集計）</p> <p>第14回：データ分析（属性と他項目のクロス集計結果の分析）</p> <p>第15回：データ集計（主要項目間のクロス集計）</p> <p>第16回：データ分析（主要項目間のクロス集計の分析）</p> <p>第17回：データ分析から得られた知見のまとめ</p> <p>第18回：中間発表会のプレゼンテーションの準備</p> <p>第19回：中間発表会</p> <p>第20回：中間発表会</p> <p>第21回：報告書の構成案作成、執筆分担決定</p> <p>第22回：報告書原稿執筆（調査実施概要）</p> <p>第23回：報告書原稿執筆（単純集計の図表作成と分析）</p> <p>第24回：報告書原稿執筆（属性と他項目のクロス集計の図表作成と分析）</p> <p>第25回：報告書原稿執筆（主要項目間のクロス集計の図表作成と分析）</p> <p>第26回：仮説の検証と考察</p> <p>第27回：報告書原稿執筆（仮説検証結果の説明）</p> <p>第28回：報告書原稿に関する検討会</p> <p>第29回：検討会での意見を踏まえて報告書原稿修正</p> <p>第30回：報告書原稿完成、公開（プレゼンテーション）</p>	<p>各種の分析手法によりデータ分析を行う</p> <p>データ分析結果の中間発表会。全員で分析過程や結果を検討し、さらに分析を進める 報告書を執筆する</p> <p>全員で報告会を行う。今回の調査で得られた反省点を討議する</p>	<p>データ分析</p> <p>報告書の構想を検討</p> <p>報告書執筆</p> <p>調査の全過程を点検</p>
--	--	--	---

備考	各回の内容は調査を行うという授業の性格上、進行具合によって予定を変更する場合がある。
----	--

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
講義回数																				
発見学習／問題解決学習																				
体験学習／調査学習																				
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																				
その他（ ）																				
内容																				

I. 科目情報

科目名（日本語）	情報数学			単位	2
科目名（英語）	Information Mathematics			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	石崎 龍二				
授業概要	<p>コンピュータや通信技術の技術革新により、社会における情報化が急速に進んでいる。コンピュータを使って数値計算や統計解析を行ったり画像や音声のデジタル信号処理を行ったりするためには、基礎的な数学の知識と理論的な思考が必要である。</p> <p>本講義では、情報通信技術（ICT）の数学的な観点からの理解を深めることを目的として、情報のデジタル化と情報通信の基礎となる符号理論、コンピュータのハードウェア設計の基礎となる命題論理、ソフトウェア設計の基礎となる述語論理・オートマトン理論・形式言語理論・プログラミング言語などの基本的概念を学ぶ。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。				
テキスト	独自テキストを配付する。				
参考図書 ・教材等	開講時に紹介する。				
実務経験を 生かした授業					授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	「符号理論」「命題論理」「述語論理」「オートマトン理論」「形式言語理論」「プログラミング言語」に関する基本的概念を理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	文字、音、画像等の情報の2元符号化ができる。 情報量・平均情報量の計算ができる。 論理式を使った論理演算、命題変数の真理値表での表現ができる。 命題を述語論理の論理式として表現できる
		(DP 4)	
		(DP 5)	
	関心・意欲・態度	(DP 6)	
		(DP 7)	
	技能	(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	「符号理論」「命題論理」「述語論理」「オートマトン理論」「形式言語理論」に関する基本的概念を理解し、情報の2元符号化、情報量・平均情報量の計算、論理式を使った論理演算や命題変数の真理値表での表現、命題を述語論理の論理式で表現できる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	「符号理論」「命題論理」「述語論理」「オートマトン理論」「形式言語理論」に関する基本的概念を理解している。		

成績評価の基準	
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A : 80~89	履修目標を達成している
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C : 60~69	到達目標を達成している
不可 : ~59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合			70			30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		◎			○	
思考・判断・表現	(DP3)		◎			○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	事象と確率	講義	事象と確率について整理
2	指数関数と対数関数	講義	指数関数と対数関数について整理
3	2 元符号化理論－進数変換、負数の符号化	講義	進数変換、負数の符号化について整理
4	情報源符号化理論－情報量・平均情報量	講義	情報量・平均情報量について整理
5	情報源符号化理論－情報源符号化定理	講義	情報源符号化定理について整理
6	情報源符号化理論－通信速度、通信容量	講義	通信速度、通信容量について整理
7	論理演算と論理回路	講義・レポート課題提示	論理演算と論理回路について整理し、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
8	命題論理	講義	命題論理について整理
9	述語論理	講義	述語論理について整理

10	オートマトン理論の基礎	講義	オートマトン理論の基礎について整理
11	オートマトン理論の応用	講義	オートマトン理論の応用について整理
12	チューリングマシンとコンピュータ	講義	チューリングマシンとコンピュータについて整理
13	形式言語理論	講義・レポート課題提示	形式言語理論について整理し、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
14	プログラミング言語	講義	プログラミング言語について整理
15	まとめ	講義	本講義の履修目標に達していない部分について復習
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	プログラミング概論		単位	2
科目名（英語）	Introduction to Programming		授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格	上級情報処理士	
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	石崎 龍二			
授業概要	コンピュータプログラミングの基本的な概念や技法を習得する。 代表的なプログラミング言語（C言語やJavaScript等）を例にして、プログラミングの基本的な要素（変数、データ型、演算子、配列など）、アルゴリズムの基本となる制御構造（順次、分岐、反復など）、関数の作り方、ファイル処理などを解説する。コンピュータを使った演習を取り入れながら進めることで、プログラミングの技法を身につける。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	独自テキストを配付する。			
参考図書・教材等	開講時に紹介する。			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	プログラミングの基本的な要素（変数、データ型、演算子、配列など）を理解している。 アルゴリズムの基本となる制御構造（順次、分岐、反復など）を理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	問題に応じて変数の宣言を適切にできる。 問題に応じて制御文（順次、分岐、反復など）を適切に使ったプログラミングができる。 問題に応じて関数を適切に使ったプログラミングができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	プログラミングの基本的な要素、アルゴリズムの基本となる制御構造を理解し、問題に応じて変数の宣言、制御文、関数を適切に使ったプログラミングができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
成績評価の基準	プログラミングの基本的な要素、アルゴリズムの基本となる制御構造を理解している。		

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A : 80~89	履修目標を達成している
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C : 60~69	到達目標を達成している
不可 : ~59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	確認テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合			5	70			25	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	◎			○	
思考・判断・表現	(DP3)		○	◎			○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	プログラミングの概要	講義・演習・確認テスト	プログラミングの概要について整理
2	基本的なデータ表現	講義・演習・確認テスト	基本的なデータ表現について整理
3	簡単なデータの入出力	講義・演習・確認テスト	簡単なデータの入出力について整理
4	数値データの入力・計算・出力	講義・演習・確認テスト	数値データの入力・計算・出力について整理
5	選択処理－分岐	講義・演習・確認テスト	選択処理－分岐について整理
6	反復処理－繰り返し	講義・演習・確認テスト	反復処理－繰り返しについて整理
7	1次元配列・2次元配列	講義・演習・確認テスト・レポート課題提示	1次元配列・2次元配列について整理、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
8	関数の作り方	講義・演習・確認テスト	関数の作り方について整理
9	文字列操作関数・数学関数	講義・演習・確認テスト	文字列操作関数・数学関数について整理
10	ファイル処理	講義・演習・確認テスト	ファイル処理について整理

11	JavaScript－データの入出力	講義・演習・確認テスト	JavaScript－データの入出力について整理
12	JavaScript－選択処理	講義・演習・確認テスト	JavaScript－選択処理について整理
13	JavaScript－反復処理	講義・演習・確認テスト・レポート課題提示	JavaScript－反復処理について整理、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
14	JavaScript－フォームの活用	講義・演習・確認テスト	JavaScript－フォームの活用について整理
15	JavaScript－メニューの活用	講義・演習・確認テスト	JavaScript－メニューの活用について整理
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（演習）			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容			毎回の授業でプログラミング演習を行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	地域社会学 A		単位	2
科目名（英語）	Regional and Community Studies A		授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格	中一種、高一種	
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	吉武 由彩			
授業概要	産業化、都市化とともに大きく変化してきた地域について幅広く理解する必要がある。本講義では、農村社会学、都市社会学における基礎的知識を習得し、地域社会における課題について考察する力を養うことを目的とする。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	テキスト持参を前提に講義を行う。			
テキスト	山本努編，2019，『地域社会学入門——現代的課題との関わりで』学文社。			
参考図書・教材等	なし			
実務経験を生かした授業	授業では、ゲスト講師講義として地域社会とコミュニティに関する実務経験者による講義を一部予定している。ただし、ゲスト講師の講義の実施予定回は変更することがある。		授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	授業前後の時間およびオフィスアワーを利用して対応する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	農村社会学、都市社会学における基礎的知識を理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	地域社会を取り巻く状況を批判的な視点から理解し、説明することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	地域社会における課題やその対策について意見を言うことができる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 農村社会学、都市社会学における基礎的知識を習得し、地域社会における課題について批判的な視点から考察し、その対策について意見を言うことができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 農村社会学、都市社会学における基礎的知識を習得している。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		70					30	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○					○	
思考・判断・表現	(DP3)	○					○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)	○					○	
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	授業概要説明	講義	テキストはじめに、第1章を読む
2	地域とは	講義 テキストはじめに、1章	テキストはじめに、第1章を読む
3	都市と農村、地方	講義 テキストはじめに、1章	テキストはじめに、第1章を読む
4	農村社会の構造：家と村	講義 テキスト4章	テキスト第4章を読む
5	都市化・産業化と地域社会	講義 テキスト2章	テキスト第2章を読む
6	過疎問題と限界集落	講義 テキスト2章	テキスト第2章を読む
7	現代農村の現状分析(1)：人口還流（Uターン）	講義 テキスト3章	テキスト第3章を読む
8	現代農村の現状分析(2)：農村家族、子育て	講義 テキスト4章	テキスト第4章を読む
9	高齢化と地域社会(1)：生きがいと地域差	講義 テキスト5章	テキスト第5章を読む
10	高齢化と地域社会(2)：期待される地域社会	講義 テキスト6章	テキスト第6章を読む
11	高齢化と地域社会(3)：近隣関係と地域組織（ゲスト講師）	講義 テキスト6章	テキスト第6章を読む
12	住民主体の地域福祉活動の事例	講義 テキスト6章	テキスト第6章を読む

13	地域社会調査	講義 テキスト 8 章	テキスト第 8 章を読む
14	地域活動の担い手	講義 補足資料	補足資料を読む
15	まとめ	講義	テキスト全体を読み返す
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	地域社会学 B		単位	2
科目名（英語）	Regional and Community Studies B		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	吉武 由彩			
授業概要	本講義では、現代農村を取り巻く状況および農村における人々の生活実態や意識について学ぶ。農村社会学の知識を習得し、現代農村をめぐる状況について、批判的に考察する力を養うことを目的とする。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	地域社会学 A を履修していることが望ましい。			
テキスト	なし			
参考図書・教材等	①徳野貞雄, 2014, 『T型集落点検とライフヒストリーでみえる 家族・集落・女性の底力: 限界集落論を超えて』農山漁村文化協会. ②山本努, 2017, 『人口還流(Uターン)と過疎農山村の社会学-増補版』学文社.			
実務経験を生かした授業	授業では、ゲスト講師講義としてまちづくりに関する実務経験者による講義を一部予定している。ただし、ゲスト講師の講義の実施予定回を変更することがある。			授業中の撮影
学習相談・助言体制	授業前後の時間およびオフィスアワーを利用して対応する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	農村社会学における基礎的知識を理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	現代農村をめぐる状況を批判的な視点から理解し、説明することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	地域社会における課題やその対策について意見を言うことができる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
農村社会学の知識を習得し、現代農村をめぐる状況について、批判的な視点から考察し、その対策について意見を言うことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
農村社会学の知識を習得し、現代農村をめぐる状況について理解している。			
成績評価の基準			
S : 90~100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合			70			30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○			○	
思考・判断・表現	(DP3)		○			○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)		○			○	
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	授業概要説明	講義、議論	人口変動に関して考えてくる
2	人口変動	講義、議論	人口変動に関する配布資料を読む
3	過疎地域における人口動態	講義、議論	過疎地域、人口動態に関する配布資料を読む
4	農村における生活	講義、議論	農村、生活に関する配布資料を読む
5	限界集落と地方消滅	講義、議論	限界集落、地方消滅に関する配布資料を読む
6	農村における地域意識と社会参加活動	講義、議論	地域意識、社会参加活動に関する配布資料を読む
7	農村における他出子の存在	講義、議論	他出子に関する配布資料を読む
8	農村高齢者の生活を支える要件	講義、議論	農村、高齢者に関する配布資料を読む
9	市町村合併と地方分権	講義、議論	市町村合併、地方合併に関する配布資料を読む
10	農村における交通	講義、議論	農村、交通に関する配布資料を読む
11	農村における子育て	講義、議論	農村、子育てに関する配布資料を読む

12	現代農村の現状分析(ゲスト講師による講義)	講義、議論	農村、現状分析に関する配布資料を読む
13	過疎地域と人口還流	講義、議論	過疎地域、人口還流に関する配布資料を読む
14	地域再生	講義、議論	地域再生に関する配布資料を読む
15	まとめ	講義、議論	これまでの配布資料を読み返す
備考	授業内では全体を通して、現代農村を取り巻く状況とそれへの対策について、個別に意見を言う時間や、グループ・ディスカッションの時間を設ける。授業では、農村社会学の知識の講義だけではなく、それらの知識を通して、批判的な視点から考察し、その対策について意見を言うことを求める。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他()																		
内容				授業内では、現代農村を取り巻く状況とそれへの対策についてグループ・ディスカッションを設ける予定である(受講人数にもよるが、数回予定)。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	コミュニティ論		単位	2
科目名（英語）	Community Theory		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	高等学校教諭一種免許状〈公民〉・中学校教諭一種免許状〈社会〉	
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	阪井 裕一郎			
授業概要	現代社会における基礎的な社会単位であるコミュニティについて理解することは、地域づくりや生活者として役割を果たすうえできわめて重要である。本科目では、「コミュニティ」（より幅広く共同性や協働、公共性、連帯といった概念を含めて）の理論や歴史、政策を学んでいく。具体的には以下3つのテーマを扱う。第一に、コミュニティという概念に関する社会学や政治哲学の理論を学ぶ。第二に、犯罪や教育といった具体的な社会事象と関連づけながらコミュニティについての理解を深めていく。第三に「ケア」に焦点をあててコミュニティ政策の実践とその課題について学ぶ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	毎回プリントを配布する。			
参考図書・教材等	参考文献：野沢慎司監修『リーディングス ネットワーク論—家族・コミュニティ・社会関係資本』勁草書房、2006年／地域社会学会編『新版 キーワード地域社会学』ハーベスト社、2011年／斎藤純一『不平等を考える—政治理論入門』ちくま新書、2017年			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	講義に関する質問・相談は講義終了後もしくは研究室にて受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	一市民として必要な知識として「コミュニティ」の概念が理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	多様な地域性をもつコミュニティには、さまざまな課題があることが分かる。
		(DP4)	「コミュニティ」とは何か、説明する文章が書け、また口頭で説明できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	地域の諸問題について、行政や住民の果たす役割が多面的に存在することが分かる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	「コミュニティ」の理論や歴史、政策について正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	「コミュニティ」とは何か、説明する文章が書け、また口頭で説明できる。		

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70	30					100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	20	10					30
思考・判断・表現	(DP3)	20	10					30
	(DP4)	20	10					30
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)	10						10
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	イントロダクション	講義形式。適宜 DVD 等映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。	毎回配布する事前・事後学習用の資料を熟読する。
2	コミュニティとは何か：その概念と歴史		
3	共同体と個人：社会学理論を学ぶ		
4	ソーシャル・キャピタル		
5	ナショナリズムとコミュニティ		
6	犯罪とコミュニティ		
7	メディアとコミュニティ		
8	教育とコミュニティ		
9	ジェンダーとコミュニティ		

10	ケアとコミュニティ (1) 子育て支援	
11	ケアとコミュニティ (2) 貧困問題	
12	ケアとコミュニティ (3) 福祉国家	
13	日本の共同体 (1) 村落共同体・家制度	
14	日本の共同体 (2) 企業社会・個人化社会	
15	まとめ	
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	都市社会学		単位	2
科目名（英語）	Urban Sociology		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種	
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	陸 麗君			
授業概要	<p>都市社会学は、「都市」という具体的な空間的範囲内で人々が営まれている社会生活のありようを研究対象とする分野である。都市は、人間が形成する集落の二つの形態の一つであり、村落と対比されてきた。しかし社会全体の都市化が進み、都市と村落の境目があいまいになってきた。またグローバル化に伴い、越境した人々が都市に住むようになり、都市住民の多様化も目立つようになった。そのため、都市社会学の対象も多様化し、具体的な都市域を越えた都市社会全体の問題に対応する理論的方法が模索されている。全体社会の変化の中で、問い直されている都市生活・コミュニティの諸問題への対応という観点から都市を総合的に考察する。授業の進み具合と受講生の関心によっては若干内容の調整を行うこともある。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<p>都市問題に関心があり、現地での考察に積極的に参加できる。 授業での発表について積極的に調べ、準備することができる。</p>			
テキスト	松本 康（編集）『都市社会学・入門』（有斐閣アルマ）2019 2200円			
参考図書・教材等	授業中に適宜指示する。			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問があれば、授業時とオフィス・アワーで対応する。気軽に質問してください。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	都市社会についての基礎的な考え方がわかる。
	思考・判断・表現	(DP3)	都市社会問題に関するデータや資料を論理的に整理し、まとめることができる。
		(DP4)	都市社会の具体的な問題を論理的な文章または口頭で説明できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	都市社会の具体的な課題を考察し、質問したり意見を述べたりできる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
都市社会の基本概念と理論枠組みの勉強をもとに都市の社会問題について主体的に考え、考察し、論理的な文章または口頭で説明できる。			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
都市社会学の基本概念と基礎的な考え方がわかる。都市社会に関する問題について基本的な考察ができる。			
成績評価の基準			
S: 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			60		20		20	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○		○			
思考・判断・表現	(DP3)		○		◎		○	
	(DP4)		◎		◎		○	
関心・意欲・態度	(DP5)		○		◎		◎	
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション(都市社会学の問い) 都市社会学のはじまり	講義	テキストの序章と第1章を読む。 都市が私たちの生活に何をもちたらしめたかについて事前に調べ・考えておく。
2	アーバニズム	講義	事前学習: テキストの該当ページを読む。 事後学習: 前回の授業内容について復習する。
3	都市生態学と居住分化	講義	事前学習: テキストの該当ページを読む。 事後学習: 前回の授業内容について復習する。
4	地域コミュニティ	講義	事前学習: テキストの該当ページを読む。 事後学習: 前回の授業内容について復習する。
5	都市と社会的ネットワーク	講義	事前学習: テキストの該当ページを読む。 事後学習: 前回の授業内容について復習する。

6	都市圏の発展段階	講義	事前学習：テキストの該当ページを読む。 事後学習：前回の授業内容について復習する。
7	情報化・グローバル化と都市再編	講義とグループ活動	事前学習：テキストの該当ページを読む。 事後学習：前回の授業内容について復習する、グループ発表の準備。
8	日本のインナーシティ	講義とグループ活動	事前学習：日本のインナーシティについて調べておく。 事後学習：前回の授業内容について復習する、グループ発表の準備。
9	郊外のゆくえと都心回帰	講義とグループ活動	事前学習：テキストの該当ページを読む。 事後学習：前回の授業内容について復習する、グループ発表の準備。
10	アジアの都市問題－中国の事例	講義とグループ活動	事前学習：中国の都市の発展と都市問題、日本の都市との相違について調べる 事後学習：前回の授業内容について復習する、グループ発表の準備。
11	グループ発表	グループ活動	グループ発表の準備。
12	グループ発表	グループ活動	グループ発表の準備。
13	グループ発表	グループ活動	グループ発表の準備。
14	見学	グループ活動	見学内容の事前調べ。
15	総括	講義と討論	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																○	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク									○	○	○	○	○	○	○		
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	地域社会分析法 A		単位	2
科目名（英語）	Regional and Community Analysis A		授業コード	
必修・選択	選択必修	関連資格	高等学校教諭一種免許状〈公民〉・中学校教諭一種免許状〈社会〉	
標準履修年次	3	開講時期	前期	
担当教員	阪井 裕一郎			
授業概要	本科目では、地域社会の基盤となる家族生活にかかわる問題に社会学と法律学の二つの分野から接近していく。家族生活と地域社会に関連した統計データや政策、法律を学び、受講生が実際に作業やディスカッションを行いながら、分析技法を身につけることを目標とする。具体的には、1) 少子高齢社会の現状と課題の分析、2) 家族や結婚に関連した国内外の法律や制度の分析、3) 住宅問題に対する政策の分析、4) グループワークの実施、レポート作成・報告、という4つの内容で構成される。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	必要な資料は授業中に配布する。			
参考図書・教材等	湯沢雍彦・宮本みち子『新版 データで読む家族問題』（NHK 出版、2008 年）／地域社会学会編『新版 キーワード地域社会学』（ハーベスト社、2011 年）／岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族 第3版』（有斐閣、2013）／岩間暁子・大和礼子・田間泰子『問いからはじめる家族社会学』（有斐閣、2015 年）／比較家族史学会編『現代家族ペディア』（弘文堂、2015 年）			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	講義に関する質問・相談は講義終了後もしくは研究室にて受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	生活・家族問題に関する理論と分析方法を理解し、テーマに即して活用することができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	現在の生活・家族問題の特徴や背景を地域社会の変動と関連させて分析することができる
		(DP 4)	現在の生活・家族問題の特徴を、データ分析をもとに図や表を使って分かりやすく説明できる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	生活・家族問題に関するデータを収集し分析することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
現在の生活・家族問題の特徴や背景について正確に理解した上で、地域社会の変動と関連させて分析することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

現在の生活・家族問題の特徴を、データ分析をもとに図や表を使って分かりやすく説明できる。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89 履修目標を達成している。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69 到達目標を達成している。
不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		50				50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		10			10	20
思考・判断・表現	(DP3)		10			10	20
	(DP4)		10			10	20
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		20			20	40
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	「生活」を捉える	講義	
2	人口減少を考える（1）データで現状を把握する	講義	
3	人口減少を考える（2）政策を分析する	データ分析・ディスカッション	（事後学習）データ整理
4	子育てと地域政策（1）地域社会の取り組み	講義・ディスカッション	（事後学習）データ整理
5	子育てと地域政策（2）男性の育児参加	データ分析・ディスカッション	（事後学習）データ整理
6	家族と法律（1）戸籍・事実婚・夫婦別姓	講義・ディスカッション	（事後学習）データ整理
7	家族と法律（2）親子関係	講義・データ分析	（事後学習）データ整理

8	家族と法律 (3) 同性婚	講義・データ分析	(事後学習) データ整理
9	家族と法律 (4) 生殖補助医療	講義・データ分析	(事後学習) データ整理
10	住宅問題と地域社会 (1) 各国の住宅政策	講義・データ分析	(事後学習) データ整理
11	住宅問題と地域社会 (2) 「空き家」問題	講義・データ分析	(事後学習) データ整理
12	グループワーク (1) テーマ選定と文献・資料収集	講義	(事後学習) データ整理
13	グループワーク (2) ディスカッションとレポート作成	グループワーク	
14	グループワーク (3) ディスカッションとレポート作成	グループワーク	
15	レポート報告	レポート報告	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク					○		○	○							○	○	○
その他 ()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	地域社会分析法 B		単位	2
科目名（英語）	Regional and Community Analysis B		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	宋 珉鎬			
授業概要	持続可能な社会構築において、市民による参加は欠かせない。市民は、運動・参加によって、さらに自らが活動すること（ボランティア・NPO）で自らの意思を表明する。本講義は、持続可能な社会や市民参加について、必要な知識などを整理すると共に、持続可能な社会の構築に向けて活発な活動を行ってきている諸事例を紹介しながらその現状、課題などについて考える、参加型の授業である。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	授業中にプリントを配布			
参考図書・教材等	参考文献・資料を紹介する。 [参考図書] 高橋秀行・佐藤徹『新設 市民参加（改訂版）』公人社、2013年			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	授業に関するご質問・ご相談は、授業後またはメールで随時受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	持続可能な社会と市民参加についての基礎的な概念と諸理論を学習する。
	思考・判断・表現	(DP 3)	持続可能な社会と市民参加についての知識を整理すると共に、その現状や課題について考えることによって、課題解決型の思考方法を身につける。
		(DP 4)	課題発表の時は、発表の内容や方法について各自工夫し、討論には積極的に参加する。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
なぜ、持続可能な社会の構築のために市民参加が必要なのかについて理解した上で、各事例地域についての特徴を自らの思考力で分析し、発表ができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
持続可能な社会、市民参加に関する概念の整理ができる。			
成績評価の基準			
S: 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		

なぜ、持続可能な社会の構築のために市民参加が必要なのかについて理解した上で、自らの思考力で各事例地域についての特徴を明確にし、発表ができる。

A：80～89 履修目標を達成している。

なぜ、持続可能な社会の構築のために市民参加が必要なのかについて理解し、さらに事例地域について理解ができる。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

なぜ、持続可能な社会の構築のために市民参加が必要なのかについて理解ができる。

C：60～69 到達目標を達成している。

持続可能な社会、市民参加についての概念の整理ができる。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

持続可能な社会、市民参加についての概念の整理ができていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		50	10	10	10		20	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○						
思考・判断・表現	(DP3)		○		○		○	
	(DP4)			○				
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習	
			【1単位授業 1回平均】160分（8回）	45分（15回）
			【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）	
1	オリエンテーション			
2	自治と(熟議)民主主義	講義		
3	市民参加の基礎概念			
4	市民参加の基礎概念			
5	政策形成過程における市民参加とは？	講義(講義内で討議を行う)		
6	復習	2～5回の復習のための課題を行う。		
7	持続可能な開発のための教育とは？	講義および課題発表・討論		
8	何故、持続可能な社会に市民参加？	講義		

9	事例分析 インジェ RCE①	講義	対象地域についての事前学習
10	事例分析 インジェ RCE②	討論	
11	事例分析 トンヨン RCE①		対象地域についての事前学習
12	事例分析 トンヨン RCE②	討論	
13	事例分析 RCE 北九州①		対象地域についての事前学習
14	事例分析 RCE 北九州②	討論	
15	復習・課題	7～14 回の復習のための課題を行う。	発表の事前準備
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	地域社会分析法 C		単位	2
科目名（英語）	Regional and Community Analysis C		授業コード	
必修・選択	選択必修	関連資格	中学校教諭一種免許状（社会），高等学校教諭一種免許状（公民），上級情報処理士	
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	美谷 薫			
授業概要	<p>「地域社会」を分析するツールの1つとして，人文地理学で用いられる質的・量的分析の手法について取り上げ，受講生が実際に作業を行うことで，それらを身につけていくことを目的とします。その前段としての統計資料の収集方法や分析結果の表現方法としての地図化の手法などについても紹介していきます。各回とも分析の結果を受講生間で共有し，より当該事象を理解しやすい地理情報の表現手法についての議論したいと考えています。</p> <p>教職との関連では，中学校社会の地理的分野の「C 日本の様々な地域」における「(1) 地域調査の手法」に係る指導法や教材作成のための技能を身につけることを主たる目的としますが，本学科の設置目的を踏まえ，分析・作業の題材については，地域社会の課題や地方自治の諸問題に係るものも取り上げることとし，高等学校公民の現代社会の「(1) 私たちの生きる社会」，同政治・経済の「(3) 現代社会の諸課題」における「ア 現代日本の政治や経済の諸課題」を教授するのに必要な知識や技能が得るという位置づけとします。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件は特にありませんが，実習的な位置づけの科目で作業量が相当多いので，その点はあらかじめご承知おきください。また，指示があった場合には，色鉛筆（12色程度），定規，電卓（スマートフォンのアプリレベルで構いません）を用意してください。学期の中盤では，屋外での実習を行うことがありますので，その際には服装等に注意してください（事前に連絡します）。			
テキスト	特に指定しません。毎回，資料を配布します。			
参考図書・教材等	<p>講義中に適宜紹介しますが，主なものとして以下の3点を挙げておきます。</p> <p>野間晴雄ほか編『ジオ・パルNEO 地理学・地域調査便利帖』，海青社，2012年。</p> <p>半澤誠司ほか編『地域分析ハンドブック Excelによる図表づくりの道具箱』，ナカニシヤ出版，2015年。</p> <p>梶田 真・仁平尊明・加藤政洋編『地域調査ことはじめ あるく・みる・かく』，ナカニシヤ出版，2007年。</p>			
実務経験を生かした授業	地方公共団体職員の経験のある教員が，政策形成への応用を念頭に置き，受講生による分析実習を含めながら，地域課題に関する量的・質的分析手法や結果の表現手法について解説します。	授業中の撮影	○	
学習相談・助言体制	講義内容やレポートの作成方法などに関する質問は，講義後を中心に，随時受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	人文地理学で活用される質的・量的な分析手法を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	さまざまな研究のテーマにふさわしい調査・分析手法を選択し，適切にデータを収集・分析することができる。
		(DP4)	自らが実施した分析の結果について，地理情報を用いて的確に説明できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	主題図を中心とした地図表現の基礎やGISの活用方法を習得し，それらを活用して自らの研究結果をわかりやすく説明できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
自らが関心をもつ地域社会の課題について，情報やデータを収集して分析を行い，その結果についての的確に説明し，考察したその解決方法についてわかりやすく説明できる。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
自らが関心をもつ地域社会の課題について、情報やデータを収集して分析を行い、「見える化」することができる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	40	20				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○	○			
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○			
	(DP4)	○	○	○			
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	定期試験については、レポートの形を採用することもあります。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員） ※印は教職課程履修者が履修する場合に追加で扱う内容	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	イントロダクション：講義内容の説明	講義	講義内容の復習
2	地域統計と地図表現（1）：さまざまな地図	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
3	地域統計と地図表現（2）：地域統計の種類と収集方法 ※現代社会の諸問題を統計と地図で表現する教材作成と指導法	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習，実習課題の結果整理
4	地域統計と地図表現（3）：主題図の種類と表現方法①	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習

5	地域統計と地図表現(4):主題図の種類と表現方法② ※授業におけるデータ・地図活用手法の留意点と教材研究	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習
6	質的データの収集方法(1):アンケート調査と聞き取り調査	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習
7	質的データの収集方法(2):土地利用調査①	現地調査	現地調査結果の整理
8	質的データの収集方法(3):土地利用調査② ※地域調査に係るカリキュラム構成と教材研究	作業(実習課題), 講義	講義内容の復習, 土地利用調査のレポート作成
9	統計分析の事例(1):特化係数	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習, 作業レポートの作成準備
10	統計分析の事例(2):修正ウイバー法	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習, 作業レポートの作成
11	統計分析の事例(3):回帰分析と相関係数	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習
12	パソコンでの地図作成(1):既存デジタル地図の加工 ※GISを活用した授業展開と情報機器活用の留意点	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習
13	パソコンでの地図作成(2):円積図・階級区分図の作成	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習, 期末レポート(レポートの場合)の準備
14	パソコンでの地図作成(3):分布図の作成	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習, 期末レポート(レポートの場合)の作成
15	各自の期末レポートの報告 ※教科指導法としての人文地理学の諸手法の意義と留意点	講義, 作業(実習課題)	
備考	テーマによって多少の相違は出ますが, 講義の当初に分析の手法などの解説を行い, その後, 提示した課題について作業を行い, 結果を提出するという形で進めます。作業のボリュームが多く, 講義時間中に作業が完了しないこともあるため, 必要に応じて, 課外の時間に各自で作業を進めてもらう形になります。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習																			
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																			
その他()																			
内容				屋外での調査実習を行うほか, 作業(実習課題)について, 少人数のグループで作業を分担して結果を比較したり, ディスカッションを行うことがあります。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	公共社会学特講 A		単位	2
科目名（英語）	Topics in Public Sociology A		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年次	開講時期	前期	
担当教員	三 田 知 実			
授業概要	この科目では、都市社会学の理論をレビューし、公共空間としての都市について考えを深める科目である。具体的には、東京、名古屋、大阪の三大都市と、東アジアの拠点機能として発達してゆく福岡の最新動向を説明し、都市社会学の理論や、公共空間の事例研究を結びつけながら、考えを深めてゆく科目である。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	松本康編, 2014, 『都市社会学・入門』有斐閣アルマ. ¥2,200 ISBN-13: 978-4641220157			
参考図書・教材等	授業で適宜紹介します。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	質問やご意見はお気軽にお問い合わせください。講義内で担当教員のメールアドレスをお知らせします。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	都市社会学の観点から、公共空間としての都市の最新動向を見極め、都市や地域の社会問題を改善する方法を論理的に思考し、言語で表現できるスキルを養う。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	都市社会学理論や、不動産事業者の性格が強い鉄道事業者による郊外の形成など、公共空間としての都市の動向を把握し、都市や地域の社会を自発的に把握する力を養う。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	都市と地域の社会学における研究方法（たとえばインタビューやアクションリサーチ等）を修得し、地域社会の長所と弱点を実践的に見出すスキルを養うことができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
シカゴ生まれの都市社会学から、グローバル都市や創造都市の研究までを包括的に修得することが履修目標。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
都市は都心と郊外により形成されている。しかし現在都心への回帰が発生している。その要因を把握することが到達目標となる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80	10	10				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)	○	○	○				
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)	○	○	○				
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	序論—都市とはどのような地域か？	都市であることの要件を、シカゴ学派都市社会学のレビューを用いて説明する。	以下の講義資料とテキストのレビューを行ってください。 講義資料 「第1講 都市とは何か？」 テキスト 「第1章 都市社会学のはじまり」
2	都市が何を産みだすか？ —都市社会学の胎動	1920年代のシカゴ大学社会学科で産みだされた都市社会学について説明する。	以下の講義資料とテキストのレビューを行ってください。 講義資料 「第2講 シカゴ学派の都市社会学」 テキスト 「第3章 都市生態学と居住分化」

3	アーバニズムとは何か？	都市的生活様式としてのアーバニズムを説明する。	以下の講義資料とテキストのレビューを行ってください。 講義資料 「第3講 都市の成長が何をもたらすかーシカゴ学派都市社会学の観点」 テキスト 「第2章 アーバニズム」
4	コミュニティは衰退するの か？	ルイス・ワースの論文「アーバニズムとしての都市的生活様式」(1928)を具体的に解説する。	講義資料「第4講 シカゴ都市社会学への反論」 テキスト 第4章 地域コミュニティ
5	コミュニティは存続するの か？	ウィリアム・フット・ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』(1945)や、ハーバート・ガンズ『都市の村人たち』(1962)の考えを具体的に説明する。	講義資料「第5講 アーバニズムのサブカルチャー理論」 テキスト 「第5章 都市と社会的ネットワーク」
6	コミュニティは解放している ーサブカルチャーという捉え方	クラウド・S・フィッシャー『アーバニズムのサブカルチャー理論』(1975)の考えを具体的に説明する。	講義資料「第6講 阪急電車の創業者・小林一三による宝塚と阪急うめだ本店の創業の意味ー」 テキスト 「第6章 都市圏の発展段階」
7	都市圏の発展段階 ー阪急阪神東宝 HD を事例とした講義	阪神間や宝塚における住宅供給、交通網の発達、そして梅田の商業施設開発の関係性を阪急阪神東宝 HD の観点から説明する。	講義資料「第7講 情報技術の革新とグローバルな交通網の発達」 テキスト 「第7章 情報化・グローバル化と都市再編」
8	情報化とグローバル化 ー青山・赤坂・芝公園地区	情報通信技術の発達と、旅客機交通網の拡充が、グローバル都市へと都市の再編を起こした事例を、東京をもとに説明する。 また1990年代の空港開発が30年後に東アジアの拠点空港となったことに言及する。	講義資料「第8講 インナーシティ」 テキスト 「第8章 インナーシティの危機と再生」
9	インナーシティの危機と 再成長	インナーシティの概念を確認し、その危機と再生について説明を行う。東京、横浜、大阪を事例とする。	講義資料「第9講 郊外の老朽化と今後」 テキスト 「第9章 郊外のゆくえ」
10	郊外の老朽化 ー住民の高齢化と人口流出	郊外の老朽化が、住民の高齢化とともに深刻な問題となった要因と今後の展望について論じる。多摩ニュータウン(東京都)と、千里ニュータウン(大阪府)を事例とする。	講義資料「第10講 高級衣料文化生産と都市細街路の再成長」 テキスト 「第11章 文化生産とまちづくり」
11	クリエイティビティと都市の再成長	東京都渋谷区神宮前の都市細街路「裏原宿」「キャットストリート」を事例とし、クリエイティビティを追求する高級衣料デザイナーの事務所が集中した要因について論じる。	講義資料「第12講 福岡を考えるー天神地区」 福岡を考えるー天神地区
12	福岡を考えるー天神地区	ソラリアステージ、ソラリアプラザ、岩田屋、VIOROなどの商業施設の集中と、西鉄福岡駅、西鉄高速バスターミナルの開発と歴史について考える。	

13	福岡を考えるー大名通り	大名通りが、ファッションブルなストリートとして成長してきた過程について考える	講義資料 福岡を考えるー大名通り
14	福岡を考えるー博多地区	博多駅の再開発「博多コネクテッド」の概要について説明し、博多地区の近未来について考えてゆく。	講義資料 福岡を考えるー博多地区
15	福岡を考えるー中洲地区	中洲や春吉橋沿いの料亭が消滅し、屋台も登録制になった。中洲川端駅付近は、風俗街へと変容した。その要因と近未来について、包括的に考えてゆく。	講義資料 福岡を考えるー中洲地区
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○														
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	公共社会学特講 B	単位	2
科目名（英語）	Topics in Public Sociology B	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	3年	開講時期	後期
担当教員	福本 純子		
授業概要	現代社会では、環境をめぐる考えなければならない問題が絶えず発生している。本講義では、具体的な環境問題の事例を通して、それらの背後にある人間関係がどうなっているかを解説する。その実態を踏まえた上で、環境をめぐる人間関係はどうあるべきなのか、また、そもそも人間は環境とどう付き合っていくべきなのかについて考察する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。		
テキスト	足立重和・金菱清編著『環境社会学の考え方—暮らしをみつめる12の視点』ミネルヴァ書房、2019、2,600円		
参考図書・教材等	鳥越皓之『環境社会学—生活者の立場から考える』東京大学出版会、2004 鳥越皓之・帯谷博明編著『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房、2009		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答する。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	環境問題の種類や発生要因を、具体的な事例を用いて説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	環境問題の背景を論理的に説明し、環境問題への対応のしかたを社会的な視点から提示することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	環境問題について、その種類や発生要因を社会的に理解した上で、環境問題への対応方法について自らの考えを分かりやすく提示することができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	個別具体的な環境問題の発生要因をそれぞれ理解することができる。		
成績評価の基準			
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A : 80~89	履修目標を達成している。		

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合			30	50			20	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○			○	
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)		○	○			○	
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	環境への考え方①環境の守り方	講義	（事前学習）テキスト第1章を読む
2	環境への考え方②環境問題は誰が解決すべきなのか	講義	（事前学習）テキスト第2章を読む
3	環境への考え方③環境管理の方法	講義	（事前学習）テキスト第3章を読む
4	環境への考え方④迷惑施設問題	講義	（事前学習）テキスト第4章を読む
5	1回～4回のまとめ	講義、小テストを実施	（事前学習）1回～4回の復習
6	日常としての環境①環境と「遊び」	講義	（事前学習）テキスト第5章を読む
7	日常としての環境②草原の維持	講義	（事前学習）テキスト第6章を読む
8	日常としての環境③公園の公共性	講義	（事前学習）テキスト第7章を読む
9	日常としての環境④し尿の処理	講義	（事前学習）テキスト第8章を読む
10	6回～9回のまとめ	講義、小テストを実施	（事前学習）6回～9回の復習
11	他者としての環境①観光と地域	講義	（事前学習）テキスト第9章を読む

12	他者としての環境②野生生物との関係	講義	(事前学習) テキスト第 10 章を読む
13	他者としての環境③災害への対応	講義	(事前学習) テキスト第 11 章を読む
14	他者としての環境④環境をめぐる対立	講義	(事前学習) テキスト第 12 章を読む (事後学習) 資料の整理
15	11 回～14 回のまとめと環境問題におけるコミュニティの役割	グループワーク	(事後学習) グループワークにもとづきレポートを作成する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他 ()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	地理学		単位	2
科目名（英語）	Introduction to Geography		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（公民）	
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	美谷 薫			
授業概要	<p>中学・高等学校の「地理」から大学の「地理学」への橋渡しをする意味で、地理学で広く共通して用いられる「地域」・「景観」・「環境」などの基礎概念を紹介するとともに、身近な地域の事例としての筑豊地方や福岡県、また、日本の諸地域を取り上げ、地域の特徴を明らかにするための地誌学的手法を習得することを目標とします。</p> <p>教職との関連では、中学校社会の地理的分野の「C 日本の様々な地域」における各項目を教授するのに必要な知識や技能を得るという位置づけになります。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件は特にありませんが、全体として作業量が多い講義ですので、その点はあらかじめご承知おきください。高校で地理系の科目を履修されなかった方も歓迎します。なお、ほぼ毎回の講義で、簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を実施しますので、出席に際しては、色鉛筆（12色程度）、定規、電卓（スマートフォンのアプリレベルで構いません）を用意してください。			
テキスト	特に指定しませんが、地図帳（中学・高校で使用したもので構いません）があると理解が深まると思います。			
参考図書・教材等	<p>講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の5点を挙げておきます。</p> <p>浮田典良編『最新地理学用語辞典改訂版』，原書房，2004年。</p> <p>菊池俊夫編『世界地誌シリーズ1 日本』，朝倉書店，2011年。</p> <p>中村和郎・手塚章・石井英也『地理学講座4 地域と景観』，古今書院，1991年。</p> <p>矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・古田悦造編『地誌学概論』，朝倉書店2007年。</p> <p>山本正三・谷内達・菅野峰明・田林明・奥野隆史編『日本総論II（人文・社会編）』，朝倉書店，2006年。ほか『日本の地誌』シリーズ</p>			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	講義内容やレポートの作成方法などに関する質問は、講義後を中心に、随時受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	地域（社会）を見るツールとしての、地理学で用いられる基礎的な概念や分析手法、地域の特徴を表すのに必要な考え方について理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	地図の解析や統計資料の分析を通じて、さまざまな自然・人文現象の地域的差異を読み取り、その要因について考察することができる。
		(DP4)	さまざまな自然・人文現象の地域的差異とその要因についての的確に表現できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	主題図を中心とした地図表現の基礎を習得し、活用することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	地理学で用いられる基礎的な概念や分析手法について理解し、それらを用いてさまざまな自然・人文現象の地域的差異を読み取ることができる。また、身近な地域について、地理学的手法を用いてその特徴を理解し、地理情報を用いて表現することができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	地理学で用いられる基礎的な概念について理解し、それらを用いてさまざまな自然・人文現象の地域的差異を読み取ることができる。また、身近な地域の特徴について説明する手法を身につけている。
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40	40	20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○				
	(DP4)	○	○	○				
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)	○	○	○				
備考	定期試験については、レポートの形を採用することもあります。							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	イントロダクション：講義内容の説明、地理学とは	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
2	地理学の基礎概念（1）：地域①（等質地域，機能地域）	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
3	地理学の基礎概念（2）：地域②（地域構造，認知地域）	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
4	地理学の基礎概念（3）：景観	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
5	地理学の基礎概念（4）：環境	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
6	地理学の基礎概念（5）：分布と伝播，スケール	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習

7	身近な地域の見方(1):福岡県の概略	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習
8	身近な地域の見方(2):筑豊地方と福岡県の自然環境	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習
9	身近な地域の見方(3):筑豊地方と福岡県の歴史・文化環境	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習, 作業レポートの作成準備
10	身近な地域の見方(4):筑豊地方と福岡県の社会・経済環境	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習, 作業レポートの作成
11	日本の諸地域(1):九州・沖縄地方①(自然環境)	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習
12	日本の諸地域(2):九州・沖縄地方②(文化・社会環境)	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習
13	日本の諸地域(3):中国・四国地方	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習, 期末レポート(レポートの場合)の準備
14	日本の諸地域(4):近畿・中部地方	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習, 期末レポート(レポートの場合)の作成
15	日本の諸地域(5):東北日本総論	講義, 作業(実習課題)	
備考	毎回, 講義内容と図表等をまとめた資料を配布し, 板書と配布資料の説明により講義を進めます。また, 各回の講義の後半では, 統計資料の分析や研究論文の中で示された図表の読み取りといった作業実習を実施します。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
講義回数																		
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他()																		
内容				作業(実習課題)について, 少人数のグループで作業を分担して結果を比較したり, ディスカッションを行うことがあります。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	地理学概論		単位	2
科目名（英語）	Geography		授業コード	
必修・選択	選択必修	関連資格	中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（公民）	
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	美谷 薫			
授業概要	<p>地理学（系統地理学）の諸分野における基礎概念や研究事例を取り上げ、地域社会を見る「ツール」としての「地理学的なものの見方や考え方」を習得することを目的とします。</p> <p>教職との関連では、中学校社会の地理的分野の「A 世界と日本の地域構成」および「C 日本の様々な地域」のうち「(2) 日本の地域的特色と地域区分」・「(4) 地域の在り方」を教授するのに必要な知識や技能を得るという位置づけになります。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件は特にありませんが、全体として作業量が多い講義ですので、その点はあらかじめご承知おきください。高校で地理系の科目を履修されなかった方も歓迎します。なお、ほぼ毎回の講義で、簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を実施しますので、出席に際しては、色鉛筆（12色程度）、定規、電卓（スマートフォンのアプリレベルで構いません）を用意してください。			
テキスト	特に指定しませんが、地図帳（中学・高校で使用したもので構いません）があると理解が深まると思います。			
参考図書・教材等	<p>講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の2点を挙げておきます。</p> <p>上野和彦・椿真智子・中村康子編『地理学概論 [第2版]』，朝倉書店，2015年。</p> <p>浮田典良編『最新地理学用語辞典改訂版』，原書房，2004年。</p>			
実務経験を生かした授業			授業中	の撮影
学習相談・助言体制	講義内容やレポートの作成方法などに関する質問は、講義後を中心に、随時受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	地域（社会）を見るツールとしての、地理学で用いられる基礎的な概念や分析手法について理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	地図の解析や統計資料の分析を通じて、さまざまな自然・人文現象の地域的差異を読み取り、その要因について考察することができる。
		(DP4)	さまざまな自然・人文現象の地域的差異とその要因についての的確に表現できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	主題図を中心とした地図表現の基礎を習得し、活用することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	地理学で用いられる基礎的な概念や分析手法について理解し、それらを用いてさまざまな自然・人文現象の地域的差異を読み取ることができる。また、それらを地図表現の手法などを用いて的確に表現でき、その要因について考察することができる。		
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
	地理学で用いられる基礎的な概念や分析手法について理解し、それらを用いてさまざまな自然・人文現象の地域的差異を読み取ることができる。		
成績評価の基準			

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40	40	20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○				
	(DP4)	○	○	○				
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)	○	○	○				
備考	定期試験については、レポートの形を採用することもあります。							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	イントロダクション：講義内容の説明，地理学とは	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
2	地理学の歴史と基礎概念	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
3	自然環境の地理学（1）：地形①（大地形）	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
4	自然環境の地理学（2）：地形②（小地形）	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
5	自然環境の地理学（3）：気候	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
6	自然環境の地理学（4）：水循環	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
7	自然環境の地理学（5）：自然環境と人々の暮らし	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習，作業レポート作成の準備
8	人間と社会の地理学（1）：人口	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習，作業レポートの作成
9	人間と社会の地理学（2）：村落	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習

10	人間と社会の地理学(3):都市①(都市に係る基礎概念)	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習
11	人間と社会の地理学(4):都市②(近年の都市変化)	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習
12	産業と経済の地理学(1):農業	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習
13	産業と経済の地理学(2):工業	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習, 期末レポート(レポートの場合)の準備
14	産業と経済の地理学(3):商業	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習, 期末レポート(レポートの場合)の作成
15	産業と経済の地理学(4):流通・交通	講義, 作業(実習課題)	
備考	毎回, 講義内容と図表等をまとめた資料を配布し, 板書と配布資料の説明により講義を進めます。また, 各回の講義の後半では, 統計資料の分析や研究論文の中で示された図表の読み取りといった作業実習を実施します。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																	
その他()																	
内容			作業(実習課題)について, 少人数のグループで作業を分担して結果を比較したり, ディスカッションを行うことがあります。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	地方自治論		単位	2
科目名（英語）	Local Autonomy		授業コード	
必修・選択	選択必修	関連資格	中学校教諭一種免許状（社会），高等学校教諭一種免許状（公民）	
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	美谷 薫			
授業概要	<p>地方自治の理念や歴史，しくみ，担い手など，地方自治に関わる基本的な概念や考え方について，身近な地域の事例なども取り上げながら解説していきます。ベーシックな講義形式ですが，講義中に課す小課題や作業レポートを通じて，受講生とともにあるべき地方自治や地域の姿について考えていきます。（なお，地方自治体における具体的な政策論については，別途開講の「地域計画論」のなかで取り上げます。）</p> <p>教職との関連では，中学校社会の公民的分野の「C 私たちと政治」における「民主政治と政治参加」，高等学校公民の現代社会の「(2) 現代社会と人間としての在り方生き方」における「イ 現代の民主政治と政治参加の意義」，同政治・経済の「(1) 現代の政治」における「ア 民主政治の基本原則と日本国憲法」及び「(3) 現代社会の諸課題」における「ア 現代日本の政治や経済の諸課題」を教授するのに必要な知識や技能を得るという位置づけになります。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件は特にありません。また，予備知識も必要としませんが，講義内容と関連するようなニュースなどに日々注意を払うようにしてください。			
テキスト	以下の文献をテキストに指定します。テキストを購入している前提で講義を進めます。 柴田直子・松井 望編『地方自治論入門』，ミネルヴァ書房，2012年。			
参考図書・教材等	講義中に適宜紹介しますが，主なものとして以下の2点を挙げておきます。 阿部 齊ほか『地方自治の現代用語<第二次改訂版>』，学陽書房，2005年。 磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック地方自治』，北樹出版，2007年。			
実務経験を生かした授業	地方公共団体職員の実験のある教員が，現場での実態を踏まえながら，地方自治に係る制度や自治の担い手について解説します。		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	講義内容やレポートの作成方法などに関する質問は，講義後を中心に，随時受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	地方自治に係る基礎的な概念やしくみについて理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	地方自治を取り巻くさまざまな動向に関心を持ち，情報を収集することができる。
		(DP4)	地方自治を取り巻く諸問題について自らの考えを説明できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	地方自治に係る基礎的な概念やしくみについて理解するとともに，地方自治を取り巻くさまざまな動向について情報を収集してその課題を把握し，対応策について自らの考えを説明することができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには，さらなる学修を必要としている段階です。		
	地方自治に係る基礎的な概念やしくみについて理解し，地方自治を取り巻くさまざまな動向について具体的な関心を寄せることができる。		
成績評価の基準			

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40	40	20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○				
	(DP4)	○	○	○				
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考	定期試験については、レポートの形を採用することもあります。							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	イントロダクション：講義内容の説明	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
2	地方自治の意義と必要性	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
3	地方自治のしくみ（1）：日本の地方自治制度の歴史	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
4	地方自治のしくみ（2）：地方分権改革と地方自治制度の変容	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
5	地方自治のしくみ（3）：市区町村と都道府県	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
6	地方自治のしくみ（4）：大都市制度と広域行政	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
7	地方自治の担い手（1）：自治基本条例と自治の担い手	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
8	地方自治の担い手（2）：市民・住民①（住民の機能・住民組織）	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習

9	地方自治の担い手(3):議会	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習, 作業レポートの作成準備
10	地方自治の担い手(4):首長と執行機関	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習, 作業レポートの作成
11	地方自治の担い手(5):市民・住民②(参加, 選挙)	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習
12	地方自治の担い手(6):NPMと「新しい公共」	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習
13	地方自治体の経営(1):地方財政と予算	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習, 期末レポート(レポートの場合)の準備
14	地方自治体の経営(2):地方公務員制度	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習, 期末レポート(レポートの場合)の作成
15	地方自治体の経営(3):組織と機構管理	講義, 作業(実習課題)	
備考	毎回, テキストの説明と板書により講義を進めます。また, 各回の講義の終盤では, 取り上げたテーマについての自治体間での比較などの作業や, 簡単なグループワークを取り入れていく予定です。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																	
その他()																	
内容			作業(実習課題)について, 少人数のグループで作業を分担して結果を比較したり, ディスカッションを行うことがあります。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	地域計画論		単位	2
科目名（英語）	Regional Planning		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	美谷 薫			
授業概要	本講義では、地方自治体の計画行政のしくみについて概説するとともに、具体的な市町村などの計画を題材にして、現在の地方行政における主要な課題と政策や施策・事業を取り上げ、その現状について検討していきます。公共社会学科の「公務員受験支援プログラム」における自治体研究を取り扱う内容に位置づけています。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件は特にありませんが、全体として作業量が多い講義ですので、その点はあらかじめご承知おきください。特に、中盤では受講生による発表が主となりますので、積極的に作業に取り組むようにしてください。 また、予備知識も必要としませんが、講義内容と関連するようなニュースなどに日々注意を払うようにしてください。 なお、本講義では地方行政の具体的な「中身」に関する内容を中心としますので、地方行政の基本的なしくみなどの「制度」に関心のある方は、「地方自治論」などの講義も受講するようにしてください。			
テキスト	特に指定しません。毎回、資料を配布します。			
参考図書・教材等	講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の4点を挙げておきます。 阿部 齊ほか『地方自治の現代用語 第2次改訂版』，学陽書房，2005年。 金井利之『実践自治体行政学 自治基本条例・総合計画・行政改革・行政評価』，第一法規，2010年。 柴田直子・松井 望編『地方自治論入門』，ミネルヴァ書房，2012年。 増田 正ほか編『地域政策学事典』，勁草書房，2011年。			
実務経験を生かした授業	地方公共団体職員の実験のある教員が、さまざまな市町村などの総合計画を題材に、受講生による分析実習を含めながら、計画行政のしくみや政策形成の実態について解説します。	授業中の撮影		
学習相談・助言体制	講義内容やレポートの作成方法などに関する質問は、講義後を中心に、随時受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	地方自治体における計画行政のしくみや、そこで展開される政策や施策・事業についての知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP 3)	地域社会の現状と課題について自ら考えることができる。
		(DP 4)	地域社会の課題の解決手法としての計画や政策のあり方についての的確に説明できる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	地方自治体で実施されている政策や計画の内容から、地域社会の課題とその対応策について読み取り、その妥当性について考察するとともに、よりよいあり方について提案することができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	地方自治体で実施されている政策や計画の内容から、地域社会の課題とその対応策について読み取ることができる。		
成績評価の基準			

S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	40	20				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○	○			
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○			
	(DP4)	○	○	○			
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	定期試験については、レポートの形を採用することもあります。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員） ※印は教職課程履修者が取得する場合に取り扱う内容	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	イントロダクション：講義内容の説明	講義	講義内容の復習
2	計画行政のしくみ（1）：計画行政の役割と歴史	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
3	計画行政のしくみ（2）：計画と政策	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
4	計画行政のしくみ（3）：地方自治体の計画体系	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
5	地方自治体の総合計画の比較分析（1）：地域課題の認識と目指すべき地域像	作業（実習課題），発表	作業内容の復習，次回作業の準備
6	地方自治体の総合計画の比較分析（2）：主要コンセプトと施策体系	作業（実習課題），発表	作業内容の復習，次回作業の準備
7	地方自治体の総合計画の比較分析（3）：重点施策と戦略プロジェクト①	作業（実習課題）	作業内容の復習，次回作業の準備，作業レポートの作成

8	地方自治体の総合計画の比較分析(4):重点施策と戦略プロジェクト②	作業(実習課題),発表	作業内容の復習,次回作業の準備
9	地方自治体の総合計画の比較分析(5):策定手法と進行管理	作業(実習課題),発表	作業内容の復習,次回作業の準備
10	計画行政と分野別政策(1):福祉・保健分野	講義,作業(実習課題)	講義内容の復習
11	計画行政と分野別政策(2):生活環境・地域自治分野	講義,作業(実習課題)	講義内容の復習
12	計画行政と分野別政策(3):産業・経済分野	講義,作業(実習課題)	講義内容の復習
13	計画行政と分野別政策(4):都市基盤分野	講義,作業(実習課題)	講義内容の復習,期末レポート(レポートの場合)の作成準備
14	計画行政と分野別政策(5):教育分野	講義,作業(実習課題)	講義内容の復習,期末レポート(レポートの場合)の作成
15	まとめ	講義	
備考	「地方自治体の総合計画の比較分析」(第5~9回)では,受講生各自の作業とその発表を中心に進めます。それ以外の回については,原則として,オーソドックスな講義形式で進めますが,各回の講義の後半部分では,グループで作業課題に取り組む時間を設けたいと考えています。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																	
その他()																	
内容			第4回以後は,少人数のグループに分かれての地方自治体の総合計画の内容比較とディスカッション,その発表を行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	国際社会学 A			単位	2
科目名（英語）	International Sociology A			授業コード	
必修・選択	選択必修	関連資格	中一種、高一種		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	佐野 麻由子				
授業概要	本授業では、グローバル化の進展によって引き起こされる各種の問題について取り上げ、事象を読み解く分析枠組みとしての社会学理論を学ぶ。具体的には、世界規模の格差、国際意識・地球市民意識の醸成といった事象を取り上げる。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	グローバル化、国際社会の動向に関心があること				
テキスト	宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂 2015『国際社会学』有斐閣.				
参考図書・教材等	参考文献：佐藤寛・浜本篤史・佐野麻由子・滝村卓司編 2015『開発社会学を学ぶための60冊：援助と発展を根本から考えよう』明石書店.				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	国際社会学を中心とする社会科学の知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	グローバル化に関わる諸現象の背景を論理的に説明し、対応策を提示できる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	グローバル化に伴って生じる社会的課題についての先行研究、各種の資料を適切に収集できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
グローバル化に関わる諸現象、その背景を論理的に説明し、対応策を提示できるような知識の修得を目指す。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
グローバル化、国際化に関連した基礎概念の意味が理解でき、それを用いて現在起きている具体的な事象について説明できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる			
A：80～89 履修目標を達成している			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない			

C : 60～69	到達目標を達成している
不可 : ～59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60	40					100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○					
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	○	○					
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)	○	○					
備考		授業時のリアクションペーパーも評価に入れる。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
1	ガイダンス	講義	
2	2つの国際化とグローバル化概念の違い	質疑応答、講義	テキスト「序章」 第2章「トランスナショナルな移民ネットワーク」を読む
3	国境はいつひかれたの？	質疑応答、講義	テキスト第1章「国民国家とシティズンシップの変容」を読む
4	“日本人”という自己同定の起源	質疑応答、講義	
5	日本で国際化が進む地域とは？ “外国人依存社会”の実態	質疑応答、講義	第3章「労働市場と外国人労働者の受け入れ」
6	私たち「地球市民」？ 日本における国際化、共生の課題 (1)	質疑応答、講義	第6章「グローバル化の中の福祉社会」を読む
7	移民先進国の事例から考える パリ郊外移民の町	質疑応答、講義	第12章「フランス移民第2世代のアイデンティティと教育」
8	私たち「地球市民」？ 日本における国際化、共生の課題 (2)	質疑応答、講義	第4章「階層構造のなかの移民、マイノリティ」を読む 第7章「移民・外国人の子どもたちと多文化教育」を読む
9	世界規模の格差 データにみるグローバルな不平等：資料収集・分析	質疑応答、講義	テキスト第9章「途上社会の貧困・開発・公正」を読む 『人間開発報告書』
10	「途上国」はなぜ「途上国」なのか？ ：開発経済学のアプローチ	質疑応答、講義	参考文献 ・177-179 ページ (貧乏人に生活実態例)

I. 科目情報

科目名（日本語）	国際社会学 B		単位	2	
科目名（英語）	International Sociology B		授業コード		
必修・選択	選択	関連資格			
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	佐野 麻由子				
授業概要	本講義では、グローバル化の進展によって引き起こされる各種の問題について取り上げ、事象を読み解く分析枠組みとしての社会学理論を学ぶ。具体的なテーマとしては、環境破壊とリスク、ポピュラー文化、人の移動を取り上げる。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	グローバル化、国際社会の動向に関心があること。 国際社会学 A を履修していることが望ましい。				
テキスト	宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂 2015『国際社会学』有斐閣。 初回ならびに「人の移動」について前期に使用したテキストを引き続き使います。それ以外のテーマについてはレジュメ、参考文献を中心に学びます。				
参考図書・教材等	リスクについて：ウルリッヒ・ベック 1997（＝2005 木前利秋・中村健吾監訳『グローバル化の社会学——グローバリズムの誤謬——グローバル化への応答』、国文社。） ポピュラー文化について：小川（西秋）葉子・川崎賢一・佐野麻由子編 2010 『〈グローバル化〉の社会学：循環するメディアと生命』恒星社厚生閣				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	国際社会学を中心とする社会科学の知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	グローバル化に関わる諸現象の背景を論理的に説明し、対応策を提示できる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	グローバル化に伴って生じる社会的課題についての先行研究、各種の資料を適切に収集できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
グローバル化に関わる諸現象、その背景を論理的に説明し、対応策を提示できるような知識の修得を目指す。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
グローバル化、国際化に関連した基礎概念の意味が理解でき、それを用いて現在起きている具体的な事象について説明できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる			

A : 80~89	履修目標を達成している
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C : 60~69	到達目標を達成している
不可 : ~59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40					100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)	○	○				
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)	○	○				
備考	授業時のリアクションペーパーも評価に入れる。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
1	ガイダンス	講義	
2	社会学の視点 (前期の復習) ・国際社会学の視点とはどのようなものか? ・国際社会学における研究テーマは?	質疑応答、講義	レジュメの復習 テキスト序章の復習
3	テーマ①食糧の輸入量が増えると温暖化が進む?! ・グローバル化と環境破壊の現状、人間の行為との関係	質疑応答、講義	レジュメの復習
4	・国境を超えた社会関係の深まりとリスク: Uベックのリスク論	質疑応答、講義	参考文献: ウルリッヒ・ベック 1997 (= 2005 木前利秋・中村健吾監訳『グローバル化の社会学——グローバリズムの誤謬——グローバル化への応答』、国文社。) のリスクに関わる章の復習
5	・映像資料を用いた分析・考察「パーム油増産が熱帯雨林を蝕む」	質疑応答、講義	
6	・世界規模のリスクに対する協働を考える	質疑応答、講義	
7	テーマ②“おたく”はもはや世界共通語?!	質疑応答、講義	レジュメの復習

	・国境を超えるポピュラー文化 ・クールジャパン、世界の文化政策		参考文献：小川（西秋） 葉子・川崎賢一・佐野麻由子編 2010 『〈グローバル化〉の社会学：循環するメディアと生命』 恒星社厚生閣の文化変容に関わる章の復習。
8	・マクドナルドは文化的支配の象徴なのか？：文化帝国主義論、マクドナルド化の議論	質疑応答、講義	
9	・現地化、混合文化：S.ホールの「文化の回路」から「現地化」の過程とその帰結（グローカリゼーション）を理解する	質疑応答、講義	
10	映像資料を用いた分析、考察「インドでの消費革命」	質疑応答、講義	
11	ネパールからの留学生が増えたのはなぜ？ ・人の移動の今日の特徴 ・人の移動の促進要因	質疑応答、講義・事例検討	レジュメの復習 テキスト第9章「途上社会の貧困・開発・公正」を読む
12	・生産領域におけるグローバル化：移民労働市場	質疑応答、講義	レジュメの復習 テキスト第3章「労働市場と外国人の受け入れ」 テキスト第4章「階層構造のなかの移民、マイノリティ」を読む
13	・移民の女性化と再生産領域におけるグローバル化	質疑応答、講義	レジュメの復習 テキスト第8章「人の国際移動とジェンダー」を読む
14	・映像資料の分析、考察「シンガポールの移民政策」	質疑応答、講義	これまでに読んだテキストの各章の復習
15	まとめ	質疑応答、講義	これまでに読んだテキスト、参考文献、レジュメの振り返り。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	国際政治学		単位	2
科目名（英語）	International Politics		授業コード	
必修・選択	選択必修	関連資格	高等学校教諭一種免許状〈公民〉・中学校教諭一種免許状〈社会〉	
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	岡本雅享			
授業概要	国際政治は国家と国家の駆け引きのように思われがちだが、この講義では一般の、特に世界システムの中で弱い立場に置かれた人々の視点から国際政治をみていく。定期的に BBC World News などを見て、進行中の国際問題に関心を持ち、日本のメディアの報道との違い等から、多角的な視点を培う。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	講義中間いかけたら答え、自分の意見が表明できること。			
テキスト	長有紀枝『入門人間の安全保障』中公新書			
参考図書・教材等				
実務経験を生かした授業	国連（ECOSOC）NGO のスタッフなどを務めた経験から、国連会議への参加経験などを含めながら、グローバルガバナンスについて解説する		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問票の配付と回答（次回講義時）他。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	現代国際政治を理解する基礎をみにつける。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	自らの考えを適切に他者に説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	国際政治に深い関心をもち、主体的に学習できる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
現代国際政治に関する基礎的な枠組みや用語を理解した上で、主体的に学習し、自らの考えを適切に他者に説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
現代国際政治を理解する上での基礎的な枠組みや用語の意味が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		各回講義 時の意見 や考察	学期内レ ポート課 題	期末レポ ート				合計
総合評価割合		45	40	15				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	○	○	○				
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考		講義中①講義に無関係な私語を続ける、②ゲームをしたり漫画を読んでいる、③机に伏して寝ている受講生がいた場合は、当該学生につき20%を限度として減点する。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	平和学と人間の安全保障(講義の概要)	講義	配付資料を読む
2	グローバル化と相互依存	講義 第1回レポート課題	テキスト第1章を読む
3	南北問題と構造的暴力	講義	テキスト第2章を読む
4	消極的平和と積極的平和	講義 第2回レポート課題	テキスト第3章を読む
5	東西冷戦一米ソ二極対立の時代	講義	テキスト第4章を読む
6	冷戦の終結と国際関係の変容	講義	配付資料を読む
7	グローバルガバナンスとポスト冷戦後の世界会議	講義 第3回レポート課題	テキスト第5章を読む
8	国際平和と人権一貫連の活動とNGO	講義	テキスト第6章を読む
9	国際政治と難民問題	講義 第4回レポート課題	テキスト第7章を読む
10	難民問題とUNHCR	講義	テキスト第8章を読む
11	イスラエル・パレスチナ問題	講義	テキスト第9章を読む
12	9.11後の世界と日本	講義	配付資料を読む
13	戦後国際経済体制と債務国問題	講義 期末レポート課題	配付資料を読む

	題		
14	経済のグローバリズムと政治	講義	配付資料を読む
15	国際政治と NGO の役割	講義	配付資料を読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	多文化社会論		単位	2
科目名（英語）	Multi-cultural Societies		授業コード	
必修・選択	選択必修	関連資格	高等学校教諭一種免許状〈公民〉・中学校教諭一種免許状〈社会〉	
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	岡本雅享			
授業概要	前半は近代国家形成以降、日本に加わった琉球、アイヌ、在日コリアンと1980年代以降増加した難民、移民の観点から、日本の多民族社会化を考え、後半は同質だと思われがちな日本人内部の多様性について、民族概念の発生や文化、言語、宗教の観点から考える。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	講義中問いかけたら答え、自分の意見が表明できること。			
テキスト				
参考図書・教材等	岡本雅享『民族の創出』岩波書店、『なぜ今、移民問題か』藤原書店、『マイノリティの権利とは—日本における多文化社会の実現にむけて』解放出版社、他			
実務経験を生かした授業	移住者・難民問題にかかわる全国組織のNGOスタッフ、役員を務めた経験から、日本各地で暮らす在日外国人や難民、各自治体が行う多文化共生などを、現場の状況を含めながら解説する		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問票の配付と回答（次回講義時）他。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	異なる文化や価値観に対して、客観的に理解できる
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	自らの考えを適切に他者に説明することができる
	関心・意欲・態度	(DP5)	異なる文化・価値観に深い関心をもち、主体的に学習できる
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
異なる文化・価値観に深い関心をもち、主体的に学習した上で、自らの考えを適切に他者に説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
異なる文化や価値観に関して関心をもち、歴史や現状を踏まえ、客観的に理解することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		各回講義 時の意見 や考察	学期内レ ポート課 題	期 末 レ ポ ー ト				合計
総合評価割合		45	20	35				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	○	○	○				
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考		講義中①講義に無関係な私語を続ける、②ゲームをしたり漫画を読んでいる、③机に伏して寝ている受講生がいた場合は、当該学生につき20%を限度として減点する。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	多文化社会と多文化主義 (講義の概要)	講義	配付資料を読む
2	ハワイの日系人と信仰 : ALOHA BUDDHA	講義	配付資料を読む
3	ハワイ社会の多様性	講義	配付資料を読む
4	欧米の多文化主義	講義	配付資料を読む
5	中国の多民族政策	講義 第1回レポート課題	配付資料を読む
6	アイヌ民族の承認と文化振興法	講義	配付資料を読む
7	在日コリアン - invisible minority	講義	配付資料を読む
8	難民と移民の到来	講義	配付資料を読む
9	ゼノフォビアと歪んだ人種主義 : ヘイトスピーチの拡散	講義 第2回レポート課題	配付資料を読む
10	言語の多様性 : ドラマ「国語元年」が問いかけるもの	講義	配付資料を読む
11	日本人の民族宗教 : ウタキと神社はどう違う	講義	配付資料を読む
12	混合から単一民族論へ : 同質社会観の形成	講義 第3回レポート課題	配付資料を読む

13	東北のアテルイ復権運動	講義	配付資料を読む
14	南九州のクマソ復権運動	講義	配付資料を読む
15	多文化社会・日本：1人1人の個性が大切にされる社会へ	講義 期末レポート課題	配付資料を読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	世界地理		単位	2
科目名（英語）	World Geography		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中学校社会科免許	
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	中 里 亜 夫			
授業概要	本講義では、世界の中のアジア諸国を対象にした世界地理（動態的地誌）の講義である。アジアを5つの地理区分とし代表的な国を取り上げ講義する。つまり、東南アジアでは、主にマレーシアとフィリピン、南アジアでは、インドを中心に都市・農村関係を軸に講義することで、動態地誌の有効性を示し、それとの関連でパキスタンを扱う。西アジアでは、アラブ首長国連邦とトルコ及び産油国を扱う、加えて中央アジア5カ国を取り扱う。そして東アジアでは中国と韓国、そして最後にグローバル化する世界を、中国の「一帯一路戦略」と日・印・米・豪を中心とする「インド・太平洋戦略」とを比較検討することでダイナミックな世界（世界動態地誌）を描き講義する。なお、授業には日本経済新聞およびPowerPointを利用する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	世界、特にアジア世界に関するニュースを新聞やインターネットから情報を得ることが、本講義を理解する上で必要な知識となる。			
テキスト	授業者作成の「アジア動態地誌」（パワーポイント用）を利用する。			
参考図書・教材等	適宜、資料配布と書籍・文献を指示する。			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	出席カードの配布で、質問や相談に応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	国際共生にかかわる基礎的な素養を身につける。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	アジア諸国の経済・社会への関心と、自分なりの対応ができる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
諸外国の社会・文化を知識として理解する際の、基本的な見方・考え方を身に着けることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
アジア諸国（国民国家）の誕生・成立と発展にみる諸特徴を把握し、さらにインターネットなど利用して、履修生自らの興味関心を深める学習ができる。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 講義内容を正確に理解し、レポート作成などで優れた学修ができる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		

	講義内容をほぼ正確に理解でき、授業参加及びレポート作成ができる。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	講義内容をほぼ正確に理解できるが、レポート作成ができていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
	講義内容及び授業参加はできる。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。
	講義内容の理解、授業への参加及びレポート作成ができない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	質疑応答・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	講義への参加度	合計
総合評価割合	50	20				30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○			○	
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション	講義	米中の「覇権主義」について
2	グローバル化と第三世界	講義	グローバル化をめぐる欧米4名の学者の主張について
3	アジアの自然環境 ーモンスーンアジアと乾燥アジアー	講義	○ 湿潤アジアと乾燥アジア ○ 他民族国家：マハティール指導のマレーシア
4	東南アジア 1) マレーシアとシンガポール	講義	○ 都市国家：リー・クワンユーのシンガポール ○ 開発独裁国家のインドネシア：国民統合
5	2) インドネシアとフィリピン	講義と質疑	○ 出稼ぎ国家：フィリピンの近代化
6	南アジア 1) 北インド	講義	○ インドの緑の革命と白い革命 ○ 新経済政策と私的経済の展開
7	2) 南インド	講義	○ パキスタン社会の民主化とイスラム
8	3) パキスタンとバングラデシュ	講義と質疑	○ 人口増加と貧困克服
9	西アジア及び中央アジア 1) アラブ首長国連邦(主にドバイ)	講義	○ ドバイと新たなイスラム世界 ○ 東西をつなぐトルコ国家の新たな展開
10	2) トルコ	講義と質疑	○ 中央アジア5カ国の明るい将来
11	3) カザフスタン	講義	○ 旧大陸の中央部を占める西アジア
12	東アジア 1) 沿岸部中国	講義	○ 中国・漢民族世界の成長・発展 ○ 毛沢東・鄧小平と習近平の描く漢民族世界像
13	2) 内陸部中国	講義と質疑	○ 民族問題と西部大開発

14	3) 韓国	講義と質疑	○ ICT 国家韓国の現状
15	まとめーグローバル化する世界の覇権を巡って	講義と質疑	「一帯一路戦略」と「インド・太平洋戦略」とを題材にし世界を考える
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	東アジア関係史		単位	2
科目名（英語）	A History of East Asian Relations		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	高等学校教諭一種免許状〈公民〉・中学校教諭一種免許状〈社会〉	
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	岡本雅享			
授業概要	東アジアは古代から密接な交流をもち、中日韓3国だけで世界の中核になり得る政治経済力がありながら、歴史認識のギャップが国際関係における大きな問題となっている。太古からの深い交わりを見ながら、近現代の東アジア関係を中心に、歴史認識問題を生み出している背景をひも解いていく。その際、琉球、満州、モンゴル、在日コリアンなど、主要な3国以外の視点からみた東アジア関係史像も見ていきたい。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	講義中問いかけたら答え、自分の意見が表明できること。			
テキスト	川上真・服部龍二編『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会			
参考図書 ・教材等				
実務経験を 生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	質問票の配付と回答（次回講義時）他。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会的事象の歴史的背景や現状の多様性を理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	自らの考えを適切に他者に説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	異なる文化・価値観に深い関心をもち、主体的に学習できる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
東アジア地域における社会的事象の歴史的背景や現状の多様性を理解した上で、その歴史的背景や現状の多様性について、自らの考えを適切に他者に説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
東アジア地域の異なる文化・価値観に関心をもちながら、その歴史的背景や現状の多様性を理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		各回講義 時の意見 や考察	学期内レ ポート課 題	期末レポ ート				合計
総合評価割合		45	35	20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	○	○	○				
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考		講義中①講義に無関係な私語を続ける、②ゲームをしたり漫画を読んでいる、③机に伏して寝ている受講生がいた場合は、当該学生につき20%を限度として減点する。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	東アジアとは? (講義の概要)	講義	配付資料を読む
2	日本と朝鮮半島—古代の交流	講義	配付資料を読む
3	中世、近世の日朝関係—壬申倭乱と朝鮮通信使	講義 第1回レポート課題	配付資料を読む
4	東アジアの伝統的国際秩序—琉球の視点	講義	テキスト第1章を読む
5	韓国併合: 武装の平和 (伊藤博文) と東洋平和論 (安重根)	講義	テキスト第3章を読む
6	清朝崩壊と中華民国の誕生—孫文を支持した日本人たち	講義 第2回レポート課題	テキスト第4章を読む
7	満洲・モンゴルからみた近代東アジア	講義	テキスト第5章を読む
8	中国の国共対立と抗日戦争	講義	テキスト第6章を読む
9	日本の台湾・朝鮮植民地支配とアジア太平洋戦争	講義 第3回レポート課題	テキスト第7、8章を読む
10	第二次大戦の終結と冷戦—在日コリアンの視点から	講義	テキスト第9章を読む
11	戦後の朝鮮半島と日本—20年後の日韓講和・国交樹立	講義	テキスト第10章を読む

12	沖縄返還(72年)にみる1960-70年代の東アジア	講義	テキスト第11章を読む
13	中台・台日・日中関係：日華条約と日中平和友好条約	講義	テキスト第11章を読む
14	中国の改革開放と韓国・台湾の民主化	講義	テキスト第12章を読む
15	ポスト冷戦時代の東アジア(中韓国交樹立)と人々の交わり	講義 期末レポート課題	テキスト終章を読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	韓国の社会と文化		単位	2
科目名（英語）	Korean Society and Culture		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	金 恩愛（キム・ウネ）			
授業概要	韓国の映画やドキュメンタリーなどの映像資料を交えながら、韓国の社会と文化を概観する。隣の国、韓国の人々は、歴史の流れの中で「今日」という時間をどのように生きているのかを共に考える授業を目指す。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	主体的かつ積極的に授業に参加すること。			
テキスト				
参考図書・教材等	適宜、資料を配布する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。授業の前後の時間もぜひ利用してください。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	韓国の社会と文化に関する基本的な知識を学ぶことができる。
		(DP2)	異なる文化や価値観に対して、客観的に理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会の諸問題に対し、資料を収集・考察し、自分なりの結論を見出すことができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得する過程で、様々な観点から自己と他者、また自己と他者との関係を理解する視点を身につけることができる。また、自分が生きてきた社会と文化とは異なる社会・文化を理解するうえで、自分なりの答え・結論を見出すことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得する過程で、様々な観点から自己と他者、また自己と他者との関係を理解する視点を身につけることができる。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		

A：80～89	履修目標を達成している。		

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			50	30	20			100
知識・理解	(DP1)		○	○	○			
	(DP2)		○	○	○			
思考・判断・表現	(DP3)		○	○	○			
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	講義、発表	<p><事前学習> 次回、学ぶ内容について事前に配った資料を中心に他の文献も参考に予習しておくこと。</p> <p><事後学習> 韓国に関する配布資料や映像を参考に、議論する時は、常に日本との共通点・相違点を意識する中で、自分なりの結論を出せるよう努める。</p>
2	世宗大王とハングルなど	講義、発表	
3	韓国料理、食事作法など	講義、発表	
4	韓国人の姓など	講義、小テスト(1)	
5	韓国の歴史など	講義、発表	
6	韓国人の生活など	講義、発表	
7	住宅事情など	講義、発表	
8	誕生日と記念行事など	講義、小テスト(2)	
9	韓国の伝統衣装など	講義、発表、体験(韓服)	
10	韓国の交通・物価など	講義、発表	
11	教育制度など	講義、発表	
12	兵役の義務など	講義、小テスト(3)	
13	韓国の伝統遊びなど	講義、発表、体験（ユンノリ）	

14	まとめ、発表	講義、発表
15	まとめ、発表	講義、発表
備考	進捗や内容については状況によって調整する場合があります。	

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○	
その他（ ）																			
内容				毎回学んだ内容に関するグループ・ディスカッションなど															

I. 科目情報

科目名（日本語）	中国の社会と文化		単位	2
科目名（英語）	Chinese Society and Culture		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	陸麗君			
授業概要	<p>本講義の目的は近現代における中国の社会、文化及びその変化を勉強することによって、社会人として欠かせない国際的感覚と国際共生の意識を養うことに貢献するものである。このような認識のもとに、授業では中国の社会制度と中国文化について勉強していく。必要に応じて映像の使用による講義も行う。</p> <p>講義の進み具合や受講生の関心によって、内容を調整する場合がある。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	中国の社会と文化に関心がある。 主体的に授業に参加できる。			
テキスト	必要な資料は随時配布する。			
参考図書 ・教材等	授業中に適宜指示する			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	質問があれば、授業時とオフィス・アワーで対応する。気軽に質問してください。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	中国の社会と文化に関する基本的な知識を獲得できる。
		(DP2)	異なる社会制度と文化に対して、客観的に理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	中国社会の変化とその社会的背景を論理的に説明できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	中国の社会と文化に関する具体的な問題に関し、資料調べをし、質問したり意見を述べたりできる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
中国の社会制度と改革開放後の社会問題について資料調べをし、論理的に説明できる。 中国の文化について、日本との比較をしながら、深く理解することができる。			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
中国の社会と文化に関する基礎知識を身につけることができる。 中国社会の変化とその社会的背景を理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			60		30		10	100
知識・理解	(DP1)		○		○		○	
	(DP2)		○		○		○	
思考・判断・表現	(DP3)		◎		◎			
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		◎		◎		◎	
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	講義	中国について関心のある事柄について調べておく。
2	中国の概況：人口、民族、言語、風習等の紹介(1)	講義	配布した参考資料を熟読する。
3	中国の概況：人口、民族、言語、風習等の紹介(2)	講義	配布した参考資料を熟読する。
4	中国の政治体制と国家制度	講義	配布した参考資料を熟読する。
5	改革開放後の中国社会の概略	講義	配布した参考資料を熟読する。
6	人口問題	講義	配布した参考資料を熟読する。
7	戸籍制度	講義 グループ活動	資料調べ、グループ発表の準備
8	「農民工」と留守児童問題	講義 グループ活動	資料調べ、グループ発表の準備
9	社会保障制度と高齢化問題	講義 グループ活動	資料調べ、グループ発表の準備
10	教育問題とグループ発表	講義 発表	資料調べ、グループ発表の準備
11	グループ発表	講義 発表	資料調べ、グループ発表の準備
12	グループ発表	講義 発表	資料調べ、グループ発表の準備
13	中国の社会と文化に関する映像の鑑賞など、体験など	映像鑑賞、体験と討論など	配布した参考資料を熟読し、討論に備える。

14	中国の社会と文化に関する映像の鑑賞、体験など	映像鑑賞、体験と討論など	配布した参考資料を熟読し、討論に備える。
15	まとめ	講義	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク									○	○	○	○	○	○	○		
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	イスラム社会論		単位	2
科目名（英語）	Islamic Social Theory		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	山本 健介			
授業概要	<p>イスラームという宗教は、近年しばしばニュースなどで取り上げられ、世界的に注目が集められています。日本社会でも、イスラーム教徒の観光客に向けたハラール食品の対応などに迫られており、イスラーム教徒の存在はますます可視的になってきています。また、イスラーム世界に端を発する政治的な動きは、局地的な現象に留まらず、世界の行方を左右する重要な要素になりつつあります。「テロ」の問題とイスラームが結び付けられて、イスラーム教徒全体を危険視する風潮も表れており、差別や偏見に関わる大きな問題に発展しつつあります。</p> <p>この授業では、現代世界において様々な意味で重みを増しているイスラームという宗教について幅広く学びます。特に、イスラーム教徒が、社会や文化、政治のあり方をどのように捉えているのか、そして私たちはそれをどのように理解すれば良いのかといった問題について考えていきます。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	毎回資料を配付する。			
参考図書・教材等	特になし。			
実務経験を生かした授業	特になし。			授業中の撮影
学習相談・助言体制	コメント・質問用紙、メールにより行う。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	イスラーム教徒の文化や価値観について理解することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	「異文化」の人びとの思考を理解するための正しい姿勢を身につけることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
イスラーム教徒に対する短絡的、一面的なイメージを改め、彼らの考え方や行動の多様なあり方について正しく説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
イスラームという宗教の理念や歴史的発展に関する基礎的なタームについて正確に説明することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	演習	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		70	15				15	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○						
思考・判断・表現	(DP3)	○	○				○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	ガイダンス：イスラームについて学ぶ意義とは何か？	講義	授業内で既習の概念や単語が再登場した際には、受講者にクイズとして問いかけるので、毎回キーワードの復習を行うこと。
2	イスラームとは何か (1) : 信仰の体系と世界観	講義	
3	イスラームとは何か (2) : ムハンマドと正統カリフ	講義	
4	イスラームとは何か (3) : シア派とスンナ派	講義	
5	イスラームとは何か (4) : ムスリムの生活文化	講義	
6	イスラームとは何か (5) : ムスリムの人生	講義	
7	イスラーム法とは何か (1) : シャリーアの理念	講義	

8	イスラーム法とは何か (2) : 法学の発展と信徒の生活	講義	
9	イスラーム法とは何か (3) : シャリーアに関わる現代的課題	講義	
10	イスラームと現代政治 (1) : オスマン帝国の栄華と没落	講義	
11	イスラームと現代政治 (2) : 近代のイスラーム改革	講義	
12	イスラームと現代政治 (3) : 国民国家とナショナリズムの時代	講義	
13	イスラームと現代政治 (4) : イスラーム復興の顕在化	講義	
14	イスラームと現代政治 (5) : ジハード主義の伸長と今日の世界	講義	
15	最終要約および映像資料の鑑賞	講義	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	文化人類学 A		単位	2
科目名（英語）	Cultural Anthropology A		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	永吉 守			
授業概要	<p>文化人類学 A では、公共社会学科の国際系科目として、文化人類学の基本的な考え方・知識・理論といった基礎を身につけ、文化の多様性とグローバルな状況を適切に理解することをめざす。また、文化人類学を通じて異文化間の相互理解及び他者理解に向けた課題について考える。具体的には、文化人類学の位置づけ、「文化」の概念とその単位、文化相対主義、家族親族関係、儀礼など、文化人類学の基本的考え方・知識・理論を提示していく。また、現在生起している文化社会状況を文化人類学の視点からどのように捉えうるのかも示す。</p> <p>文化人類学 A ではある程度総論、理論的な内容を講義するが、極力、具体例、現在的な状況や写真等を出して説明する。後期の文化人類学 B は前期 A を前提としたより具体的内容となる。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	文化人類学 B は文化人類学 A 履修(文化人類学の概要・総論と理論)を前提に講義するため、B 受講生は A を履修していることが望ましい。また、A 受講生は B のほうがより具体的なため効果的な理解のためには B 受講を勧める。			
テキスト				
参考図書・教材等	<p>綾部恒雄・桑山敬己（編）『よくわかる 文化人類学』第2版、ミネルヴァ書房、2010。</p> <p>岸上伸啓（編）『はじめて学ぶ 文化人類学』、ミネルヴァ書房、2018。</p> <p>波平恵美子（編）『文化人類学【カレッジ版】』、医学書院、2012。</p>			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	講義前・講義後の空き時間を活用する。質問や相談はレスポンスカードやメール、もしくは（存在するならば）講義用サイト等でも受け付け、できる限り公表し対話的に進行する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	文化人類学の基本的な知識と考え方を身に付け、文化や価値観の多様性とその背景について理解することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	現代社会のなかで起きている「文化」をめぐる新しい状況について理解し、異文化間の相互理解に向けた課題と自らとるべき姿勢について考えることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
グローバルで多文化的な社会構築のために、文化人類学的に洞察・思考し行動することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
文化人類学の基礎的な知識をもとに、グローバルで多文化的な社会構築への洞察・思考をすることができる。			
成績評価の基準			

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	90					10	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○				○	
思考・判断・表現	(DP3)	○				○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年）90分（30回：半期2コマ連続）
1	イントロダクション、文化人類学とはどのような学問か	講義・映像	（以下、事前事後に調べておくキーワード）
2	文化人類学と人類学および周辺学問	講義	文化人類学、人類学、社会学、民俗学
3	人類史と文化人類学史	講義	人類史、類人猿、植民地主義

4	文化人類学の方法論（文化人類学 B で詳細に説明）	講義	フィールドワーク、民族誌
5	文化や社会の概念	講義	文化、社会
6	文化や社会の単位	講義	民族集団、エスニシティ、地域、国家
7	言語と文化	講義・映像	言語、コミュニケーション、音声、文字
8	環境および衣・食・住・生業	講義・映像	生業、環境、衣・食・住
9	結婚と家族・親族論その1	講義	婚姻(結婚)・家族・親族・出自
10	結婚と家族・親族論その2、ジェンダーと文化人類学	講義	婚姻(結婚)・家族・親族・出自、ジェンダー、SOGI
11	文化相対主義と自民族中心主義	講義	文化相対主義、自民族中心主義
12	信仰・宗教と儀礼・呪術	講義・映像	霊的存在、宗教、信仰、儀礼、呪術
13	ライフステージと文化(死と家族・親族関係を中心に)	講義・映像	冠婚葬祭、死、祖霊信仰
14	通過儀礼と儀礼の過程	講義・映像	通過儀礼、人生儀礼、儀礼の過程
15	儀礼・祭礼、まとめ	講義・映像	儀礼、祭り、祭礼、フェスティバル
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク								○	○								
その他 ()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	文化人類学 B			単位	2
科目名（英語）	Cultural Anthropology B			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会調査士		
標準履修年次	3年	開講時期	後期		
担当教員	永吉 守				
授業概要	<p>前期の文化人類学 A において、文化人類学の基本的な考え方・理論、および総論的な事例について学んだ。文化人類学 B では、理論・総論である A を前提としたより具体的内容と方法を学ぶ。</p> <p>この科目は社会調査士の資格取得科目にもなっている。したがって、文化人類学 B では、具体例を示しながら、主として、①文化人類学的調査の技法、②調査の持つ有効性・インパクトおよび課題、③文化人類学の具体的な調査事例とその分析、④現代の我々の生活に直結する多文化共生の考え方と行動へのきっかけ、といった点を、極力写真や動画等の映像や資料などを交えつつ、フィールドワークの具体例から学ぶ。</p> <p>なお、できる限り受講者による各自の課題設定や発表など主体的な参加も想定している。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	文化人類学 A 履修(文化人類学の概要・総論と理論)を前提に講義するため、文化人類学 A を履修していることが望ましい。				
テキスト					
参考図書・教材等	<p>鏡味治也、関根康正、橋本和也、森山工(編)『フィールドワーカーズ・ハンドブック』、世界思想社、2011年</p> <p>神本秀爾、岡本圭史(編)『ラウンド・アバウト・フィールドワークという交差点-』、集広舎、2019年ほか</p>				
実務経験を生かした授業	研究や他校の社会調査実習として三池炭鉱のフィールドワーク経験と、大牟田・荒尾の炭鉱の施設や記憶を活かした NPO 法人の実務経験あり。	授業中の撮影	○		
学習相談・助言体制	講義前・講義後の空き時間を活用する。質問や相談はレスポンスカードやメール、もしくは（存在するならば）講義用サイト等でも受け付け、できる限り公表し対話的に進行する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	文化人類学の調査方法および技術、その基本的な考え方について理解することができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	自らの関心にあわせて文化人類学的視点から適切な課題を設定することができる。
		(DP 4)	課題に対して適切な調査の方法や目的を設定し、提示することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	調査を通じて得られたデータを文化人類学的視点から考察、分析できるようになる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
グローバルで多文化的な社会構築のために、文化人類学的な質的調査を実施し、そのデータをもとに思考し行動できる。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
文化人類学的な質的調査がどのようなものであるのかを理解し、質的調査を実施できる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	90					10	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○				○	
思考・判断・表現	(DP3)	○				○	
	(DP4)	○				○	
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)	○				○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年）90分（30回：半期2コマ連続）

1	イントロダクションと文化人類学 A のまとめ	講義	(以下調べておくキーワード)
2	文化人類学のアプローチ法：フィールドワークとエスノグラフィ	講義	フィールドワーク、エスノグラフィ、質的研究、量的研究
3	フィールドワーク：文化人類学的質的調査と社会学的質的調査	講義	文化人類学、社会学、質的研究、オーラルヒストリー、ライフヒストリー
4	フィールドワーク 1 参与観察法	講義・演習・模擬実習	参与観察、社会調査
5	フィールドワーク 2 インタビュー調査その 1	講義・演習・模擬実習	インタビュー、トランスクリプションラポール、ライフヒストリー
6	フィールドワーク 3 インタビュー調査その 2	講義・演習・模擬実習	インタビュー、トランスクリプションラポール
7	フィールドワーク 4 インタビュー調査その 3	演習・模擬実習	インタビュー、トランスクリプションラポール、ライフヒストリー
8	その他のフィールドワーク的アプローチ(画像・映像等)	講義・映像	映像観察法、動画、映像人類学
9	映像観察法で海外旅行写真を観る その 1	講義・映像	映像観察法、写真分析、グローバリゼーション、グローカリゼーション
10	映像観察法で海外旅行写真を観る その 2	講義・映像	映像観察法、写真分析、グローバリゼーション、グローカリゼーション
11	炭鉱の文化人類学：フィールドワークの成果より	講義・映像	炭鉱、筑豊、三池、労働運動、女性労働、戦後復興、産業遺産、世界遺産
12	観光と文化遺産の文化人類学：フィールドワークと市民活動実践より	講義・映像	観光、観光人類学、非日常、産業遺産、世界遺産、公共人類学
13	多文化共生とマイノリティその 1	講義・映像	マイノリティ、エスニック・マイノリティ、在日コリアン、ユンヌンチュ
14	多文化共生とマイノリティその 2	講義・映像	技能実習生、語学留学生、特定技能、労働、入国管理、トランスナショナル
15	互酬性と文化人類学－医療・福祉の視点から、まとめ	講義	互酬性、医療、福祉、相互扶助、文化人類学の役割
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習						○	○	○	○								
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																○	
その他 ()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	国際教育文化交流論		単位	2
科目名（英語）	International Education and Cultural Studies		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	高 仁 淑			
授業概要	「国際教育文化交流論」では、東アジアを中心とした地域社会と教育の現状について理解を深めるとともに、その課題と論点について国際・比較教育文化学的な視点から事例を紹介します。そして海外調査から国際化・国際協力のあり方を考えます。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	初回に適宜紹介し、資料を配布します。			
参考図書・教材等	資料等は講義時に情報提供する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	その都度対応します。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	国際化の多義的な概念理解やグローバル化の国際教育文化交流を体系的に学ぶことができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	国際共存問題、国際協力のあり方や真の国際交流について考察することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
「国際教育文化交流論」の授業内容を学んで、その課題と論点について国際・比較教育文化学的な視点から、多様・複雑な社会の国際共存問題など国際化・国際協力のあり方を理解し、自らの考えをまとめることができます。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
本授業内容を学び深めた底力を活かしてフィールドワークしたり、関係文献探求や研究方法などのヒントが得られます。さらに草の根の身近なところでの日ごろ国際化・グローバル化に対応する国際感覚を培います。そして実践と事例研究に取り組み、論文の考察や自らの論文作成に活用し、体験することもできます。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合			70			30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○			○	
思考・判断・表現	(DP3)		○			○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	文献検討とフィールドワークしたものをもとに、パワーポイントなどのメディアも用いて進めていきます。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	国際教育文化交流とは何か	講義	資料配布しますので、読んでおくことをおすすめします。
2	国際化と教育	講義及び対話型	〃
3	東アジアの交流の現状	講義及び対話型	〃
4	日韓文化論の概要	講義及び対話型	〃
5	グローバル化と国際交流	講義及び対話型	〃
6	グローバル化と留学生	講義及び対話型	〃
7	グローバル化と教育移民	講義及び対話型	〃
8	OECD参加国の少子・高齢化の問題	講義及び対話型	〃
9	子育て支援：保育・幼児教育の現状と政策(OECD比較検討)	講義及び対話型	〃

10	世界学力調査と教育改革の 動向	講義及び対話型	〃
11	民族共生と国際教育	講義及び対話型	〃
12	ライフスタイルの変化と家 族の国際化	講義及び対話型	〃
13	国際結婚と多文化家族	講義及び対話型	〃
14	地域社会における国際交流	講義及び対話型	〃
15	総まとめ	講義及び対話型	〃
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	NPO 論		単位	2	
科目名（英語）	NPO (Non-Profit Organization) Studies		授業コード		
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格	中一種、高一種		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	佐野 麻由子				
授業概要	営利組織（企業）、政府組織との比較を通して非営利かつ非政府の立場で公共性の高い活動を行うNPOの歴史的展開や活動の特徴を学び、三者の協働の可能性と課題について考える。授業では、文献の他に、新聞や映像資料を用いて具体的な活動例を把握する。受講生には討論や対話、発表等への積極的な参加を求める				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	NPO、市民社会の動向に関心があること。				
テキスト	レジュメを配布します。				
参考図書・教材等	Mayuko SANO, 2012 ,Problem of Resource Mobilization : NGOs in Nepal 科学研究費補助金スタート支援報告書（研究代表者：佐野麻由子）				
実務経験を生かした授業	NPO関係者を特別講師として招聘し、講師と受講者との対話を通して現場の状況についても学ぶ。			授業中の撮影	有
学習相談・助言体制	コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	NPO、市民社会についての幅広い知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP 3)	市民組織（NPO/NGO）の組織形態、資源動員形態に影響を与える要因について、学んだ理論に依拠して説明できる。
		(DP 4)	NPOの資源動員、官民市民の連携における課題の背景を論理的に説明し、それへの対応を提示できる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	日本だけでなく、世界のNPOの活動、市民社会のあり方に深い関心を持ち主体的に学習できる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	NPO、市民社会についての先行研究や各種の資料を適切に収集できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<p>(1) 市民組織（NPO）、市民社会についての幅広い知識を身につけ、NPOの組織形態、資源動員形態に影響を与える要因について理論に依拠して説明できること、(2) NPOの資源動員、官民市民の連携における課題解決策を提示できること、(3) 世界のNPOの活動、市民社会のあり方に深い関心を持ち主体的に学習できること、(4) NPO、市民社会についての先行研究や各種の資料を適切に収集できること、を目標とする。</p>			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
国際協力に関連した基礎概念の意味が理解でき、それを用いて現在起きている具体的な事象について説明できる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A：80～89	履修目標を達成している
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C：60～69	到達目標を達成している
不可：～59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60				40	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○			○	
思考・判断・表現	(DP3)		○			○	
	(DP4)		○			○	
関心・意欲・態度	(DP5)		○			○	
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		○			○	
備考	参加度・リアクションペーパーの提出（40％）と最終レポート（60％）で評価する。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
1	ガイダンス：NPO論で学ぶこと	講義	
2	NPOとは？NPOの定義	質疑応答、講義	・レジュメの復習
3	NPOの歴史的展開：世界で一番古いNPO	質疑応答、講義	・世界で一番古いNPOについて考えてくる
4	NPOと公共性、市民との関係は？：対抗的相補性	質疑応答、講義	・レジュメの復習
5	NPO/NGOの現状を知る（世界編）：NPOが多い地域と少ない地域の違いは？ 映像資料の視聴	質疑応答、講義・事例検討	・レジュメの復習
6	NPO/NGOの国際比較からみえるもの：NPO/NGOの組織形態を決める要因	質疑応答、講義・事例検討	・レジュメの復習

7	事例：巨大 NPO バングラデシュの BRAC	質疑応答、講義・事例検討	・レジユメの復習
8	NPO/NGO の現状を知る（日本編）：NPO が多い地域と少ない地域の違いは？	質疑応答、講義	・レジユメの復習
9	地域間比較からみえるもの：日本の NPO 活動（役割）、経営状況、人材	質疑応答、講義	・自分の地域の人口あたり NPO の数、活動分野についての資料収集 ・レジユメの復習
10	新しい NPO のかたち：社会的事業	質疑応答、講義	・レポートのテーマの検討
11	新しい NPO のかたち：社会的企業	質疑応答、講義・事例検討	・レジユメの復習
12	新しい NPO のかたち：CSR、BOP ビジネス	質疑応答、講義	・レジユメの復習
13	新しい NPO のかたち：今日の官、民、市民の協働	質疑応答、講義、議論	・実務者に聞いてみたいことを列挙する ・レジユメの復習
14	ゲスト講師による講話：討論・報告のまとめ方・発信	質疑応答、講義、議論	・実務者に聞いてみたいことを列挙する ・聞き取りのまとめ
15	まとめ：プレゼンテーション	質疑応答、議論、議論	・これまでに読んだテキスト、参考文献、レジユメの振り返り。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	国際協力論			単位	2
科目名（英語）	International Cooperation Studies			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種		
標準履修年次	1年	開講時期	後期		
担当教員	佐野 麻由子				
授業概要	国家間の格差、国内の格差が生じるメカニズムについての社会科学のアプローチを学んだ上で、国際協力に関わる官、民、市民の取り組み、今日の国際協力の可能性と課題を理解する。講義内では、国際協力に携わる実務者（JICA や NGO 等）を招聘し、受講生との対話を通して開発課題への対応策を検討する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	国際協力、グローバル化、国際社会の動向に関心があること。				
テキスト	佐藤寛・浜本篤史・佐野麻由子・滝村卓司編 2015『開発社会学を学ぶための60冊：援助と発展を根本から考えよう』明石書店。				
参考図書・教材等	佐野麻由子・田代英美 2017 「教育実践報告：公共社会学におけるアクティブ・ラーニングの実践2016」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻第2号。 中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）				
実務経験を生かした授業	国際協力に携わる実務者（JICA や NGO 等）を招聘し、講師と受講者との対話を通して現場の状況についても学ぶ。			授業中の撮影	有
学習相談・助言体制	コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	開発社会学、開発経済学を中心とする社会科学の知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	開発の課題を論理的に説明し、対応策（よりよい開発援助プロジェクト）を提案できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	先進国、途上国双方の問題に深い関心をもち主体的に学習できる。
		(DP6)	開発課題を解決する能力を高め、社会にはたらきかけることができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	開発社会学、開発経済学についての先行研究、世界規模の格差のマクロデータ、国際協力に関する各種の資料を適切に収集できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<p>先進国、途上国双方の問題に深い関心をもち、開発社会学、開発経済学の先行研究に依拠して、各種問題に関わるマクロデータ、国際協力に関する各種資料を適切に収集し、開発課題への対応策を提案できる能力を身につけることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教授した専門用語や理論枠組みを用いて論述（報告）する時間を設け、論理的思考力、判断力を高める。 ・国際協力に関する基礎的知識の修得（授業計画の〈a〉）、及び、本科目指導の基礎的スキル—指導計画、教科の構成、教材作成・開発、指導方法—（授業計画の〈b〉）を修得する。 			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	国際協力に関連した基礎概念の意味が理解でき、それをういて現在起きている具体的な事象について説明できる。
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A：80～89	履修目標を達成している
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C：60～69	到達目標を達成している
不可：～59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60				40	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○			○	
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)		○			○	
関心・意欲・態度	(DP5)		○			○	
	(DP6)		○			○	
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		○			○	
備考	参加度・リアクションペーパーの提出（40％）と最終レポート（60％）で評価する。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
1	ガイダンス、この授業のねらい、複合科目の意義、本授業の内容と構成 〈a〉発展とは何か 〈b〉実務者との対話のコーディネート、実務者との対話の指導方法としての意義	講義	テキスト文献1、2、3を読み、「発展」、「進化」についての考え方について予習をする。
2	〈a〉国際協力とは誰が何のために何をすることなのか？	質疑応答、講義	・レジュメの復習 ・テキスト文献4、11を読み「発展」と「開発」の違いについて復習する。 ・「開発」と「援助」「国際協力」との関係について復習する。

3	<p>〈a〉国際協力に対峙する課題：シャンパングラスのような世界</p> <p>〈b〉国際協力に関する社会科・公民科のカリキュラム構成と教材作成・開発</p>	質疑応答、講義	<ul style="list-style-type: none"> ・人間開発報告書を用いて授業内で作成した世界地図に自分なりに情報を加える ・配布した年表に授業で学んだ情報を加え、各自で開発目標の変遷と世界的な出来事をまとめた年表を作成する。
4	<p>〈a〉途上国はなぜ途上国なのか？不公正な貿易制</p>	質疑応答、講義	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト文献8、9を読み、途上国を生み出すマクロな構造についての議論を復習する。
5	<p>〈a〉貧しい者・差別される者が生まれるのはなぜか</p> <p>映像資料の視聴</p>	質疑応答、講義・事例検討	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト文献41、42を読み、経済的な格差とジェンダー、エスニシティとの関係について理解を深める。
6	<p>〈a〉開発援助の正負の影響は何か</p> <p>映像資料をもとにしたグループ・ディスカッション</p>	質疑応答、講義・事例検討	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト文献5を読み、どのような条件下では開発援助は負の影響を及ぼすのかを予習する。 ・レジユメの復習
7	<p>〈a〉よりよい国際協力を実現させるために(1)：持続可能な開発</p>	質疑応答、講義	
8	<p>〈a〉よりよい国際協力を実現させるために(2)：参加型開発</p>	質疑応答、講義	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト文献13、14、54を読み外部者と当事者との関係について予習する。 ・レジユメの復習
9	<p>〈a〉見えない資源の活用：社会関係資本の重要性</p>	質疑応答、講義	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第8章を読み目に見えない資源について予習する。 ・レジユメの復習
10	<p>〈a〉先進国・途上国を元気にするフェアトレード・地産地消</p>	質疑応答、講義	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートのテーマの検討
11	<p>〈a〉貧困層、企業のWinWinの関係？：BOPビジネスの挑戦</p> <p>〈b〉国際協力に関するさまざまな教材とその活用方法</p>	質疑応答、講義・事例検討	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト文献39を読みBOPビジネスについて予習する。 ・レジユメの復習
12	<p>〈a〉地域を元気にする国際協力</p> <p>〈b〉系統学習と課題解決学習：その特徴と学習効果</p>	質疑応答、講義	<ul style="list-style-type: none"> ・レジユメの復習
13	<p>〈a〉よりよい国際協力を考える～実務者との対話</p> <p>(1)：報告のまとめ方・発信の仕方</p> <p>〈b〉教育方法としてのアクティブ・ラーニングの実践と指導計画</p>	質疑応答、講義、議論	<ul style="list-style-type: none"> ・実務者に聞いてみたいことを列挙する ・聞き取りのまとめ
14	<p>〈a〉よりよい国際協力を考える～実務者との対話</p> <p>(2)：報告のまとめ方・対応策の検討</p> <p>〈b〉アクティブ・ラーニングの活用方法と留意点</p> <p>まとめ</p>	質疑応答、講義、議論	<ul style="list-style-type: none"> ・実務者に聞いてみたいことを列挙する ・聞き取りのまとめ
15	<p>〈a〉国際協力の可能性と課題に関するプレゼンテーション</p> <p>〈b〉国際協力に関する教材と指導法に関するプレゼンテーション</p>	質疑応答、議論、議論	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに読んだテキスト、参考文献、レジユメの振り返り。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし	
----	---	----	--

講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習															
体験学習／調査学習															
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク															
その他（ ）															
内容															

I. 科目情報

科目名（日本語）	哲学要論		単位	2
科目名（英語）	Theories in Philosophy		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	高等学校教諭一種免許状〈公民〉・中学校教諭一種免許状〈社会〉	
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	神谷英二			
授業概要	社会の仕組みや価値観が急速に変化し、これまでの先例や常識だけに頼ってでは、充実した豊かな社会生活を送ることも、職場において質の高い専門的な業務をすることも難しくなりつつある。現代社会の仕組みや価値観を当然と考えず、異なった視点から見るためには、現代とは異なった社会の仕組みや価値観を知ることが重要である。この授業では、ヨースタイン・ゴルデル『ソフィーの世界』をテキストとし、西洋哲学史のうち古代ギリシア、中世、近代の始まりを取り上げ、学生による報告と教員を交えた討論を行いつつ講義を展開する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし。			
テキスト	ヨースタイン・ゴルデル『ソフィーの世界』日本放送出版協会、1995年、2,670円			
参考図書・教材等	授業時に配付する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	疑問があればすぐに質問すること。電子メールによる質問も常時受け付ける。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	西洋哲学史における思考法に関する基礎知識を獲得する。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	自分の考えをわかりやすく伝える力を身につける。
	関心・意欲・態度	(DP5)	先例や常識だけに頼らず、自分自身で現代社会における問題を発見・探究・解決するための基礎的能力を身につける。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会学に関連する基礎知識として西洋哲学史の基礎を習得し、それとともに学生が先例や常識だけに頼ることなく、自分自身で現代社会における問題を発見・探究・解決するための基礎的能力が身につけている。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会学に関連する基礎知識として西洋哲学史の基礎を習得している。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			30	50	20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○	○			
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)		○	○	○			
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○	○			
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス	授業プランの説明 学習ニーズ確認のための作文	
2	ギリシアの自然哲学者(1) 神話的思考と合理的思考	『ソフィーの世界』を丁寧に読む。担当者が報告（テキストのまとめ）を行い、その内容についての討論を行う。	テキスト p.33-79 を予習
3	ギリシアの自然哲学者(2) ミレトスの人々		テキスト p.33-79 を予習
4	ギリシアの自然哲学者(3) 存在と変化	小レポート（第1回）	テキスト p.33-79 を予習
5	アテナイの3人の知恵と学(1) ソクラテス		テキスト p.80-106 を予習
6	アテナイの3人の知恵と学(1) ソクラテス	小レポート（第2回）	テキスト p.80-106 を予習
7	アテナイの3人の知恵と学(2) プラトン		テキスト p.107-126 を予習
8	アテナイの3人の知恵と学(2) プラトン		テキスト p.107-126 を予習
9	アテナイの3人の知恵と学(3) アリストテレス		テキスト p.139-160 を予習
10	アテナイの3人の知恵と学(3) アリストテレス	小レポート（第3回）	テキスト p.139-160 を予習

11	2つの文化圏		テキスト p.194-212 を予習
12	中世の哲学と大学	小レポート（第4回）	テキスト p.213-241 を予習
13	近代のはじまり(1) ルネサンス		テキスト p.242-275 を予習
14	近代のはじまり(2) デカルト	小レポート（第5回）	テキスト p.297-312 を予習
15	復習とまとめ：AI は cogito ergo sum.と言えるか	学習内容全体についての復習	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容				随時、教員を交えた討論を行う。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	倫理学	単位	2
科目名（英語）	Ethics	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	高等学校教諭一種免許状〈公民〉・中学校教諭一種免許状〈社会〉
標準履修年次	公共3年 福祉2年	開講時期	前期
担当教員	神谷英二		
授業概要	現代医学は人間の誕生・生存・死亡のあらゆる局面に高度な技術をともなって関わり、多くの倫理上の課題を生み出し、現代社会に生きる限り誰もがこれらの倫理問題と無関係ではられない。また、生命倫理の問題に対処することは、福祉社会において活躍する専門的職業人にとっては必要不可欠の能力である。内容としては、インフォームド・コンセント、パーソン論、安楽死と尊厳死などを中心に授業を展開する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト	なし。		
参考図書 ・教材等	授業時に配付する。		
実務経験を生かした授業	医療機関で研究倫理及び臨床倫理審査と医療職の研修を行っている教員が、現場での知見を踏まえて授業を行う。	授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	疑問があればすぐに質問すること。電子メールによる質問も常時受け付ける。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	生命倫理学の基礎を習得する。
	思考・判断・表現	(DP3)	具体的な倫理問題を自分自身の問題としてとらえ、考える能力を身につけることにより、実際に仕事や日常生活の中で生命倫理の問題に直面した際に、自分自身で判断し、対処できるようになる。
		(DP4)	根拠を明示して、自分の考えをわかりやすく伝える力を身につける。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
生命倫理学の基礎を習得し、それをもとに具体的な倫理問題を自分自身の問題としてとらえて、考えるとともに、自分の考えをわかりやすく表現できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
生命倫理学の基礎を習得し、それをもとに具体的な倫理問題を自分自身の問題としてとらえて、考えることができる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			50	50				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○				
思考・判断・表現	(DP3)		○	○				
	(DP4)		○	○				
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス：多死社会へ向けて	授業プランの説明 学習ニーズ確認のための作文	「倫理学講義資料」を毎回、授業後に復習すること。欠席した場合は、「倫理学講義資料」によって学習した上で、必ず小レポートを各自書いて、提出すること。（以下、15回まで同様。）
2	生命倫理の歴史	「倫理学講義資料」による講義	
3	生命倫理の4原則	「倫理学講義資料」による講義	
4	インフォームド・コンセントと患者の権利(1)定義と法理	「倫理学講義資料」による講義 小レポート（第1回）	
5	インフォームド・コンセントと患者の権利(2)代諾者	「倫理学講義資料」による講義 新聞記事による事例研究	
6	インフォームド・コンセントと患者の権利(3)小児、未成年	「倫理学講義資料」による講義 小レポート（第2回）	
7	インフォームド・コンセントと患者の権利(4)日本独自の工夫	「倫理学講義資料」による講義	

8	パーソン論と生命の線引き(1) 人工妊娠中絶と出生前診断	「倫理学講義資料」による講義	
9	パーソン論と生命の線引き(2) トゥーリーの理論	「倫理学講義資料」による講義 小レポート (第3回)	
10	パーソン論と生命の線引き(3) エンゲルハートの理論	「倫理学講義資料」による講義	
11	安楽死と尊厳死(1)定義と事例研究	「倫理学講義資料」による講義 小レポート (第4回)	
12	安楽死と尊厳死(2)死の自己決定	「倫理学講義資料」による講義 新聞記事による事例研究	
13	終末期医療の現状と将来(1) 緩和ケアとナラティブアプローチ	「倫理学講義資料」による講義	
14	終末期医療の現状と将来(2) セデーションの是非	「倫理学講義資料」による講義 小レポート (第5回)	
15	復習とまとめ	学期全体の学習内容を復習	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容				グループ・ディスカッションを随時行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	日本史概論			単位	2
科目名（英語）	Japanese History			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種免		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	有 谷 三 樹 彦				
授業概要	現代を理解するためには歴史を学ぶ必要があります。本講義では、天皇制とナショナリズムの観点から日本史を捉えなおすことにより、日本の歴史的特性を浮かび上がらせ、世界の中の日本の位置づけを考えます。具体的には、前半で古代から近世までの日本について、後半で主に幕末維新时期以降の日本について講義することになります。その際日本のみを対象とする一国史観に陥らないように、同時代の世界史の動向との比較を常に心がけます。さらに国民形成を主目的とする日本の歴史教育の問題にも迫りたいと思います。歴史・政治・思想をトータルに考察する本講義は実社会でも役立つ実用的な教養科目であるといえます。中学校教員免許状（社会）取得希望者は必修です。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。				
テキスト					
参考図書・教材等	参考文献：小田中直樹『歴史学ってなんだ？』PHP新書、2004年。山本博文『歴史をつかむ技法』新潮新書、2013年。近藤孝弘『歴史教育と教科書』岩波ブックレット、2001年。山住正巳『日本教育小史』岩波新書、1987年。井上清『天皇・天皇制の歴史』明石書店、1986年。倉本一宏『戦争の日本古代史』講談社現代新書、2017年。今谷明『武家と天皇』岩波新書、1993年。奈良本辰也『吉田松陰』岩波新書、1951年。井上勲『王政復古』中公新書、1991年。岩波ジュニア新書<シリーズ日本の歴史>全9冊。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業前の時間であれば非常勤講師室に居ますので、喜んで学生の質問相談に応じます。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	日本史概論の学習を通じて、社会に貢献するための歴史的知識を身につける。
		(DP2)	歴史学と歴史教育、天皇制、ナショナリズムについての専門的知識を理解する。
	思考・判断・表現	(DP3)	国家・政治・社会の諸問題について、感情論に流されず歴史学の知識に基づいて論理的に思考し判断することができる。
		(DP4)	歴史学の知識に基づいて、自己の考えを説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	国家・政治・社会の諸問題について、主体的かつ意欲的に探究することができる。
		(DP6)	歴史学の知識や思考を様々な社会貢献に活かすことができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
歴史学と歴史教育、天皇制、ナショナリズムについて、正確に理解し的確に詳しく説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	歴史学と歴史教育、天皇制、ナショナリズムについて、ある程度理解しある程度説明することができる。
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
	歴史学と歴史教育、天皇制、ナショナリズムについて、正確に理解し、自ら工夫して的確に詳しく説明することができる。
A：80～89	履修目標を達成している。
	歴史学と歴史教育、天皇制、ナショナリズムについて、正確に理解し的確に詳しく説明することができる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	歴史学と歴史教育、天皇制、ナショナリズムについて、理解し詳しく説明することができる。
C：60～69	到達目標を達成している。
	歴史学と歴史教育、天皇制、ナショナリズムについて、ある程度理解しある程度説明することができる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。
	歴史学と歴史教育、天皇制、ナショナリズムについて、理解できず説明することもできない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内小テスト	学期末レポート	発表	授業態度・授業への参加度	講義内容説明文	合計
総合評価割合			50	40		10	プラス評価	100
知識・理解	(DP1)		○	○		○	○	
	(DP2)		○	○		○	○	
思考・判断・表現	(DP3)		○	○		○	○	
	(DP4)			○				
関心・意欲・態度	(DP5)			○				
	(DP6)			○				
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考		2回の小テストと学期末レポートは必修です。無断遅刻・無断欠席は評価に影響します。無断遅刻・無断欠席常習者には、欠席補習レポートが課されます。						

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	歴史教育とは何か	講義ガイダンス、講義、受講生は授業終了時に講義内容説明文を書く	下記の参考文献等を使って、人物や事件など基礎的な事項を調べておく。
2	近代日本の教育	講義、講義内容説明文筆記	同
3	古代	同	同
4	中世	同	同
5	一揆	小テストガイダンス、講義	同

6	織豊政権	講義、講義内容説明文筆記。	同
7	近世	第1回小テスト、講義	同
8	ブルジョア革命	小テスト返却、学期末レポートガイダンス、講義、講義内容説明文筆記	同
9	幕末維新の胎動	講義、講義内容説明文筆記	同
10	吉田松陰の思想と行動	同	同
11	ナショナリズムの発生	同	同
12	幕末維新の展開	同	同
13	明治維新の特徴	第2回小テスト、講義	同
14	士族反乱	小テスト返却、講義、講義内容説明文筆記	同
15	自由民権運動	講義、講義内容説明文筆記	同
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	西洋史概論			単位	2
科目名（英語）	European and American History			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	水 井 万里子				
授業概要	大航海時代以降、異文化の世界と出会った西洋の近代化を、その前提となる古代、中世の時代を基礎としながら、現代まで時代ごとに概観する。特に後半では世界史のなかの西洋という観点から、帝国と植民地の関係性を中心に人の移動や交流、世界市場形成を通じて、越境・グローバル化する西洋のあり方を確認する				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。				
テキスト	テキストは使用しないが、毎回配布するプリントに沿って講義を進める。				
参考図書・教材等	図説テューダー朝の歴史（河出書房新社）、ヨーロッパの歴史－欧州共通教科書（東京書籍）の該当部分を適宜参照する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問のある受講者には適宜講師のメールアドレスを伝え、相談に対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会科教員として歴史を教える際の要点を理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	近代世界の歩みや現在の世界について西洋史の理解を基礎として考察できる
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
西洋史の通史的に理解し、教員として適切な事例を調査し、背景と結びつけて説明する力を身につける。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
西洋史の通史の古代から中世、および近世から近代までの通史的理解について、さらに自由課題の文献調査・レポート作成を通して歴史学の叙述表現を修得する。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 適切な文献を複数用いて、独自性の高い歴史事例について文献調査・レポート作成ができる。		
A：80～89	履修目標を達成している。 適切な文献を用いて、一般的な歴史事例について文献調査・レポート作成ができる。		
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

文献とインターネット上の情報から一般的な歴史事例について文献調査・レポート作成ができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
インターネット上の情報から一般的な歴史事例について文献調査・レポート作成ができる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
レポートの一部でも未提出である。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内ミニレポート	授業内小テスト	発表	ポートフォリオ	期末レポート	合計
総合評価割合		20	40			40	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○		○	
思考・判断・表現	(DP3)		○	○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	授業内テストは持込み可						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	ヨーロッパとは何か：歴史、民族、言語、宗教、文化、地域	講義	配布された資料を事後学習として読み理解する。
2	地中海世界とローマ帝国	講義	事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。
3	キリスト教世界の誕生	講義	事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。
4	都市と農村	講義	事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。
5	ルネッサンスと文化	講義	事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。
6	主権国家体制の成立	講義・授業内小テスト	事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。
7	宗教改革・国家・議会	講義	事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。
8	大航海時代：世界と遭遇するヨーロッパ	講義・授業内ミニレポート	世界の近代について期末レポートのテーマを各自考えてくる。
9	ヨーロッパの国際商業	講義	事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。
10	工業化の進展	講義	事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。
11	啓蒙と人権のヨーロッパ	講義	事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。
12	革命と社会	講義	事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。

13	帝国主義と植民地	講義	事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。
14	世界恐慌とファシズムの台頭	講義	事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。
15	戦争と人の移動	講義・授業内小テスト・期末レポート提出	文献調査・情報整理を行い、期末レポートを作成、提出する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	法律学概論 I	単位	2
科目名（英語）	Introduction to Law I	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	3	開講時期	前期
担当教員	森脇敦史		
授業概要	本講義では、行政法を素材として、法律学が社会で果たしている役割を学ぶ。私たちの日常生活は、行政活動抜きには考えられない。そして、現在の行政活動は何らかの形で法律上の根拠に基づいて行われる。従って、行政活動を理解するためには、どのような目的で現在の法が定められ、解釈されているのかを知ることが不可欠である。法律学概論 I では、行政組織法・行政作用法の領域を検討する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。		
テキスト	石川敏行ほか『はじめての行政法』第4版（有斐閣、2018年）		
参考図書 ・教材等			
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール (moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp) で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	法がどのような形で行政活動を規律しているのかを理解できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	結論に至る理由付けを順序立てて説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	現代社会で生じている問題を自ら探索することができる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	法による行政活動の形成と統制が、どのように行われているかを理解する。 授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
具体的な行政活動を、法解釈の視点から説明することができる。			
成績評価の基準			
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A : 80~89	履修目標を達成している。		
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業への参加度	合計
総合評価割合	70					30	
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	◎					
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)	◎					
関心・意欲・態度	(DP5)					○	
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／ 進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス……「行政法」の意味	講義	教科書の該当部分を読む
2	行政は誰が行うか(1)……行政主体、行政機関、公務員	講義	同上
3	行政は誰が行うか(2)……行政機関の分類、裁判と行政機関	講義	同上
4	行政法の基本的な考え方……法治主義、法律の留保	講義	同上
5	行政の透明性確保……法律・手続によるコントロール	講義	同上
6	情報公開、個人情報保護制度	講義	同上
7	行政の行為形式(1)……行政処分の定義	講義	同上
8	行政の行為形式(2)……行政処分の分類	講義	同上
9	行政の行為形式(3)……行政処分の効力	講義	同上
10	行政の行為形式(4)……行政処分の手続	講義	同上
11	行政指導……定義、有効性と限界、争う手段	講義	同上
12	行政立法、行政契約	講義	同上
13	行政の実効性確保(1)……義務の内容	講義	同上
14	行政の実効性確保(2)……間接強制、直接強制、即時強制	講義	同上

15	まとめ	講義	同上
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	法律学概論Ⅱ	単位	2
科目名（英語）	Introduction to Law II	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	3	開講時期	後期
担当教員	森脇敦史		
授業概要	本講義では、行政法を素材として、法律学が社会で果たしている役割を学ぶ。私たちの日常生活は、行政活動抜きには考えられない。そして、現在の行政活動は何らかの形で法律上の根拠に基づいて行われる。従って、行政活動を理解するためには、どのような目的で現在の法が定められ、解釈されているのかを知ることが不可欠である。法律学概論Ⅱでは、行政救済法の領域を検討する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト	石川敏行ほか『はじめての行政法』第4版（有斐閣、2018年）		
参考図書 ・教材等			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール（ moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp ）で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	法がどのような形で行政活動を規律しているのかを理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	結論に至る理由付けを順序立てて説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	現代社会で生じている問題を自ら探索することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	法による行政活動の形成と統制が、どのように行われているかを理解する。 授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
具体的な行政活動を、法解釈の視点から説明することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業への参加度	合計
総合評価割合	70					30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	◎					
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)	◎					
関心・意欲・態度	(DP5)					○	
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／ 進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	行政救済法概論……行政争訟法と国家補償法、民事争訟との違い	講義	テキストの該当部分を読む
2	行政不服審査(1)……制度の意義と種類	講義	同上
3	行政不服審査(2)……審査手続、裁決・決定の効力	講義	同上
4	行政事件訴訟(1)……行政訴訟の歴史、訴訟類型	講義	同上
5	行政事件訴訟(2)……抗告訴訟の類型	講義	同上
6	取消訴訟(1)……訴訟要件(処分性、原告適格)	講義	同上
7	取消訴訟(2)……訴訟要件(訴えの利益、被告適格)	講義	同上
8	取消訴訟(3)……仮の救済	講義	同上
9	取消訴訟(4)……訴訟手続、判決	講義	同上
10	客観訴訟……民衆訴訟、機関訴訟	講義	同上
11	国家賠償(1)……国賠法1条(公権力の行使、公務員)	講義	同上
12	国家賠償(2)……国賠法1条(職務遂行、故意過失・違法性、責任)	講義	同上
13	国家賠償(3)……国賠法2条(営造物責任)	講義	同上
14	損失補償……憲法との関係、補償の内容、国家賠償との関係	講義	同上

15	まとめ	講義	同上
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	教育社会学		単位	2
科目名（英語）	Educational Sociology		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種	
標準履修年次	3年	開講時期	前期集中	
担当教員	白坂正太			
授業概要	現代社会が抱える教育課題を捉えるために、学校教育の社会的・制度的事項を社会学的視点から検討していく。各学校段階の文化的背景を読み解きながら、学校をめぐる諸課題を構造的に明らかにしていく。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	グループワークやディスカッションを行うので、積極的に議論ができること。 ノートPCを持参すること。			
テキスト	初回に適宜紹介し、資料を配布します。			
参考図書 ・教材等				
実務経験を 生かした授業	なし		授業中の 撮影	×
学習相談 ・助言体制	授業後もしくは、電子メールにて受け付けます。shouta.shirasaka@gmail.com まで また、授業後のレポートの中での質問も受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	多角的に教育に関する事象を捉えることができる。
		(DP4)	自身の考えの根拠を社会学的視点から説明できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	現代教育の構造的課題を社会学的視点から見いだすことができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
学校教育の社会的・制度的事項において、社会学的視点を活用し、構造的な課題を見つけることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
学校教育の社会的・制度的事項において、社会学的視点を活用し、教育の課題を見つけることができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		30	50			20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)		○				
	(DP4)		○				
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			○		○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション	講義・WS (ワークショップ)	シラバスの熟読
2	社会の中で生きるとは—学校制度と社会化—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
3	家族と社会化—家庭教育の構造と役割—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
4	学校の成立背景と社会的意義—公教育の理念と法規を中心に—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
5	子どもの遊び環境の変容—遊び場の安全と学校・地域の連携—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
6	社会的存在としての子ども—幼保一元化の政策動向をふまえて—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
7	学級構造の課題—学級における教師の役割—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
8	学校のリスクマネジメント—学校の社会的な位置づけと責任—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
9	中等教育の二面性—制度的側面からみる統合と分化—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
10	高等教育の機能分化—職業教育の多様化に着目して—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習

11	学校教育とジェンダー—教育制度からみる社会的性差—	講義・WS（ワークショップ）	前回の復習
12	教育行政と学校の機能—地域振興に着目して—	講義・WS（ワークショップ）	前回の復習
13	情報化社会と教育—学校の危機管理—	講義・WS（ワークショップ）	前回の復習
14	学修成果における質保証—諸外国の取り組み—	講義・WS（ワークショップ）	前回の復習
15	【総論】教育の社会学的検討—学校の社会的役割の再考—	講義・WS（ワークショップ）	前回の復習
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会福祉学概論 I		単位	2
科目名（英語）	Introduction to Social Welfare I		授業コード	
必修・選択	社会福学科必修・ 公共社会及び人間 形成学科は選択	関連資格	社会福祉士、精神保健福祉士、中一種免、高一種免	
標準履修年次	1年	開講時期	前期	
担当教員	細井 勇			
授業概要	社会福祉の原論という位置づけである。同時に、社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目「現代社会と福祉」の前半部分であり、テキストの前半部分にほぼ相当する。社会福祉とは何かを歴史的な形成として、同時に自由、正義、公正等との関係で捉えることを学ぶ。展開としては、欧米、とくにイギリスを中心に、社会福祉の歴史的な形成を学ぶ。次にイギリスの社会福祉政策（ソーシャル・ポリシー）について学び、社会的正義論としてロールズやセンの正義論を学ぶ。その上で、日本の近代化過程と日本的福祉国家形成の歩みを学ぶ。最後に戦後日本の代表的社会福祉理論を理解する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	お互いの意見交換を重視したい。授業中に抗議できる内容は自ずと限られてくるので、授業内容よりも詳しい内容の資料を提供し、また、推薦する図書を紹介するので、事前事後学習としてよく読み、授業内容の理解に活かしてほしい。			
テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編集 『新・社会福祉士養成講座4 現在社会と福祉』中央法規 第4版 2014年			
参考図書 ・教材等	毎回、資料を配布する。			
実務経験を 生かした授業				授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	コメントカードで受け付ける。また、適宜、個別に質問・相談に応じていく。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	社会福祉を中心に人間・社会に関する専門的知識を理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	人間・社会の諸問題を専門的知識に基づいて論理的に思考することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 社会福祉を歴史的生成として理解し、かつ、社会福祉を自由、正義、公正の問題として主体的に理解することができるようになる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 授業の内容を十分理解できなくとも、一定の展開を知識として学ぶことはできる。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	15	15				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	40	10	10			60
思考・判断・表現	(DP3)	30	5	5			40
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	社会福祉(学)とは何か	講義、グループ討論	テキスト
2	福祉国家のルーツと古典的自由主義思想の形成	講義、グループ討論	配布資料を事前に読んでおくこと
3	社会問題の顕在化とキリスト教慈善事業の形成	講義	配布資料を事前に読んでおくこと
4	1920年前後の社会改良と福祉国家の形成	講義、グループ討論	配布資料を事前に読んでおくこと
5	英国におけるソーシャル・ポリシー	講義	テキスト第1章第2節を事前に@読んでおくこと
6	ボランニーとアンデルセンの福祉レジーム論	講義	テキスト第13章第1節を事前に読んでおくこと
7	功利か自由か、ロールズの正義論	講義、グループ討論	テキスト第3章第3節を事前に読んでおくこと
8	アリストテレスとセンの正義論	講義	同上
9	日本の近代化過程とその特徴について	講義	配布資料を事前に読んでおくこと
10	明治20年代のキリスト教慈善事業について	講義、グループ討論	テキスト第5章第一節を事前に読んでおくこと
11	明治末期の感化救済事業と大正期における社会事業	講義	同上

12	戦後日本と日本の福祉国家形成	講義	テキスト第5章第2節を事前に読んでおくこと
13	日本の代表的な社会福祉理論について：補充論	講義、グループ討論	テキスト第2章第1節、第2節を事前に読んでおくこと
14	日本の代表的な社会福祉理論について：岡村理論	講義、	同上
15	全体のまとめ	講義	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○		○			○			○						
その他（ ）																			
内容				自由と平等の関係、福祉の構成要素とは、日本社会とは（教育と福祉と労働の関係）等についてグループで議論し報告し合う。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	地域福祉論 I			単位	2
科目名（英語）	Community-based Social Welfare I			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士、精神保健福祉士		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	村山 浩一郎				
授業概要	地域福祉は児童福祉や高齢者福祉などの対象者別の福祉分野に並置されるものではなく、地域を基盤とした新しい社会福祉の形態や方法を意味している。地域福祉論 I では、地域福祉の基本的な考え方について学ぶとともに、地域福祉の主体と対象、地域福祉の推進のための仕組みや方法などについて理解を深めていく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、他の社会福祉士指定科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。				
テキスト	特に指定しない。				
参考図書・教材等	①「社会福祉学習双書」編集委員会『社会福祉学習双書 2020 地域福祉論』、全国社会福祉協議会、2020年 ②川島ゆり子・永田祐・榊原美樹・川本健太郎『しっかり学べる社会福祉 3 地域福祉論』、ミネルヴァ書房、2017年 その他の参考文献は適宜、授業の中で紹介する。				
実務経験を生かした授業	NPO を運営した経験や社会福祉協議会等のアドバイザー業務を行った経験を活かして事業を行う。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業のコメントカードやメール等で受け付ける。受講生全員に関わる質問については、授業の中で回答し、個別の質問・相談については、適宜、授業外の時間に応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)		
		(DP 2)	地域福祉の基本的な考え方、地域福祉に係る各主体の役割と実際、コミュニティワークを中心とした地域福祉の推進方法について説明できる。	
	思考・判断・表現	(DP 3)	地域における様々な福祉課題の解決方法について、地域福祉の観点から考察できる。	
		(DP 4)		
	関心・意欲・態度	(DP 5)		
		(DP 6)		
		技能	(DP 7)	
			(DP 8)	
	(DP 9)			
	(DP10)			
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。			
地域福祉の視点から様々な福祉課題の解決方法を考察し、その結果をわかりやすくまとめることができる。				
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。			
地域福祉の基本的な考え方、地域福祉に係る各主体の役割と実際、コミュニティワークを中心とした地域福祉の推進方法に関する用語の意味が理解できる。				
成績評価の基準				

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内 小テスト	授業外レポ ート・宿題	発表	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合		60	40				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)		○	○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	イントロダクション	講義	参考文献①の第1章、第2章、参考文献②の第I部を読む
2	地域福祉とは何か(1)	講義、質疑応答	参考文献①の第1章、第2章、参考文献②の第I部を読む
3	地域福祉とは何か(2)	講義、質疑応答、グループ・ディスカッション	参考文献①の第1章、第2章、参考文献②の第I部を読む
4	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民(1)	講義、質疑応答	参考文献①の第3章、参考文献②の第III部の該当部分を読む
5	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民(2)	講義、質疑応答	参考文献①の第3章、参考文献②の第III部の該当部分を読む
6	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民(3)	講義、質疑応答	参考文献①の第3章、参考文献②の第III部の該当部分を読む
7	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民(4)	講義、質疑応答	参考文献①の第3章、参考文献②の第III部の該当部分を読む
8	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民(5)	講義、質疑応答、小テスト	参考文献①の第3章、参考文献②の第III部の該当部分を読む
9	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民(6)	講義、質疑応答	参考文献①の第3章、参考文献②の第III部の該当部分を読む

10	地域福祉の推進方法(1)	講義、質疑応答	参考文献①の第4章、参考文献②の第5章を読む
11	地域福祉の推進方法(2)	講義、質疑応答	参考文献①の第4章、参考文献②の第5章を読む
12	地域福祉の推進方法(3)	講義、質疑応答、レポート提出	参考文献①の第4章、参考文献②の第5章を読む
13	地域福祉の推進方法(4)	講義、質疑応答	参考文献①の第4章、参考文献②の第5章を読む
14	地域福祉の推進方法(5)	講義、質疑応答、事例検討	参考文献①の第4章、参考文献②の第5章を読む
15	授業のまとめ	講義、質疑応答、小テスト	これまでの授業で配布したレジュメ・資料を読む
備考	福岡県内の他の福祉系大学の教員を招聘し、ボランティア活動に関する授業（1回）を行う可能性がある。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				第3回：ビデオ視聴後、関連するテーマについてグループ・ディスカッションを行う。 第14回：小グループに分かれて事例検討を行い、発表する。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	地域福祉論Ⅱ			単位	2
科目名（英語）	Community-based Social Welfare Ⅱ			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士、精神保健福祉士		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	村山 浩一郎				
授業概要	地域福祉論Ⅰの内容を前提に、地域福祉の推進方法についてさらに理解を深める。具体的には、「個と地域の一体的支援」を展開する「地域を基盤としたソーシャルワーク」の理論と方法を学ぶ。また、地域福祉計画を中心に、「地域福祉の基盤づくり」の理論と方法について学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	地域福祉論Ⅰを履修していること。また、授業内容を理解する上で、他の社会福祉士指定科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。				
テキスト	特に指定しない				
参考図書・教材等	①川島ゆり子・永田祐・榊原美樹・川本健太郎『しっかり学べる社会福祉3 地域福祉論』、ミネルヴァ書房、2017年 ②地域力強化検討会「中間とりまとめ ～従来の福祉の地平を超えた、次のステージへ～」、厚生労働省、2016年 その他の参考文献は適宜、授業の中で紹介する。				
実務経験を生かした授業	地域福祉計画の策定過程への参画や地方自治体の地域福祉行政のアドバイザーとなった経験を活かして授業を行う。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業のコメントカードやメール等で受け付ける。受講生全員に関わる質問については、授業の中で回答し、個別の質問・相談については、適宜、授業外の時間に応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	「地域を基盤としたソーシャルワーク」と「地域福祉の基盤づくり」の理論と方法について説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	・地域生活課題に対する援助内容を「地域を基盤としたソーシャルワーク」の観点から考察できる。 ・「地域福祉の基盤づくり」の課題と今後の在り方について考察できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
地域生活課題に対する「地域を基盤としたソーシャルワーク」の観点からの援助内容の考察と地域福祉計画を中心とする「地域福祉の基盤づくり」の在り方の考察を的確に行い、その結果をわかりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
「地域を基盤としたソーシャルワーク」と「地域福祉の基盤づくり」の理論と方法に関する用語の意味が理解できる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内 小テスト	授業外レポ ート・宿題	発表	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合			60	40				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○				
思考・判断・表現	(DP3)		○	○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	地域福祉援助の体系	講義	参考文献①の序章を読む
2	地域を基盤としたソーシャルワークの理論と方法①	講義、質疑応答	参考文献①の第3章、第4章を読む
3	地域を基盤としたソーシャルワークの理論と方法②	講義、質疑応答、グループ・ディスカッション	参考文献①の第3章、第4章を読む
4	地域を基盤としたソーシャルワークの実際①	講義、質疑応答	参考文献①の第3章、第4章を読む
5	地域を基盤としたソーシャルワークの実際②	講義、質疑応答	参考文献①の第3章、第4章を読む
6	地域を基盤としたソーシャルワークの実際③	講義、質疑応答、事例検討	参考文献①の第3章、第4章を読む
7	地域福祉をめぐる新たな動向①	講義、質疑応答、	参考文献②をインターネット等で入手し、読む
8	地域福祉をめぐる新たな動向②	講義、質疑応答、レポート提出	参考文献②をインターネット等で入手し、読む
9	地域福祉をめぐる新たな動向③	講義、質疑応答	参考文献②をインターネット等で入手し、読む

10	地域福祉をめぐる新たな動向④	講義、質疑応答、小テスト	参考文献②をインターネット等で入手し、読む
11	地域福祉の基盤づくりの理論と方法①	講義、質疑応答	参考文献①の第6章、第7章を読む
12	地域福祉の基盤づくりの理論と方法②	講義、質疑応答	参考文献①の第6章、第7章を読む
13	地域福祉の基盤づくりと地域福祉計画①	講義、質疑応答	自分の住んでいる地域や先進地域の地域福祉計画を調べ、読む
14	地域福祉の基盤づくりと地域福祉計画②	講義、質疑応答、事例検討	自分の住んでいる地域や先進地域の地域福祉計画を調べ、読む
15	授業のまとめ	講義、質疑応答、小テスト	これまでの授業で配布したレジュメ・資料を読む
備考	適宜、ビデオ（動画）を視聴する		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				第3回：ビデオ視聴後、関連するテーマについてグループ・ディスカッションを行う。 第6、14回：小グループに分かれて事例検討を行い発表する。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	教育学概論B			単位	2
科目名（英語）	Introduction to Educational Research B			授業コード	
必修・選択	必修・選択	関連資格	高等学校教諭（公民）、中学校教諭（社会）、養護教諭		
標準履修年次	1年	開講時期	前期		
担当教員	藤澤健一				
授業概要	教育に関する概念、教育の理念、歴史と思想にかかわる基礎的事項を修得する。教育学は、乳幼児から成人にいたるまでの人間の成長と変化の過程を科学的、経験的に考察する。教育学の課題は、学校教育にとどまらず多様な側面をもつ。本講義では、教育学の基礎的概念を修得し、受講者による事前の調査、討論を通じて、知識の実践的な活用を体験する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト					
参考図書・教材等	ポウルヴィ『母と子のアタッチメント』医歯薬出版、1993、勝野正章ほか『問いからはじめる教育学』有斐閣、2015、学習指導要領（2017年度改訂）				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	レスポンスカードあるいはメールで受け付ける。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	教育学における基礎的概念を理解できるようになる。
	思考・判断・表現	(DP3)	教育にかかわる事象を教育的に分析できるようになる。
		(DP4)	自己の意見を明晰に表現し、他者と協議できるようになる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	グループワークを通じ自らの思考を論理的に伝達できるようになる。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
教育に関する概念、教育の理念、歴史と思想にかかわる基礎的事項について正確に理解したうえで、自らの考えを論理的に伝達することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
教育に関する概念、教育の理念、歴史と思想にかかわる基礎的事項にかかわる用語の意味が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60～69	到達目標を達成している。
不可 : ～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80		20			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○				
思考・判断・表現	(DP3)		○				
	(DP4)		○	○			
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)			○			
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション(教育の概念・本質・目標)	講義	シラバスの精読
2	教育政策の歴史と現代的な課題	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
3	教育の理念・思想(家庭教育と近代教育)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
4	「教育」の理念とは何か—これまでの体験から	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
5	教育の本質と目標(陶冶論、科学としての教育学)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
6	教育の本質と目標(家庭教育、人間形成の概念)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
7	教育の本質と目標(学校教育、現代の学校)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
8	近代の教育制度(義務制・無償制・中立性)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
9	現代日本の家庭教育と学校教育の歴史的展開	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
10	教育課題の歴史と現状	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
11	子どもと家庭教育(発達段階)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
12	子どもと家庭教育(経験主義と体験学習)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
13	学校と学習の教育思想	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備

14	学校と学習の教育思想	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
15	講義全体の振り返り	講義とグループワーク	指定資料の精読
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	生涯教育論		単位	2
科目名（英語）	Lifelong Education		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種、幼一種	
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	董 秋艶			
授業概要	本授業を通して、生涯教育/学習を支える思想及び施策を学びとともに、人間形成に関わる教育/学習支援への在り方とその課題を知る。それらの学びを通して、教育/学習という側面から生涯教育の役割と機能をよりよく発揮できるかを考えるよう目指す。			
履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等	形成学科の学生が必修			
テキスト	配付資料を中心とし、必要に応じて適宜指示する。			
参考図書 ・教材等	社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』（エイデル研究所 2017年） 佐藤一子『現代社会教育学－生涯学習社会への道程』（東洋館出版社 2011年） 香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編『よくわかる生涯学習』（ミネルヴァ書房 2017年）			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	質問や相談等は、授業終了後またはメールにて受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	生涯教育/学習の基礎的な知識について理解する
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50	20	10	20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	50	20	10	20			100
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション（本授業の視点と概要）	講義	生涯教育を考える
2	「生涯教育」とは何か？ ～思想/概念～	講義（配布資料）	予習・復習
3	「生涯」を対象とした「教育」がなぜ必要か？ ～生涯にわたる人間形成～	講義（配布資料）	課題レポートの作成
4	生涯教育は大人が対象なのか？	演習（課題レポート発表）	課題のふりかえ
5	生涯教育と社会教育	講義（配布資料）	予習・復習
6	生涯教育と生涯学習	講義（配布資料）	課題レポートの作成
7	「教育」と「学習」って何か違うのか？	演習（課題レポート発表）	課題のふりかえ
8	生涯教育の現代的課題を考える① ～夜間中学校～	講義（配布資料）	予習・復習
9	生涯教育の現代的課題を考える② ～図書館～	講義（配布資料）	予習・復習
10	生涯教育の現代的課題を考える③ ～公民館～	講義（配布資料）	課題レポートの作成
11	生涯教育か生涯学習か？	演習（課題レポート発表）	課題のふりかえ

12	生涯学習を实践する① ～あなたが好きな新書をおすすめしよう～	講義（配布資料）	予習・復習
13	生涯学習を实践する②	講義 グループワーク	好きな新書を選び、紹介文の作成
14	生涯学習を实践する③	グループワーク 発表	発表のふりかえ
15	まとめと学習のふりかえ	講義	復習
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会教育論			単位	2
科目名（英語）	Adult and Community Education			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	太田華奈				
授業概要	<p>生涯学習はその学習形態や特徴から、フォーマルエデュケーション、ノンフォーマルエデュケーション、インフォーマルエデュケーションの3つの領域に分けて考えることができます(チームス)。ごく簡単に分類すると、1つ目のフォーマルエデュケーションは定型教育で学校教育的なモデルを指します。2つ目のノンフォーマルエデュケーションは、不定型教育で、日本の公的社会教育はこの形態をとっています。なお、日本の公的社会教育とは学校教育と家庭教育以外の領域における、人々の組織的な(組織化しつつある)教育活動を指します。最後、インフォーマルエデュケーションは個人が学習と認識している/していないもふくめた非組織的で、非体型的、非制度的な学習です。</p> <p>本授業では、ノンフォーマルエデュケーション領域に焦点をあてるなかで、社会教育の固有性や特徴を理解すると共に、ノンフォーマルエデュケーションとしての社会教育の可能性や課題を共に考えていきます。</p> <p>具体的にノンフォーマルエデュケーション及び社会教育についての知識を得つつ、自ら考えていくために、丸山英樹・太田美幸『ノンフォーマル教育の可能性—生活に根ざす教育へ』(新評論, 2013年)をテキストとして用います。テキストの精読し、考察を行い、問いを立て、みんなで議論してゆきます。こうした一連の作業を通して、問いを深めながら、次の3点について探求します。現代社会におけるノンフォーマルエデュケーションとしての社会教育の①意味や価値とはなにか。②可能性とは何か。③課題とは何か。</p>				
履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特にありません。学校教育に疑問を持っている、学校教育について別の視点から考えてみたい、生活に根ざす教育に関心がある、現代社会の課題の解決を探りたい…学生さん！待っています。				
テキスト	丸山英樹・太田美幸『ノンフォーマル教育の可能性—生活に根ざす教育へ』(新評論, 2013年) ISBN 978-4794809605				
参考図書・教材等	社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』(エイデル研究所, 2017年)他。随時、授業内で提示します。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業の前後に行います。また、メールでの連絡も受け付けています。 ※「なぜ?」と問いかけることを大事にしていきます。「どうしたら」の前に、「なぜ」という問いをはさみ、考えていくことを意識しましょう。そうして、物事を批判的に考えていきましょう。「なぜ」を持ったあなたが、参加されることを楽しみにしています!				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会教育の本質、特徴や固有性についての基本的な知識を獲得できる。社会教育の観点から問いをたてることができる。社会教育のまなざしを獲得できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	現代社会におけるノンフォーマルエデュケーションとしての社会教育の意味や価値、可能性、課題は何かについて主体的に考えることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	

		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
ノンフォーマルエデュケーション及び、社会教育の本質、特徴や固有性についての基本的な知識を獲得したうえで、社会教育の観点から主体的に問いをたてることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会教育のまなざしを獲得し、そのまなざしでもって次の3点について自ら探求し、他者に伝えていくことができる。現代社会におけるノンフォーマルエデュケーションとしての社会教育の①意味や価値とはなにか。②可能性とは何か。③課題とは何か。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
ノンフォーマルエデュケーション及び、社会教育の本質、特徴や固有性についての基本的な知識を獲得することを怠らず、テキストの精読に毎回主体的に取り組み、その成果をレジメの作成、発表にいかすことができる。さらに授業内において、社会教育の観点を理解したうえで、自らの考えを積極的に他者に伝え、議論を深めていくことができる。			
A：80～89	履修目標を達成している。		
ノンフォーマルエデュケーション及び、社会教育の本質、特徴や固有性の理解に積極的でありつつ、テキストの精読に毎回主体的に取り組み、その成果をレジメの作成、発表にいかすことができる。さらに授業内において、社会教育の観点を理解したうえで、自らの考えを他者に伝えていくことができる。			
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		
ノンフォーマルエデュケーション及び、社会教育の本質、特徴や固有性に関心を持ちつつ、テキストの精読に主体的に取り組み、その成果をレジメの作成、発表にいかすことができる。さらに授業内において、社会教育の観点を理解したうえで、自ら考え、他者に伝えようという志向性をもつことができる。			
C：60～69	到達目標を達成している。		
テキストを読み、その成果をレジメの作成、発表にいかすことができる。さらに授業内において、自ら考えることができる。			
不可：～59	到達目標を達成できていない。		
社会教育のまなざしを獲得することの意味を自らに問うことなく、また社会教育のまなざしを獲得しようと格闘することをしない。テキストを精読せず、自らの観点のみでレジメを作成し、発表をやり過ごすように取り組む。授業内で求められても発言を拒むことが続く。他者との議論に参加しようとする意志が著しく見られない。			

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	50		25	5		20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○	○		○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○		○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						

	(DP9)							
	(DP10)							
備考	授業参加度と、レジメの作成・発表も評価の対象とします。							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション(授業の進め方、発表順決め、自己紹介など)	講義・ワーク	そのままのあなたで臨んでください!
2	ディスカッションについて	講義・ワーク	嫌だったディスカッションをその理由と共に、思い出してきてください。
3	ノンフォーマルエデュケーション及び、社会教育の本質、特徴、固有性等について。	講義	「教育」についての疑問をできる限りたくさん考えてきてください。
5	丸山英樹・太田美幸『ノンフォーマル教育の可能性』(新評論, 2013年 ※以下『テキスト』)「はじめに」「第1章」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「1章」「はじめに」を読み、問いを立ててきてください。
6	『テキスト』「第2章」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「2章」を読み、問いを立ててきてください。
7	『テキスト』「第3章」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「3章」を読み、問いを立ててきてください。
8	『テキスト』「第4章」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「4章」を読み、問いを立ててきてください。
9	『テキスト』「第5章」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「5章」を読み、問いを立ててきてください。
10	『テキスト』「第6章 1・2」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「6章 1・2」を読み、問いを立ててきてください。
	『テキスト』「第6章 3」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「6章 3」を読み、問いを立ててきてください。
11	『テキスト』「第7章 1・2」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「7章 1・2」を読み、問いを立ててきてください。
12	『テキスト』「第7章 3・4」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「7章 3・4」を読み、問いを立ててきてください。
13	『テキスト』「第8章」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「8章」を読み、問いを立ててきてください。
14	『テキスト』「第9章」「あとがき」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「9章」「あとがき」を読み、問いを立ててきてください。
15	まとめ	ディスカッション	話し合いたいことを考えてきてください。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	対人心理学		単位	2
科目名（英語）	Social Psychology of Interpersonal Relationships		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1	開講時期	前期	
担当教員				
授業概要	福祉社会を支える人材として対人関係に関わる心理を知っていることは有利になります。この講義では対人コミュニケーションに困らないための初歩を説明します。人に好感をもたれること、人を理解すること、人に説明すること、対人葛藤を解決すること、コミュニケーションを通して心理や行動が操作されやすいこと等を取り上げます。なお授業は毎回異なる人とのペアを組んで行われます。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「心理学概論」を同時に履修することが望ましい			
テキスト	なし			
参考図書・教材等	なし			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	メールでの質問を受け付けます。また課題提出用紙にてされた質問について6問程度を選んで授業中に回答します。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	対人コミュニケーションで失敗しないための初歩の知識をもっている
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	積極的に他者より良いコミュニケーションをとろうとすることができる
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
対人心理学の知識を積極的に学習できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
授業の説明と課題を通して得た対人心理学の基礎知識をもっている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
C：60～69 到達目標を達成している。			

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			80	20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○				
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	人間関係を振り返る	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
2	話を聞く1	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
3	話を聞く2	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
4	話を聞く3	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
5	話を聞く4	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
6	説明する1	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
7	復習	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
8	説明する2	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
9	説明する3	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
10	聞いて、説明する1	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
11	聞いて、説明する2	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
12	解決する1	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
13	解決する2	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
14	解決する3	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
15	復習	スライドを使つての講義と課題	e-learningの資料の利用
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				授業は毎回異なる人とのペアを組んで行われます。 通常は自分の人間関係をチェックするための課題をペアで行います。 復習課題のときは、事前に課題を説明しますので、準備をして来てください。また、当日はダウンロードした提示資料を持参してください。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	Web デザイン演習		単位	1
科目名（英語）	Web Design Practicum		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士	
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	柴田 雅博			
授業概要	インターネットでは様々な Web サイトが運営されている。Web ページがどのように作られているのか、Web ページを構成する代表的な技術（HTML, CSS, JavaScript）について学び、自ら情報発信を行える技能を身に付ける。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	こもりまさあき・赤間公太郎『Web デザインの新しい教科書（改訂新版）』，エムディーエヌコーポレーション，2016，¥2,500+税			
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。ただし、レポート提出メールの場合、確認が遅れることがあるので、質問メールはレポート提出と別に送ってくれると助かります。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	Web サイトの構成について理解している。 HTML, CSS, JavaScript といった Web 関連技術に関する知識を修得している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	アクセシビリティ、ユーザビリティを考慮して Web ページをデザインすることができる
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
		(DP 7)	
	技能	(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	HTML を使って Web ページの開発を行うことができる。 HTML と CSS を組み合わせて Web ページの構成デザインを行うことができる。 JavaScript を使ったプログラミングを実施できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
Web 関連技術を十分に理解し、目的やユーザー層を鑑みながら、Web サイトの仕様策定、設計、制作を実施することができる。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
Web 関連技術を理解し、HTML, CSS などを用いて Web ページを作成することができる。	
成績評価の基準	
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	演習課題	授業態度・参加度	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70	30				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○				
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)		○				
関心・意欲・態度	(DP5)		○				
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		○				
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	Web サイトの構成（システム構成、Web サーバ）	講義	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。
2	Web サイトの設計。アクセシビリティ、ユーザビリティ	講義	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。
3	Web サイト制作の設計計画	Web サイト制作のための作成計画 演習	事前にどのような Web サイトを作るか、ある程度の構想を建てておく。 次週までに Web サイトの構成、仕様策定、ある程度のデザインなどの計画書を作成する。
4	HTML（1）： タグ、属性、Web ページの基本構造	講義と Web ページ作成演習	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。

I. 科目情報

科目名（日本語）	情報ネットワーク論			単位	2
科目名（英語）	Information Network Studies			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	柴田 雅博				
授業概要	現在の情報システムはネットワークと切り離して話すことができない。パソコンやスマートフォンで日常的に利用しているネットワークがどのように構成され、どのような技術が用いられているのかを知っておくのは重要である。 本講義では、インターネットやLANなどのネットワークシステムの構成、周辺技術について学習する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	eラーニングで資料を配布します。				
参考図書 ・教材等					
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。ただし、レポート提出メールの場合、確認が遅れることがあるので、質問メールはレポート提出と別に送ってくれると助かります。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	ネットワークシステムの構成について理解している。 ネットワーク技術に関する専門用語や基礎知識を理解している。 ネットワークセキュリティの基礎知識を修得している。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	セキュリティを考慮しながらネットワーク利用ができる。
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
ネットワークシステムを構築する各機器の役割について理解する。ネットワーク技術に関する数学的知識を身につける。ネットワークセキュリティに関する基盤技術について理解する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
ネットワークの仕組み、LANの構成について理解する。ネットワークセキュリティについて理解する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	授業態度・参加度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60		20	20			100
知識・理解	(DP1)	○		○			
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)	○		○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)			○			
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)	○		○			
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回:通年) 90分 (30回:半期2コマ連続)
1	コンピュータネットワークの基礎	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
2	インターネットの技術	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
3	OSI基本参照モデルとTCP/IPモデル	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
4	プロトコル技術	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
5	LANシステムの構成	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理

			解を深める。
6	IP アドレス	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
7	サーバー (1)	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
8	サーバー (2)	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
9	ルーター	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
10	スイッチと VLAN	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
11	ファイアーウォール	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
12	ネットワーク攻撃とセキュリティ	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
13	暗号化、ユーザ認証	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
14	無線 LAN	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
15	音声、動画の通信	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15			
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	データベース論		単位	2
科目名（英語）	Database Studies		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士	
標準履修年次	2	開講時期	後期	
担当教員	柴田 雅博			
授業概要	世の中にある多くの情報システムにおいてデータベースはデータ管理の中核となっている。本講義では、情報システム設計の基本となるデータベースについて、役割と仕組み、構築とデータ管理について学習する。また、Microsoft Access を利用して実際にデータベースの構築を行う。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	eラーニングで資料配布します。 Access の操作については、『情報リテラシー教科書 Windows8/Office2013+Access 対応版』矢野文彦（オーム社）を使用			
参考図書 ・教材等				
実務経験を 生かした授業				授業中 の撮影
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。ただし、レポート提出メールの場合、確認が遅れることがあるので、質問メールはレポート提出と別に送ってくれると助かります。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	情報システムにおけるデータベースの役割・機能について理解している。 データベースの仕組みに関する基礎知識を修得している。 SQL の記法を理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	現実事象を適切にモデル化することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	データベースの設計・構築を行うことができる。 SQL を使ってデータベースから必要な情報を抽出することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	演習課題・ レポート	授業態度・ 参加度	発表	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合			80	20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○					
思考・判断・表現	(DP3)		○					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)			○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○					
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	データベースとは	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
2	データベース管理システム	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
3	関係データベース（1）	講義と Access の基本操作演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
4	関係データベース（2）	講義と Access の基本操作演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
5	関係代数	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。

6	Access の操作演習	Access による DB 検索演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
7	SQL (1)	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
8	SQL (2)	講義と SQL による DB 操作演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
9	SQL (3)	講義と SQL による DB 操作演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
10	データベースの設計(1)三層スキーマ	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
11	データベースの設計(2)E-Rモデル	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
12	データベースの設計(3)正規化1	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
13	データベースの設計(4)正規化2	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
14	データベース設計演習(1)	データベースの設計構築演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
15	データベース設計演習(2)	データベースの設計構築演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 締切までに課題を提出する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	プログラミング演習			単位	1
科目名（英語）	Programming Practicum			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士		
標準履修年次	3	開講時期	前期		
担当教員	柴田 雅博				
授業概要	問題解決を図るためには論理的思考が必要である。プログラミングは論理的思考能力を身に付けるのに非常に有効である。 「プログラミング概論」で身に付けたプログラミング手法を応用し、具体的な目的を達成するためのアプリケーション開発を行う。そのために必要なモデル化、モジュール化の知識を修得し、実践に活かす力を身につける。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「プログラミング概論」を受講していることが望ましい。				
テキスト	eラーニングシステムで資料提供する。				
参考図書 ・教材等					
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。ただし、レポート提出メールの場合、確認が遅れることがあるので、質問メールはレポート提出と別に送ってくれると助かります。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	オブジェクト指向型プログラミングの概念を理解している。 論理的思考を行うための前提知識を身につける。
	思考・判断・表現	(DP 3)	現実問題をモデル化することができる。 大問題を小問題の群として再構成し、問題解決方法を模索できる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	目的を達成するために、アルゴリズムを設計し、プログラム開発を行うことができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
問題解決のために、問題をモデル化し、解決手段を論理的に検討することができる。またプログラミングを用いて問題解決を図ることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
オブジェクト指向型プログラミングの概念を理解し、オブジェクト指向型プログラミングを作成できる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	演習課題	授業態度・参加度	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			70	30				
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○					
思考・判断・表現	(DP3)		○					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○					
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
2	C言語の復習	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
3	メソッド	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
4	アルゴリズムの基礎（1）	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
5	アルゴリズムの基礎（2）	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
6	オブジェクト指向型プログラミング	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。

7	.Net Framework	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
8	Windows アプリケーションの作成基礎	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
9	イベント駆動型プログラミング	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
10	カプセル化	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
11	継承 (1)	講義とアプリケーション設計演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
12	継承 (2)	講義とアプリケーション設計演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
13	中規模アプリケーションの開発	講義とアプリケーション開発演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
14	中規模アプリケーションの開発	講義とアプリケーション開発演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
15	中規模アプリケーションの開発	講義とアプリケーション開発演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 締切までに課題を提出する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他 ()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	情報検索システム論			単位	2
科目名（英語）	Information Retrieval Systems			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士		
標準履修年次	3年	開講時期	後期		
担当教員	柴田 雅博				
授業概要	インターネットや情報システムの中には膨大なデータが蓄積されており、今もなお増加している。我々はその膨大なデータの中から必要な情報を検索・抽出しなければならない。本講義ではWeb検索エンジンを例にテキスト検索を中心に、情報検索がどのように行われているのか、その仕組みについて学習する。また一般に判別技術についても学習する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特にないが、「プログラミング概論」を受講していることが望ましい。				
テキスト	eラーニングで資料配布します。				
参考図書 ・教材等					
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。ただし、レポート提出メールの場合、確認が遅れることがあるので、質問メールはレポート提出と別に送ってくれると助かります。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	Web検索エンジンの仕組みについて理解している。 検索関連技術について理解している。 機械学習手法の基礎を理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	情報判別手法の基本を理解し、問題解決に応用できる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	機械学習（教師あり学習）を実践に応用できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
Web検索エンジンに関する基盤技術を理解している。AIに関する基盤技術を理解し、問題解決への応用を図ることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
Web検索エンジンの仕組みを理解している。AI技術の基礎的な知識を身につけている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	演習	授業外レポート・宿題	授業態度・参加度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50	10	20	20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○		○				
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)				○			
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○	○				
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	情報検索とは	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
2	テキスト検索: 文書の表現	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
3	検索エンジンの構成、クローリング	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
4	形態素解析: 単語の抽出	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
5	索引付け	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理

			解を深める。
6	辞書	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
7	検索の評価値(1):PageRank	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
8	検索の評価値(2):その他 (tf/idf、コサイン類似度、PMI、シソーラス類似度)	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
9	画像の検索	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
10	情報検索システムの評価:適合率、再現率、F値	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
11	情報検索システムの評価テスト:機械学習、クロスバリデーション	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
12	検索質問の拡張:対話型検索、自然言語検索、QA	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
13	情報検索技術の応用:自動要約、文書分類、情報推薦	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
14	情報検索技術の応用:セマンティックウェブ、対話システム	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
15	情報検索技術の応用:判別技術	機械学習に関する演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	問題解決演習	単位	1
科目名（英語）	Problem Solving	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	2年	開講時期	後期
担当教員	神谷英二・森脇敦史・井上奈美子		
授業概要	<p>現代社会では、個人の能力を発揮することによって、地域社会が発展することが重要視されています。授業では、地域社会で生まれる様々な問題に対して、課題を抽出し、解決案を策定し、最終的に他者へ提示する体験をします。</p> <p>授業の中では、具体的な社会課題を考えるため可能な限り身近な課題を扱う予定です。これまでは、めんべい、博多座、西部ガスなどの企業から提供された課題を解決することに挑戦しました。授業時間には限りがあるため、授業内容を身近な課題に引き寄せて自己学習を行う能動的学習態度、チームでの協同作業への主体的な取り組みが求められます。なお、授業の連続性が高く学外の方との協同作業も含まれるため、毎回の授業出席は重要になります。</p>		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	前向きな姿勢でグループワークに参加し、授業を欠席しないよう努めること		
テキスト	なし		
参考図書・教材等	講義の中で紹介します		
実務経験を生かした授業	企業や行政にマネジメントや人材育成について助言アドバイスをしている教員が諸経験を活かし、社会で活躍するために必要になる基礎的能力育成を目指して講義する。	授業中の撮影	有
学習相談・助言体制	コメントカード（毎回回収します）、またはメールで随時応じる。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
		(DP3)	
	思考・判断・表現	(DP4)	チームの内部及び外部の者に対して、問題の設定や解決に関する情報を的確に伝達できる。
		(DP5)	
	関心・意欲・態度	(DP6)	地域社会に存在する問題を発見し、自らその解決に向けて具体的に活動することができる。
		(DP7)	
	技能	(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	問題の発見、解決に必要なとなる情報の収集、分析を適切に行うことができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す。		
到達目標	地域社会で生まれる様々な問題に対して、課題を抽出し、解決案を策定し、最終的に他者へ提示する体験をします。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	与えられた課題を身近な課題に引き寄せて自己学習を行う能動的学習態度をはぐくみます。また、チームでの協同作業への主体的な取り組み姿勢を身に着けます。パワーポイントを作成し、社会人を相手にプレゼンする力を身に着けます。
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			30		60		10	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)		10		20			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)		10		20			
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		10		20		10	
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス（グループづくり、試験、単位、学習到達目標の確認）		
2	多様な地域課題の背景と課題間の関係性について考える	講義・アクティブラーニング	本講義では、学生が主体的にグループで各領域について調べ、学びあい、発表しあいます。課題を提供していただくのは、民間企業や行政機関となります。1・2回は現場を見学する予定です。土曜日に見学訪問を行う可能性が高いです。課題の内容や活動の状況によっては、予定を変更することがあ
3	地域課題の抽出、チームビジョンの共有、チームリーダー決定	講義・アクティブラーニング	
4	企業分析のためのツールや分析方法について	講義・アクティブラーニング	
5	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	

6	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	ります。
7	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	
8	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	
9	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	
10	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	
11	チーム活動報告書作成、発表準備（パワーポイント）	講義・アクティブラーニング	
12	チーム活動報告書作成、発表準備（パワーポイント）	講義・アクティブラーニング	
13	変課題解決案の発表会の準備	講義・アクティブラーニング	
14	プレゼンテーション	アクティブラーニング	
15	振り返り	プレゼンテーション	
備考	5回以上欠席した場合は単位履修できません。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
その他（ ）																		
内容				グループでのアクティブラーニングを軸として講義を進める。最後の講義ではグループによるプレゼン発表を行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	人的資源管理論		単位	2
科目名（英語）	Human resource management theory		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	井上 奈美子			
授業概要	<p>人的資源管理論とは労働関係の法体系を遵守しつつ、良質な労務管理を実現するための技術及び人的資源の最適な活用とその継続的な能力開発を促すための学問である。この領域は、社会的影響を受けつつも、私達の働き方や生活様式の変化に影響を与える。講義では、人的資源管理が誕生する以前の人事管理と比較しながら米国で誕生し発展した人的資源管理の特徴、そして日本への影響などを概説する。続いて、日本企業における具体的な人的資源管理の内容について議論する。グローバル競争が激しくなる経営環境を受け、企業の人材開発は重要なファクターであり、近年様々な変革が実践されている。こうした変革の動向を概観するとともに、変革の背景や変革が社会におよぼす影響についても検討していく。更に、企業や団体が取り組む人の採用と育成について実際のケースを扱い理論と実践について展望する。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	講義が始まる前までに以下のテキストを生協にて購入し、持参すること。講義はテキストを用いてグループディスカッションを行います。テキストがないと議論ができませんのでテキストが手元にあることが条件となります。			
テキスト	入門 人的資源管理 第2版（著）奥林 康司（注）第2版です。ご注意ください。			
参考図書・教材等	講義の中で紹介します			
実務経験を生かした授業	大学就職課課長として、職員のマネジメント経験、雇用と人材育成のコンサル、学生への就職指導を行ってきた教員が、諸経験を活かし、職業選択の手法、ライフキャリア、人的マネジメントについて講義する。	授業中の撮影	有	
学習相談・助言体制	コメントカード（毎回回収します）、またはメールで随時応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	職業社会に関する知識：良質な労務管理を実現するための技術及び人的資源の最適な活用とその継続的な能力開発を理解する
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	就業意欲：人生と職業生活に関する諸問題を主体的意欲的に探求することができる
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す。		
労働関係の法体系を遵守しつつ、良質な労務管理を実現するための技術及び人的資源の最適な活用とその継続的な能力開発を促すことを目指す。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
国内外の人的資源管理の歴史と発展について理解する。グローバル競争が激しくなる経営環境を受け、企業の人材開発は重要なファクターであり、近年様々な変革が実践されている。こうした変革の動向を概観するとともに、変革の背景や変革が社会におよぼす影響について理解する。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。
グループでのアクティブラーニングを軸として講義を進める。最後の講義ではグループによるプレゼン発表を行う。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40		60			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)		20	30			
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		20	30			
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション（テキストや成績などについて）		
2	人的資源管理の役割と生成	講義・アクティブラーニング	毎回、講義の冒頭に2分間の振り返りを全員で行う。各自、予習復習を行うこと。本講義では、学生が主体的にグループで各領域について調べ、学びあい、発表しあうことを繰り返します。専門的な用語や学術的観
3	企業経営と人的資源管理	講義・アクティブラーニング	
4	働く動機づけ	講義・アクティブラーニング	

5	リーダーシップ	講義・アクティブラーニング	点は教員から解説しますが、原則、自分たちで調べ、議論することが中心の講義スタイルで、深く広く理解することを目指します。
6	職務と組織の設計	講義・アクティブラーニング	
7	人的資源管理の仕組み	講義・アクティブラーニング	
8	能力開発	講義・アクティブラーニング	
9	人事考課制度	講義・アクティブラーニング	
10	専門職制度	講義・アクティブラーニング	
11	賃金制度	講義・アクティブラーニング	
12	福利厚生制度	講義・アクティブラーニング	
13	労使関係	講義・アクティブラーニング	
14	女性労働者	講義・アクティブラーニング	
15	高齢労働者とワークライフバランス		
備考	5回以上の欠席の場合は単位取得できません。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
その他()																		
内容				テキストの章ごとにグループを形成し、アクティブラーニングと発表を繰り返す。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	キャリア論	単位	2
科目名（英語）	Career	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	教員資格
標準履修年次	3	開講時期	前期
担当教員	井上奈美子		
授業概要	<p>進路選択は、個人が将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長することを目指す過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す活動でもある。それを包含するキャリア教育は、教育機関で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。本講義では、まずキャリア教育の歴史的背景と現代社会における意義の理解を深める。そのうえで個人が自己実現を果たす進路選択についてキャリアに関する様々な理論をもとに議論する。これによって、将来教員を目指す者にとってはキャリア教育の実践力が身に付き、民間企業や公的機関への就職を目指す者にとっては就職活動に有意義な知識を獲得することができる。なお本講義では履修生主体のアクティブラーニングを行う。</p>		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<p>本学のプレインターンシップ、社会人基礎力などを履修することが望ましい。</p>		
テキスト			
参考図書・教材等	<p>教職志願者は教科書を生協にて購入してください。それ以外の方には適宜資料提供します</p>		
実務経験を生かした授業	<p>長年、大学の就職課で就職（キャリア）進路支援を行った実務経験者が指導する。キャリア教育の教員に求められる知識と資質、さらに民間や公的機関の採用試験の動向について議論する。</p>	授業中の撮影	
学習相談・助言体制	<p>コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。授業中の質問、発言は成績評価の加点となります。</p>		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力について自らの思考を形成し、キャリア教育の視点を提示することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	進路選択、キャリア教育に関する専門知識を獲得し実践することができる。
履修目標	<p>授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。</p>		
<p>社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力について自らの思考を形成し、キャリア教育の視点を提示することができる。</p>			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		

進路指導、キャリア教育の教育意義を理解し、さらに現代の子供たちの進路選択や悩みを理解することができる。現代社会で若者が抱える就職活動の悩みや新卒労働市場の動向などについて理解する。キャリア教育の理論を理解し、自身の進路選択や人生に活かすことができる。

成績評価の基準

S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。

A：80～89 履修目標を達成している。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C：60～69 到達目標を達成している。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

5回以上の欠席は不可となります。ご注意ください。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			40		60			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)		20		30			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		20		30			
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション（講義の進め方、課題、成績評価の説明など）	講義、履修目的の明確化	
2	キャリア教育の歴史、職業指導から進路指導そしてキャリア教育へ 第1回講義	教職課程履修生には、講義に加えて文部科学省発行の資料などを読み込む	毎回、講義の復讐として自習を行う。配布資料は各自でダウンロード、印刷を行うこと
3	教育振興基本計画、中央教育審議会答申の職業教育 第2回	課題が別途あります。予習復習として	
4	キャリア教育推進施策の展開 第3回	自己学習が必要になります。	
5	キャリア発達支援 第4回	民間企業や公的機関への就職を希望する履修生には資料課題はありません	
6	主体的進路選択 第5回 資料なし	さんが、講義で学んだことを就職活動や	

7	キャリア教育の意義と原理、自己実現過程 第6回	その後の社会活動に活用できる知識の獲得を目指します。 本講義は学生主体で学びあうアクティブラーニングを取り入れます。その中で進路指導の模擬事業を行っています。 学生へのプレゼン発表・グループ	
8	キャリア教育における地域・産業界との連携、インターンシップ 第7回資料なし		
9	キャリア意思決定（文部科学省提言）第8回 資料なし		
10	キャリア自己効力感－社会認知的キャリア理論		
11	現実的探索・試行と社会的移行準備		
12	職業観・勤労観の確立		
13	キャリアと協働、キャリア自己概念		
14	生涯にわたる主体的キャリア形成		
15	学習の振り返り、プレゼンテーション		
備考	同じ人が作業や発言をしないようチームワークを重視した学習活動を行う		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
その他（ ）																	
内容	毎回、なんらかのグループでのアクティブラーニングを行う。模擬授業や模擬面接もあり																

I. 科目情報

科目名（日本語）	組織マネジメント		単位	2
科目名（英語）	Organizational management		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	井上 奈美子			
授業概要	<p>公的機関、民間企業、非営利団体に限らず、事業を遂行し、目標を達成するには、組織的な運用は不可欠です。更に、仕事の場に限らず、生活全般にわたって組織と関わることもある現代において、組織について学ぶことは、人が社会で生きていくためにも重要になってきています。本講義は、理論的枠組みを理解しやすいよう説明していきます。まず、組織の定義や組織の成立条件について学ぶことからスタートします。そして、組織が安定的に活動を継続させるための構造とプロセスについて学びます。また、組織運用で近年特に重要になってきているイノベーション創出や変革についても取り上げます。これらの学術的知見を踏まえて、実務に用いることができる考え方やアイデアを自ら生み出す力を身に付けることができます。なお、本講義では、実際に組織（チーム）を形成し、講義の中でグループワークを行い、教員との双方向による議論を展開します。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	講義が始まる前までに以下のテキストを生協にて購入し、持参すること。講義はテキストを用いてグループディスカッションを行います。テキストがないと議論ができませんのでテキストが手元にあることが条件となります。			
テキスト	はじめての経営組織論、高尾義明、 有斐閣 ストウディア 1900（+税）			
参考図書・教材等	講義の中で紹介します			
実務経験を生かした授業	大学の管理職として、職員のマネジメント経験、雇用と人材育成のコンサルタント、学生への就職指導を行ってきた教員が、諸経験を活かし、企業や団体が取り組む組織マネジメントについてわかりやすく指導する。	授業中の撮影	有	
学習相談・助言体制	コメントカード（毎回回収します）、またはメールで随時応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	組織論と経営学の領域を多面的に捉え、理論的枠組みの理解と理論の実践を体験的に学ぶことで、組織運用のための思考と実践力を高める。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	変化する社会において、不確実性のともなう組織マネジメントでは、個人が組織内において将来を見越して主体的に行動するダイバーシティマネジメントが実行できるよう専門的スキルを身につける。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す。		
組織の定義や組織の成立条件について理解します。組織が安定的に活動を継続させるための構造とプロセスについて理解します。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
組織運用で近年特に重要になってきているイノベーション創出や変革について理解します。学術的知見を踏まえて、実務に用いることができる考え方やアイデアを自ら生み出す力を身に着けます。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。
グループでのアクティブラーニングを軸として講義を進める。最後の講義ではグループによるプレゼン発表を行う。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40		60			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)	20		30			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		20	30			
備考	学生の理解度が浅いと判断した際には、最終テストを行います。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス（グループづくり、試験、単位、学習到達目標の確認）		
2	なぜ組織について学ぶのか：①協働する場としての組織②個人をエンパワーする組織	講義・アクティブラーニング	毎回、講義の冒頭に2分間の振り返りを全員で行う。各自、予習復習を行うこと。本講義では、学生が主体的にグループで各領域について調べ、学びあい、発表しあうことを繰り返します。専門的な用語や学術的観点は教員から解説しますが、原則、自分たちで調べ、議論することが中心の講義スタイル
3	組織の定義：①経営組織と経営資②意思決定からのアプローチ	講義・アクティブラーニング	
4	組織目的：①組織の目的と個人が組織に参加する目的との関係②ステークホルダーからの経営資源の調達と組織均衡	講義・アクティブラーニング	

5	コミュニケーションと調整:①調整と決定前提②組織におけるコミュニケーション③コミュニケーションの円滑化	講義・アクティブラーニング	ルで、深く広く理解することを目指します。
6	貢献意欲:①組織メンバーの参加確保②貢献意欲の必要性の増大③関係づけメカニズム	講義・アクティブラーニング	
7	合理的システムの設計:①組織の発展に伴う構造の変化②典型的な組織形態	講義・アクティブラーニング	
8	自生的システムの創発:①社会的ネットワーク②組織文化	講義・アクティブラーニング	
9	組織プロセス:①様々なリーダーシップ②ポリティクスとコンフリクト③組織プロセスの複雑性	講義・アクティブラーニング	
10	経営資源としての変化する人:①モチベーションの源泉への注目…ニーズ(欲求)理論②モチベーションの複雑性…プロセス(過程)理論	講義・アクティブラーニング	
11	戦略と組織学習:①組織と戦略の関係②組織の学習	講義・アクティブラーニング	
12	イノベーションと組織:①イノベーション創出に向けた組織マネジメントの特徴②知識の創出と獲得	講義・アクティブラーニング	
13	変化を続ける組織:①変化し続ける組織①変化を増幅する学習	講義・アクティブラーニング	
14	企業・団体組織マネジメントケース分析、まとめ	アクティブラーニング	
15	パワーポイント用いたプレゼンテーション	プレゼンテーション	
備考	学生の理解度が浅いと判断した際には、最終テストを行います。5回以上欠席した場合は単位履修できません。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習																			
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク					1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
その他()																			
内容				テキストの章ごとにグループを形成し、アクティブラーニングと発表を繰り返す。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	ビジネス倫理		単位	2
科目名（英語）	Business Ethics		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	神谷英二			
授業概要	<p>学生が将来、仕事上の倫理問題に直面したとき、責任をもって倫理に適った望ましい決断を下せるよう、ビジネス倫理に関する基礎知識の習得と意思決定の訓練を行う。過去の企業不祥事など具体的なケースについて分析しながら、経営戦略や日常の企業活動において求められる倫理を学ぶ。現在のビジネス倫理に必須の個人情報保護、危機管理についても同時に理解を深める。民間企業だけでなく、行政機関や医療機関なども分析対象とする。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし。			
テキスト	なし。			
参考図書 ・教材等	授業時に配付する。			
実務経験を 生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	疑問があればすぐに質問すること。電子メールによる質問も常時受け付ける。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	明確な根拠をもって意思決定した内容について、わかりやすく伝える力を身につける。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	仕事で出会う倫理問題について自ら考え、意思決定する能力を身につける。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
仕事上直面しうる倫理問題について自ら考え、明確な根拠をもって意思決定し、その内容をわかりやすく伝えることができる。			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			50	50				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)		○	○				
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス	授業プランの説明 学習ニーズ確認のための作文	「ビジネス倫理講義資料」を毎回、授業後に復習すること。欠席した場合は、「ビジネス倫理講義資料」によって学習した上で、必ず小レポートを各自書いて、提出すること。（以下、15回まで同様。）
2	仕事と意思決定	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
3	個人情報の倫理（1）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
4	個人情報の倫理（2）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析 小レポート（第1回）	
5	民間ビジネスの倫理（1）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
6	民間ビジネスの倫理（2）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析 小レポート（第2回）	
7	医療・福祉サービスの倫理（1）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
8	医療・福祉サービスの倫理（2）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
9	行政サービスの倫理（1）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	

		小レポート（第3回）	
10	行政サービスの倫理（2）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
11	地域社会の倫理（1）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析 小レポート（第4回）	
12	地域社会の倫理（2）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
13	SDGs（1）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
14	SDGs（2）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析 小レポート（第5回）	
15	まとめ	学期全体の学習内容を復習	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容				具体的なケースに関するグループ・ディスカッションを随時行う。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	個人情報法制	単位	2
科目名（英語）	Information Privacy Law	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	3	開講時期	後期
担当教員	森脇敦史		
授業概要	情報社会においてデータは「21世紀の石油」と言われるほど、社会活動において重要度を増している。中でも「個人情報」は、適切に取り扱われることが個人の基本的人権として要求される一方、その適切な利用は本人及び社会への利益の観点からも重要である。本講義では、個人情報の「保護」だけでなく「利用」の側面について、現行の法制度と実際の運用を講義する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。		
テキスト	（レジュメを配布する）		
参考図書 ・教材等			
実務経験を 生かした授業			授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール（ moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp ）で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	個人情報に関わる法制度に関する基本的知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP 3)	個人情報に関わる課題を法的制度の枠組で整理できる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	個人情報について生じている問題を自ら探索することができる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
個人情報に関わる課題を法的制度の枠組で整理し、より望ましい制度設計を考察できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業への参加度	合計
総合評価割合		70					30	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	◎						
思考・判断・表現	(DP3)	◎						
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)						○	
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／ 進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	ガイダンス	講義	授業内容に関連するニュースを読む 配布レジュメを復習する
2	個人情報法制の歴史と法体系……個人情報とプライバシー、条例と法律	講義	同上
3	個人情報保護法①……個人情報の定義、個人情報取扱事業者	講義	同上
4	個人情報保護法②……個人情報に対する義務	講義	同上
5	個人情報保護法③……個人データ・保有個人データに対する義務	講義	同上
6	個人情報保護法④……匿名加工情報、実効性確保	講義	同上
7	行政機関個人情報保護法①……定義、保護	講義	同上
8	行政機関個人情報保護法②……開示・訂正・利用停止請求	講義	同上
9	その他の個人情報関連法……医療ビッグデータ法、住基法、番号法	講義	同上
10	個人情報の国際的保護……EU 一般データ保護規則、アメリカの個人情報保護	講義	同上
11	事例検討……個人情報ビジネス①	講義	同上
12	事例検討……個人情報ビジネス②	講義	同上
13	事例検討……行政機関と個人情報	講義	同上
14	事例検討……医療・福祉・教育と個人情報	講義	同上

15	まとめ	講義	同上
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク														○	○	○	○		
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		単位	2
科目名（英語）	Seminar in Public SociologyⅠ・Ⅱ		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期・後期	
担当教員	柴田 雅博			
授業概要	本演習では、卒業研究に向けて、その基礎となる論理的思考能力の修得や情報科学的な基礎知識の学修を行う。前半では関連文献を読み解き輪読形式で発表を行う。後半以降は、各自研究テーマを定めて、資料整理、データ分析、プログラミング等を用いて、研究、発表を行う。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト				
参考図書 ・教材等				
実務経験を 生かした授業				授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会の中でICTがどう活用されているのか理解する。またそれを議論するに足るだけの情報科学の知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会現象をモデル化し、小問題に切り分けながら解決することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	日常的関心の中から問題を発見し、それを解決するための研究計画を立て、実行することができる。
		(DP6)	情報科学知識を社会問題の解決に活かすことができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	必要な資料を収集し、他人の知見を自分の研究に活かすことができる。統計処理や情報処理を用いて問題の解決を試みることができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
研究テーマを定め、それに関連する論文や資料を自主的に収集、分析することができる。統計処理や情報処理を用いて問題の解決を図ることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
ある程度の研究テーマを定め、それに関連する論文や資料を収集、分析することができる。研究テーマに関するICTの基盤知識を理解する。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	演習	授業態度・参加度	発表	課題・レポート	その他	合計
総合評価割合			20	20	30	30		
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○		○	○		
思考・判断・表現	(DP3)		○		○	○		
	(DP4)		○	○	○	○		
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○				
	(DP6)				○	○		
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○	○	○	○		
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	演習	ゼミを円滑に進めるために、自分の関心あるものを考えておく。
2,3	輪読用の文献決め。分担	演習	
4~12	関連文献の収集と文献の輪読。レジュメの作成、討議を含む。	演習	担当部分について、レジュメを作成、討議できるよう準備しておく。また、討議で出てきた話題について、自分なりの回答を出す。
13,14	後半に向けての研究テーマ決め	演習	研究テーマについて、事前にある程度候補を挙げておくこと。
15	中間のまとめ・後期の研究計画	演習	後期からの研究を進めるにあたり、計画・スケジュールを練っておく。
16	今後の研究方法を検討	演習	
17~24	研究テーマに従って、資料収集、データ分析等の研究に取り組む。	演習	各自のテーマについて、空いた時間を見つけて、関連資料の収集やPCでの作業を進めておくこと。
25~27	研究報告会。プレゼンテーションおよび討議	演習	討議の内容について、回答を出す。

28,29	研究レポートの作成	演習	各自テーマについて、研究レポートを作成する。
30	後期のまとめ	演習	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	公共社会学研究 I・II		単位	各 1
科目名（英語）	Seminar in Public Sociology I・II		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期・後期	
担当教員	岡本雅享			
授業概要	担当教員の担当講義である多文化社会論、東アジア関係史、国際政治学、政治学、及び教員の研究テーマに興味のある学生でゼミを構成し、文献輪読、共同研究、個人発表などを行う。今年度は福岡市で9月に行われるアジアンパーティに焦点をあてた昭和女子大学人間社会学部の社会調査研修「福岡からアジアを見るーグローバルな都市づくりとアジア映画祭から探るアジア共通の課題」に協力し、現地調査（福岡県内）の一部にも同行することを企画している。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	具体的な問題関心、調査・研究したいテーマを持っていることが受講の前提だが、研究を進めながらテーマが変化するのは構わない。			
テキスト	ゼミ生と協議して決める。			
参考図書・教材等	岡本雅享『民族の創出』（岩波書店）、『中国の少数民族と言語教育』（社会評論社）、『日本の民族差別』（明石書店）、『千家尊福と出雲信仰』（ちくま新書）及び『レイシズムと外国人嫌悪』（明石書店）、『なぜ今、移民問題か』（藤原書店）など			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	授業終了後または個別研究室訪問で対応する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	異なる文化や価値観に対して、客観的に理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会的事象に関する問題を、公共性の観点から整理できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	異なる文化・価値観に深い関心をもち、主体的に学習できる。
		(DP6)	公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	社会的課題を取り扱う際に、社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
異なる文化・価値観に関心をもち、客観的に理解し、また社会的事象に関する問題を、公共性の観点から整理できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
異なる文化・価値観を客観的に理解し、社会的事象に関する問題を、公共性の観点から整理した上で、社会的課題を的確に観察、調査、分析できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		調査・発表	ディスカッション				合計
総合評価割合		50	50				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)	○	○				
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○				
	(DP6)	○	○				
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)	○	○				
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	ガイダンス（演習の進め方、自己紹介など）	演習	各自の担当を準備
2-3	関心のある社会現象・問題（メンバー各自の発表）	演習	各自の担当を準備
4	文献の調べ方	演習	各自の担当を準備
5-14	文献輪読	演習	各自の担当を準備
15	前期のまとめと夏季休暇中の課題（個人研究）、後期の進め方を協議	演習	各自の担当を準備
16-17	個人研究発表	演習	各自の担当を準備
18	共同研究テーマの選定	演習	各自の担当を準備
19	共同研究：課題（問い）の設定	演習	各自の担当を準備
20	共同研究：文献・資料の収集、整理	演習	各自の担当を準備
21-27	共同研究：調査・議論～結論	演習	各自の担当を準備
28-29	個人研究発表（卒論へ向けたテーマ設定の確認）	演習	各自の担当を準備

30	後期のまとめ、春季休暇中の (卒論へ向けた) 課題を協議	演習	各自の担当を準備
備考	9月に行われる昭和女子大学人間社会学部の社会調査研修の際、本学で昭和女子大生と共に講義・演習を行い、天神での現地調査にも同行することを企画している。その場合は9月に本学へ1度出校(2時間程度)し、また天神で1~2日の現地調査を行う時間と費用を要することになる。		

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		単位	各1
科目名（英語）	Seminar in Public SociologyⅠ・Ⅱ		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期・後期	
担当教員	吉武 由彩			
授業概要	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱでは、社会学の文献輪読、各自の研究テーマに基づく資料の収集、調査計画の立案、フィールド調査などを行う。これらの作業を通して、社会学的な論文執筆の方法を学び、卒業論文作成の基礎力を養うことを目的とする。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	福祉社会学あるいは地域社会学に興味があること。			
テキスト	なし			
参考図書・教材等	参考文献は授業内で適宜指示する			
実務経験を生かした授業	実務経験がある外部講師による講義を一部予定している。			授業中の撮影
学習相談・助言体制	授業中、授業前後の時間およびオフィスアワーを利用して対応する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会学の知識を身に付けている。
	思考・判断・表現	(DP3)	関心があるテーマについて、社会学の知識や方法を用いて説明することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	関心があるテーマについて、自ら問いを設定し、学習することができる。
		(DP6)	公共性に根ざした問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	テーマに沿って適切に資料収集、調査、分析ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
研究テーマに基づく資料の収集、資料の読み取り、調査方法について、十分に理解し、実践する力を有している。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
研究テーマに基づく資料の収集、資料の読み取り、調査方法について、基礎的な部分を理解している。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業への参加度	合計
総合評価割合				50		50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)			○		○	
思考・判断・表現	(DP3)			○		○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)			○		○	
	(DP6)			○		○	
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			○		○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	授業概要説明	演習	各自の研究関心や問題意識について考える
2	受講生各自の関心や問題意識の共有(この時点ではテーマが絞れていなくてもよい。)	演習	各自の研究関心や問題意識について考える
3 ~ 4	輪読する文献の紹介、ゼミ発表の方法を学ぶ	演習	輪読の方法を学ぶ
5 ~ 11	文献輪読	演習、輪読	担当部分について文献を読み、レジュメにまとめる
12 ~ 13	福祉社会学あるいは地域社会学に関する外部講師講義	外部講師講義、質疑応答	福祉社会学あるいは地域社会学の近年の研究について学ぶ
14 ~ 15	各自の研究テーマに関する文献収集(リスト作成)	演習	文献収集方法、文献表記方法について学ぶ
16 ~ 20	フィールド調査	演習	グループでテーマを決定、調査計画の立案を行い、フィールド調査を行う

21 ～ 30	各自の研究テーマを設定し、 テーマに基づく資料・先行研 究の収集、調査計画の立案な どを行う。進捗状況を報告し、 全員で議論する	演習	各自のテーマについて、資料収集、調査 計画立案を行う
備考	外部講師による講義の実施予定回は予定のため、変更の可能性はある。また、受講生の関心や理解度、進 捗状況に応じて、内容や順番を組み替える場合がある。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容				授業全体を通して、グループ・ディスカッションを行う。また、学生の希望に応じて、16 ～20回目にはフィールド調査を予定している。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	公共社会学研究 I・II		単位	2
科目名（英語）	Seminar in Public Sociology I・II		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期・後期	
担当教員	佐野 麻由子			
授業概要	本演習では、卒業論文の執筆に必要な基礎的な知識および技能を学ぶ。前期授業では、“世界を通して日本を知る、日本を通して世界を知る”をテーマに国際比較の視点をもって文化変容、不平等に関連した社会学的文献を読み、議論に参加することが求められる。後期授業では、卒業論文の執筆に向けて各自研究テーマや調査・研究方法、研究計画を設定しその進捗を報告する。毎回、レジュメ報告担当者を設定し、報告者の出した論点、話題をもとにディスカッションを行う。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	具体的な問題関心や研究したいテーマを持っていることを前提条件とする。 遅刻や無断欠席をしないこと。			
テキスト	講読する文献は初回の授業時に相談して決定する。			
参考図書・教材等	山田真茂留編著 2018 『グローバル現代社会論』文真堂。			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	有
学習相談・助言体制	適宜、個別の質問・相談等にも応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	社会学、社会科学の知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP 3)	国際比較の視点、社会学の知識や方法を用いて各種の事象を説明することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	社会の問題に深い関心をもち、自ら問いを設定しその解を求めるために主体的に学習できる。
		(DP 6)	公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	文化変容、不平等についての先行研究や各種の資料を適切に収集できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
本授業では、卒業論文の執筆に必要な基礎的な知識および技能の修得を目指す。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会学が登場した時代背景、先駆者の学問的関心、社会学の方法、社会学の基礎概念に関する用語の意味が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる			

A : 80~89	履修目標を達成している
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C : 60~69	到達目標を達成している
不可 : ~59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				40	60			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)			○	○			
思考・判断・表現	(DP3)			○	○			
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考		報告や討論を含む授業への参加態度（60%）、最終レポート（40%）を総合的に判断したうえで評価を行う。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
前期	<p>各自の研究関心にそった文献・論文を決定し、14回の授業で毎回ひとつずつ講読する。講読の際には次のポイントに着目する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. どのような問題関心のもと、 2. どのような先行研究に言及し、 3. どのような仮説を導き、 4. いつ、どのような方法で調査を行い、 5. どのような知見（先行研究と同じ知見、異なる知見）を得ているのか。 6. これら知見に対し何をどのように深め考察を行っているのか。 <p>(1) 上記1~6の中でわからない点についてお互いが意見を</p>	<p>演習 各回に司会者と報告者を決める 報告者はレジュメを作成し発表する。</p>	<p>【事前】 報告者はレジュメを作成する。報告者以外のゼミ生は、毎回、文献・論文を講読し、論点を簡条書きにして持参する。</p> <p>【事後】 ゼミで理解した点、自身の研究に援用できそうな点を簡条書きにし、ファイルに保管する。</p>

I. 科目情報

科目名（日本語）	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		単位	各1
科目名（英語）	Seminar in Public SociologyⅠ・Ⅱ		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期・後期	
担当教員	坂 無 淳			
授業概要	本演習では卒業論文に取り組む際に必要となる基本的な研究方法の習得を目指す。前期は文献輪読やワークショップなどを行いながら、各自の問題意識と採用する研究方法について明確にしていく。後期は各自のテーマについて研究と研究報告を行うことが中心となる。先行研究・文献を収集し、関連するデータを集めて分析し、レポートを書くという一連の流れを体験し、卒業論文作成の基礎を養う。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修の前に必ず担当教員と所属学科の教務担当教員に相談してから履修すること。 遅刻、欠席の場合は事前に連絡すること。			
テキスト	テキストは授業内で相談の上決定する。			
参考図書・教材等	テーマに応じて適宜紹介する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	演習の時間での相談・助言を基本とするが、必要な場合は適宜個別に時間を決めて相談を行う。また、受講生の状況に応じて授業内容に変更を加える場合がある。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	研究に関する基本的な技法や自らの問題関心に関する基本的な知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会的事象に関する問題を公共性の観点から整理できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	自らの問題意識を持ち、自ら調べ、考えることができる。
		(DP6)	公共性に根ざした問題解決能力を高め、社会に提言することや働きかけることができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	社会的事象に関する問題について、社会学の手法を使って調べ、分析することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
自らたてたテーマに関する研究を行うための基本的な研究方法を身につけ、結果を論理的にまとめ、表現することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
自らたてたテーマに関する研究を行うための基本的な研究方法を身につけている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		授業外レポート	演習					合計
総合評価割合		40	60					100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○					
思考・判断・表現	(DP3)	○	○					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○					
	(DP6)	○	○					
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)	○	○					
備考	授業では積極的に議論や取り組みに参加・貢献している場合に評価する。							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	ガイダンス	演習	各自の関心や問題意識について考え、話せるように準備しておく。
2	ゼミメンバー各自の問題意識を報告し合い、共有する。この時点ではテーマが絞れていなくてもよい。	演習	各自の関心や問題意識について考え、話せるように準備しておく。
3	輪読する文献の決定。報告する分担を決める。	演習	担当部分について文献を精読し、他の文献も参照しながらレジュメを作成する。
4-12	文献輪読。基本は担当部分についてレジュメを準備・報告し、全員で議論する。必要に応じて資料の探し方、資料整理やレジュメ作成の方法、プレゼンテーションや議論の仕方等について講義する。各自の研究テーマについて、研究の準備を始める。	演習	担当部分について文献を精読し、他の文献も参照しながらレジュメを作成する。
13-14	各自の研究テーマと研究方法について、研究計画や途中経過を報告し合い、アドバイスをを行う。	演習	前期終わりから夏休み中は、各自のテーマに基づいて先行研究・文献を読み、データ収集に取り組む。
15	前期のまとめ。夏休み中の研究の進め方や後期の計画について相談する。	演習	前期終わりから夏休み中は、各自のテーマに基づいて先行研究・文献を読み、データ収集に取り組む。
16	ガイダンス	演習	データ収集と分析を行って、研究報告とレポートの執筆を行う。
17-22	各自の研究テーマについて、資料やデータの収集と分析を行い、口頭や文章で研究報告を行う。教員	演習	データ収集と分析を行って、研究報告とレポートの執筆を行う。

	の指導に加えて、ゼミメンバー同士でアドバイスを言いあう。		
23-29	各自の研究テーマについて、アカデミックな論文の形式に従ったレポートを執筆する。教員の指導に加えて、ゼミメンバー同士でコメントをしあい、レポートの完成度を高める。	演習	データ収集と分析を行って、研究報告とレポートの執筆を行う。
30	まとめ。4年生の卒論演習に向けて相談し計画を立てる。	演習	データ収集と分析を行って、研究報告とレポートの執筆を行う。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		単位	各1
科目名（英語）	Seminar in Public SociologyⅠ・Ⅱ		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期		
担当教員	阪井 裕一郎			
授業概要	本科目はゼミ形式でおこなわれ、卒業論文執筆のために必要となる基礎的な知識および技能を学ぶ。前期は、担当教員の専門である「家族社会学」に関連した文献（受講生の関心も考慮する）の輪読をおこなう。後期は、家族研究の社会調査やデータの分析に関する文献の輪読や受講生各自の研究報告をおこなう。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	前期に輪読する文献については、初回授業時に受講生と相談しながら決定する。後期の文献については、講義のなかで指示する。			
参考図書・教材等	永田夏来・松木洋人編『入門 家族社会学』新泉社、2017年／比較家族史学会編『現代家族ペディア』弘文堂、2015年			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	適宜受け付ける。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会学、社会科学の知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	家族をめぐる歴史的変化や現代の課題を社会学の知識や方法を用いて説明することができる。 自らが関心のあるテーマについての情報を収集・整理・分析し、それらを的確に説明することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	地域や家族の現状と課題に関心を寄せ、積極的に調査や分析、考察を行うことができる。
		(DP6)	地域や家族についての問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	家族社会学の調査手法や分析手法の基礎を習得し、活用することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
家族をめぐる歴史的変化や現代の課題、社会学の知識や研究方法について、正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
自らが関心のあるテーマについての情報を収集・整理・分析し、それらを的確に説明することができる。			
成績評価の基準			

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度	合計
総合評価割合			40	20		40	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		10	10		10	30
思考・判断・表現	(DP3)		10	10		10	30
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		10			10	20
	(DP6)		10			10	20
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	前期ゼミの概要、自己紹介、文献報告分担決めなど	演習 ※受講生の関心や理解度に応じて、内容や順番を入れ替えることがある。	<p>（事前） 担当する文献についての内容の要約とコメントをレジュメとして作成すること。</p> <p>（事後） ディスカッションで残された課題について調べる。また、担当教員や他の受講生に紹介された文献・資料にアクセスすること。</p>
2-14	文献（家族社会学）の輪読と内容に関するディスカッション		
15	前期のまとめと夏季休暇中の課題設定		
16	後期ゼミの概要、報告の分担・日程の決定など		
17-22	文献（調査・分析方法）の輪読と内容に関するディスカッション		
23-29	各自の研究報告と内容に関するディスカッション		
30	1年間のまとめ		
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		単位	各1
科目名（英語）	Seminar in Public SociologyⅠ・Ⅱ		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3	開講時期	前期・後期	
担当教員	森脇敦史			
授業概要	本演習では、卒業論文の執筆に必要となる研究手法の基本的事項を学ぶ。教科書として指定した文献の輪読により法律学の基本的な方法論を学ぶとともに、卒業論文のテーマについて定期的に報告する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	道垣内弘人『リーガルベシス民法入門（第3版）』（日本経済新聞出版社、2019年）			
参考図書・教材等				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール(moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp)で確認してください。メールでの質問も受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	法律学の基本的な知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会問題を、法的観点から説明することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	自らの問題関心に基づいて、問いを設定し考えることができる。
		(DP6)	法的知識に基づき、社会問題の解決に向けた提言ができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	法的議論に必要な資料の収集・分析ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
法律学の方法論の基礎的手法を理解する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
法律学の方法論の基礎的手法を用いて、自らの問題関心を設定することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
C：60～69 到達目標を達成している。			

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業への参加度	合計
総合評価割合				30	40		30	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)			◎	◎			
思考・判断・表現	(DP3)			◎	◎			
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)				○		◎	
	(DP6)				○		◎	
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)			◎	◎			
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	前期 ・文献の輪読 ・各自のテーマ報告 後期 ・文献の輪読 ・各自のテーマ報告 ・研究計画の作成	演習	教科書の該当部分を読み、報告を準備
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名 (日本語)	公共社会学研究 I・II		単位	各 1
科目名 (英語)	Seminar in Public Sociology I・II		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期・後期	
担当教員	神谷英二			
授業概要	本演習の目的は、研究テーマを設定し、テーマに関する文献やデータ収集、分析、報告書の作成までを実践することにより、基本的な研究方法を身につけることである。また、質疑応答を重ねることで、自分自身の考えを論理的に伝える能力や他者の意見を受容して研究内容を深化させる力を養う。本演習での成果を4年次での卒業論文作成へつなげる。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし。			
テキスト	なし。			
参考図書・教材等	授業時に配付する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	疑問があればすぐに質問すること。電子メールによる質問も常時受け付ける。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	研究テーマに関わる社会科学や人文科学の専門知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	収集した資料を分析し、問題点を整理できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	社会の諸問題に深い関心をもち、研究テーマを自ら設定し、設定した研究テーマに主体的に取り組むことができる。
		(DP6)	課題解決に向けて探究し続けることができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	研究テーマに沿って資料を適切に収集し、問題の分析に必要な作業ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
研究テーマを設定し、テーマに関する文献やデータ収集、分析、報告書作成ができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
研究テーマを設定し、テーマに関する文献やデータ収集、分析ができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			30	40	30			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○	○			
思考・判断・表現	(DP3)		○	○	○			
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○	○			
	(DP6)		○	○	○			
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○	○	○			
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】 160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】 180 分 (15 回) 45 分 (30 回 : 通年) 90 分 (30 回 : 半期 2 コマ連続)
1	ガイダンス	演習	資料について予習
2~7	公共社会学研究 I・II に関する文献や参考資料の輪読	演習	各自、輪読する資料について予習・復習
8	各自の研究テーマ (仮) の設定	演習	研究テーマの設定
9,10	各自の研究テーマ (仮) に沿った文献、データ等の収集	演習	資料収集
11,12	各自の研究テーマ (仮) に関する進捗状況報告、質疑応答	演習	報告者は報告資料を用意
13,14	研究テーマの確定 研究テーマに沿った文献、データ等の収集	演習	資料収集
15	公共社会学研究 I (前期) のまとめ 公共社会学研究 II (後期) に向けての計画策定	演習	資料・問題整理
16	各自の研究テーマについて中間報告 (後期はじめ)	演習	全員、報告資料を用意
17~25	収集した文献、データ等の整理、各自の研究テーマに関する進捗状況報告、質疑応答	演習	報告者は報告資料を用意、資料収集
26~30	報告書の作成	演習	報告書の作成

備考	
----	--

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				教員を交えた討論を随時行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	公共社会学研究 I・II		単位	各 1
科目名（英語）	Seminar in Public Sociology I・II		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期・後期	
担当教員	石崎 龍二			
授業概要	本演習の目的は、研究テーマを設定し、テーマに関する文献やデータ収集、分析、報告書の作成までを実践することにより、基本的な研究方法を身につけることである。また、ゼミの中での質疑応答を重ねる中で、自身の考えを論理的に討論相手に伝える能力や討論者の意見を吸収し研究内容を発展させる力を養う。本演習で調べた結果を、4年次での卒業論文の作成へとつなげる。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	演習の中での話し合いで決定する。			
参考図書・教材等	演習の中での話し合いで決定する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	社会科学及び統計学の専門知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP 3)	収集した資料に基づき論理的に分析し、問題点を整理できる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	社会の諸問題に深い関心を持ち、研究テーマを自ら設定し、設定した研究テーマに主体的に取り組むことができる。
		(DP 6)	課題解決に向けて探求し続けることができる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	研究テーマに沿って各種の資料を適切に収集し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会科学及び統計学の専門知識を身につけている。研究テーマに沿って各種の資料を適切に収集し、収集した資料に基づき論理的に分析し、問題点を整理し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。社会の諸問題に深い関心を持ち、研究テーマを自ら設定し、設定した研究テーマに主体的に取り組む、課題解決に向けて探求し続けることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会科学及び統計学の専門知識を身につけている。研究テーマに沿って各種の資料を適切に収集し、収集した資料に基づき論理的に分析し、問題点を整理し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる			

A : 80~89	履修目標を達成している
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C : 60~69	到達目標を達成している
不可 : ~59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合				50	20		30	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)			◎				
思考・判断・表現	(DP3)			◎	◎			
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)			◎			◎	
	(DP6)			◎			◎	
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)			◎	◎			
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回: 通年) 90 分 (30 回: 半期 2 コマ連続)
1	オリエンテーション (ゼミの進め方)	演習	次回の資料について予習
2~7	公共社会学研究 I・II に関する図書や参考資料の輪読	演習	各自、輪読する資料について予習・復習
8	各自の (仮) 研究テーマの設定	演習	研究テーマの設定
9,10	各自の (仮) 研究テーマに沿った文献、データ等の資料収集	演習	資料収集
11,12	各自の (仮) 研究テーマについて経過報告、質疑応答	演習	報告者は報告資料を用意
13,14	研究テーマの確定 研究テーマに沿った文献、データ等の資料収集	演習	資料収集
15	公共社会学研究 I (前期) のまとめと公共社会学研究 II (後期) に向けての計画	演習	資料・問題整理

16	各自の研究テーマについて中間報告（後期はじめ）	演習	全員、報告資料を用意
17~25	収集した文献、データ等の整理、各自の研究テーマについて経過報告、質疑応答	演習	報告者は報告資料を用意、資料収集
26~30	報告書の作成	演習	報告書の作成
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし												
講義回数				1	2~7	8	9,10	11,12	13,14	15	25	17~25	26~30	
発見学習／問題解決学習					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体験学習／調査学習					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
その他（ ）														
内容				テーマに関する文献やデータ収集、分析、報告書の作成を行い、その過程の中でグループ・ディスカッションにより研究方法を上達させていく。										

I. 科目情報

科目名（日本語）	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		単位	2
科目名（英語）	Seminar in Public SociologyⅠ・Ⅱ		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期・後期	
担当教員	堤 圭史郎			
授業概要	本演習では、主に貧困・社会的排除・差別、種々の逸脱現象、都市問題等々の社会的諸事象への社会学的アプローチを学ぶとともに、メンバー各自の問題意識を明確にしていく。前期はこれらの領域に関連する文献輪読を行う。後期は各自の関心領域に基づいて研究報告を行う。参考文献を収集・通読し、関連するデータを集め、重要な事項についてノートをとる。これらをふまえて問題意識を洗練させ、フィールドワークにとりかかる。また、論理的な文章を書くトレーニングを積み、卒業論文作成の基礎を養う。メンバーのニーズに応じて、授業期間中に学外へエクスカージョンに出かけるなど、課外活動を企画する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	社会病理学、社会調査実習Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。貧困・社会的排除・差別及び種々の逸脱現象、都市問題に関心があり、それらについて今よりも理解を深めたいと思っている人の受講が望ましいが、それらに限らず社会的諸事象に広く関心をもつ人を歓迎する。また、量的・質的を問わず社会調査による卒業研究をしたい人を歓迎する。			
テキスト	テキストは受講生のニーズをふまえて指定する。必ず購入すること。			
参考図書・教材等	適宜紹介する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	適宜面談を行う。各種相談は、随時受け付ける。一人ひとりの状況に応じて、課題の達成目標を設定する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	研究に係る基礎的な形式・技法に関する知識を身につけている。各自の関心領域に関する基礎知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会的諸事象について、社会学等の知識に基づき整理できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	自らの関心領域に興味関心をもち、自ら調べ、考えることができる。
		(DP6)	公共性に根ざした問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	社会的課題を取り扱う際に、社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会的諸事象について研究するための、基礎的な形式・技法を身につけ、社会科学的に的確な観察、調査、分析のもと、論理的かつ明快な文章表現・プレゼンテーションを行うことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会的諸事象について研究するための、基礎的な形式・技法に関する知識を身につけている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		30	30	40			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)		○	○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○			
	(DP6)		○	○			
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		○	○			
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1~2	ガイダンス・問題意識の共有	輪読する文献の紹介。報告する分担を決めるメンバー各自の関心や問題意識を報告し共有する。	各自の関心や問題意識について考え、話せるように準備しておく。この時点ではテーマが絞れていなくてもよい。
3~14	文献輪読・エクスカージョン等	各自担当章についてレジメを準備する。報告について議論する。必要に応じて資料の探し方、資料整理の仕方等について講義する。また、メンバーのニーズに応じてエクスカージョンを行う。	担当章を精読し、他の文献も参照しレジメにまとめる。エクスカージョンの前には当該地域の予習をし、フィールドノートを作成する。
15	問題意識の共有	各自の現時点での関心や問題意識について報告し共有する。夏期休暇中の課題を提示する。	各自、問題意識に基づいて、文献を渉猟する。夏期休暇中は、後期の研究報告に備える。
16	ガイダンス	報告の順番を決める。報告は各自2~3回できるように計画する。	各自のテーマについて文献・資料を収集し、ノートを取り、フィールドワークの下準備を行うなど、研究を推進する。
17~29	文献輪読・エクスカージョン等	各自研究テーマを設定し、研究課題の達成に向けて計画を立てる。研究内容を報告する。報告について議論する。メンバーのニーズに応じてエクスカージョンを行う。	

30	問題意識の共有	4年生に向け、就職活動と卒業研究を両立させるために、計画を立てる。各自の進捗について報告し共有する。
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	公共社会学研究 I・II		単位	各 1
科目名（英語）	Seminar in Public Sociology I・II		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期・後期	
担当教員	美谷 薫			
授業概要	<p>担当教員の専門分野である人文地理学（地方行政論・地域政策論も含む）の分野での研究手法を学び、卒業論文に取り組む際に必要となる知識や分析手法の習得を目指します。具体的には、①地域課題や地域問題に関するテキストを輪読し、基本的な知識を習得する、②幅広い研究対象とさまざまなアプローチの人文地理学の研究論文を輪読して、人文地理学の分析手法や論文の書き方を学ぶ、③受講生の関心のあるテーマについて文献や統計資料を収集・整理し、卒業論文の作成準備をする、④巡検（エクスカーション）の企画と実施を通じて、景観観察や地域調査の手法を学ぶ、という4つの内容で進めたいと考えています。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<p>特に予備知識などは必要としませんが、前期で並行して「地域社会分析法C」を履修することを原則とします。また、対象とするテーマが何であれ、現地調査に基づいてその地域がどのような特徴を持っているのかを明らかにすることが、伝統的な地理学の目指すところであり、そのような手法に関心のあることを履修条件とします。地域政策論や地方行政論の研究を希望する場合、多少アプローチは変わってきますが、基本的には上記のようなスケジュールで対応が可能であると考えています。</p> <p>なお、前期に県内で1日程度の、後期に県外で2泊3日程度の巡検（エクスカーション）を実施する予定です。担当教員と受講生とで日程調整の上実施しますが、原則、この2回の巡検参加を必須としますので、参加費用の準備などをお願いします。</p>			
テキスト	<p>（前期）受講生と事前に相談の上決定します。 （後期）輪読する論文のコピーを配布します。</p>			
参考図書・教材等	演習中に適宜紹介します。			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	質問は演習の時間のほか、随時受け付けます。可能な限り丁寧に対応したいと考えていますので、不明な点は早めに質問するようにしてください。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	地域（社会）を見るツールとしての、人文地理学に関する基礎知識や分析手法について理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	自らが関心のあるテーマについての情報を収集・整理・分析し、それらを的確に説明することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	地域（社会）の現状と課題に関心を寄せ、積極的に調査や分析、考察を行うことができる。
		(DP6)	地域（社会）の課題解決に向けた方法を、自らの関わりを含めて提示することができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	人文地理学の分析手法や地図表現の基礎を習得し、活用することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	地域（社会）の現状と課題に関心を寄せ、人文地理学的手法などを用いて情報を収集し、積極的に調査や分析、考察を行い、その結果から課題解決に向けた方法について提示することができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

地域（社会）の現状と課題に関心を寄せ、人文地理学的手法などを用いて情報を収集し、一定の調査や分析、考察を行うことができる。

成績評価の基準

S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。

A：80～89 履修目標を達成している。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C：60～69 到達目標を達成している。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				40	20		40	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)			○	○		○	
思考・判断・表現	(DP3)			○	○		○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)			○	○		○	
	(DP6)			○	○		○	
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)			○				
備考		その他は授業態度・授業への参加度を示します。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員） ※印は教職課程履修者が取得する場合に取り扱う内容	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス：演習の内容と進め方について	演習	
2-14	文献の輪読と内容に関する議論 県内巡検の企画・コース設定と情報収集等の実施準備、巡検の実施	演習（野外実習を含む）	（事前） 文献の担当する箇所についての内容をまとめたレジュメ作成と発表の準備、発表者以外は疑問点などをまとめたメモの作成 巡検の担当テーマに関する情報収集やレジュメ作成・現地での発表準備 （事後） 議論のなかで残された疑問点などについての情報収集・考察 巡検で学んだ内容に関するレポート作成

15	前期のまとめ、夏季休業中の課題設定	演習	(事後) 夏季休業中の課題への取り組み
16	夏季休業中の取り組み結果の報告、各自の研究テーマの設定	演習	(事前) 取り組みたい研究テーマの検討
17-29	研究論文の輪読と内容に関する議論 各自の研究テーマに関する報告とその内容に関する議論 県外巡検の企画・コース設定と情報収集等の実施準備、巡検の実施	演習 (野外実習を含む)	(事前・事後) 設定した研究テーマに関する文献・資料の収集や整理・データ分析, レジюме作成と発表の準備 (事前) 担当する文献についての内容をまとめたレジюмеの作成と発表の準備 巡検の担当テーマに関する情報収集, レジюме作成・現地での発表準備 (事後) 議論のなかで残された疑問点などについての情報収集・考察 巡検で学んだ内容に関するレポート作成
30	1年間のまとめ	演習	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
講義回数																		
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容				野外実習 (エクスカージョン), テキストに関するディスカッション														

I. 科目情報

科目名（日本語）	公共社会学研究 I・II		単位	各 1	
科目名（英語）	Seminar in Public Sociology I・II		授業コード		
必修・選択	必修	関連資格			
標準履修年次	3年	開講時期	前期・後期		
担当教員	陸麗君				
授業概要	<p>本授業では、都市と地域社会の諸問題に関心のある学生でゼミを構成し、文献輪読、共同研究、個人発表などを行う。前期授業では「グローバル背景下の日本社会」をテーマに、外国人問題、多文化共生、都市の社会問題に関連した社会学的な文献を読み、議論に参加することが求められる。後期授業では、卒論論文の執筆に向けて各自研究テーマや調査・研究方法、研究計画を設定しその進捗を報告する。</p> <p>今年度は福岡市で9月に行われるアジアンパーティに焦点をあてた昭和女子大学人間社会学部の「福岡からアジアを見るーグローバルな都市づくりとアジア映画祭から探るアジア共通の課題」の社会調査研修に協力し、現地調査（福岡県内）の一部にも同行することを企画している。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<p>具体的な問題関心と研究したいテーマを持っていることを前提条件とする。</p> <p>遅刻や無断欠席をしないこと。</p>				
テキスト	ゼミ生と協議して決める。				
参考図書 ・教材等	<p>鯉坂学ほか編 2019『さまよえる大都市・大阪ー「都心回帰」とコミュニティ』東信堂。</p> <p>大阪市立大学都市研究プラザ「URP 先端的都市研究シリーズ 17」2019。</p> <p>大阪市立大学都市研究プラザ「URP 先端的都市研究シリーズ 13」2018。</p>				
実務経験を 生かした授業				授業中の撮影	○
学習相談 ・助言体制	授業終了後またはオフィス・アワーで対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会学、社会科学の知識を身につけている。各自の関心領域に関する基礎知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	都市と地域社会の諸問題、多文化共生について、社会学の知識や方法を用いて整理できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	関心のあるテーマについて、自らが調べ、考えることができる。
		(DP6)	都市や多文化共生についての問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	社会的課題を取り扱う際に、社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
自らが関心のあるテーマについて、社会学の知識や方法を用いて調査、分析できる。都市や多文化共生についての問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	自らが関心のあるテーマについて、社会学の知識や方法を用いて調査、分析できる。
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		調査・発表	ディスカッション				合計
総合評価割合		50	50				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)	○	○				
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○				
	(DP6)	○	○				
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)	○	○				
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	ガイダンス。（演習の進め方、自己紹介など。）	演習	各自の関心や問題意識について考え、話せるように準備しておく。
2	受講生各自の関心や問題意識の共有（この時点ではテーマが絞れていなくてもよい。）	演習	各自の関心や問題意識について考え、話せるように準備しておく。
3-4	輪読する文献の紹介、文献報告分担を決める	演習	各自の担当を準備
5-14	文献輪読	演習	各自の担当を準備
15	前期のまとめと夏季休暇中の課題（個人研究）、後期の進め方を協議	演習	各自の担当を準備
16	後期ゼミの概要、報告の分担・日程の決定など	演習	各自の担当を準備
17-27	各自の研究テーマを設定し、	演習	各自の担当を準備

	報告する。その際には研究テーマに関する資料収集、先行研究のサーベイ、調査計画の立案などを行い、進捗状況を報告し、全員で議論する。		
30	後期のまとめ	演習	
備考	*受講生の関心や理解度、進捗状況に応じて、内容や順番を変更する場合がある。 *9月に行われる昭和女子大学人間社会学部の社会調査研修の際、本学で昭和女子大生と共に講義・演習を行い、天神での現地調査にも同行することを企画している。その場合は9月に本学へ1度出校(2時間程度)し、また天神で1~2日の現地調査を行う時間と費用を要することになる。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習																			
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
その他()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文		単位	6
科目名（英語）	Graduation Thesis		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	通年	
担当教員	石崎龍二、岡本雅享、藤澤健一、佐野麻由子、堤圭史郎、美谷薫、陸麗君、阪井裕一郎、坂無淳、吉武由彩、柴田雅博			
授業概要	卒業論文はこれまでの勉学の集大成である。自ら問いをたて、その研究テーマに沿って適切な文献やデータを収集・分析し、各自の分析能力と記述力を高めること、さらに発表と討論を通してプレゼンテーション能力を高めることが目標である。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	卒業論文の着手要件は、3年次までに卒業必要単位のうち80単位以上を取得していることとなっている。ただし、編入学生についてはこの限りではない（福岡県立大学学部履修規則第4章第20条）。			
テキスト	テーマに応じて適宜紹介する。			
参考図書・教材等	テーマに応じて適宜紹介する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	演習時間以外の質問や学習相談は、オフィスアワーで対応する。また、状況に応じて適宜個別指導する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	人間と社会に関連する社会科学の専門知識を、社会学を中心として身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	収集した資料に基づき論理的に分析し、問題点を整理できる。
		(DP4)	自らの研究のテーマや内容、分析手法、結論について他者に説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	自ら問いを立て、研究に主体的に取り組むことができる。
		(DP6)	公共性に根ざした問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	先行研究や各種資料を適切に収集し、社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
人間と社会に関連する社会科学の専門知識をふまえ、各自で設定した研究課題について、問いを見出し、実態を把握し、検証・考察をへて導き出された結論を他者に説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会的事象やその問題について文献やデータを収集・分析し、結論を見出すことができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	卒業論文	卒業論文要旨	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			75	15	10			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○	○			
思考・判断・表現	(DP3)		○	○	○			
	(DP4)		○	○	○			
関心・意欲・態度	(DP5)		○					
	(DP6)		○	○	○			
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○					
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/ 進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回 : 通年) 90 分 (30 回 : 半期 2 コマ連続)
1	卒業論文作成についてのオリエンテーション	演習	次回の資料について予習
2-5	受講生各自のテーマの設定。研究方法の確認。論文の枠組の検討。	演習	各自問題意識と研究テーマを確認する。
6-9	文献・データの整理。先行研究の検討。	演習	必要な文献やデータを収集する。
10-15	卒業論文題目提出。各自研究報告と討論。	演習	各自の研究の進捗状況をまとめる。
16	草稿の提出	演習	卒業論文全体の草稿を準備する。
17-24	草稿の内容の改善、データや文献の補充。	演習	草稿の修正、補充を進める。
25	ゼミでの発表会	演習	卒業論文を完成させる。
26-27	完成原稿の最終確認、提出。	演習	卒業論文を完成させる。
28-29	卒業論文要旨集の原稿作成。	演習	卒業論文の要旨をまとめる。
30	卒業論文発表会の準備。	演習	発表会の準備をする。
	卒業論文発表会		

備考	
----	--

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし											
講義回数				1	2-5	6-9	10-15	16	17-24	25	26-27	28-29	30
発見学習／問題解決学習													
体験学習／調査学習													
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク													
その他（ ）													
内容													